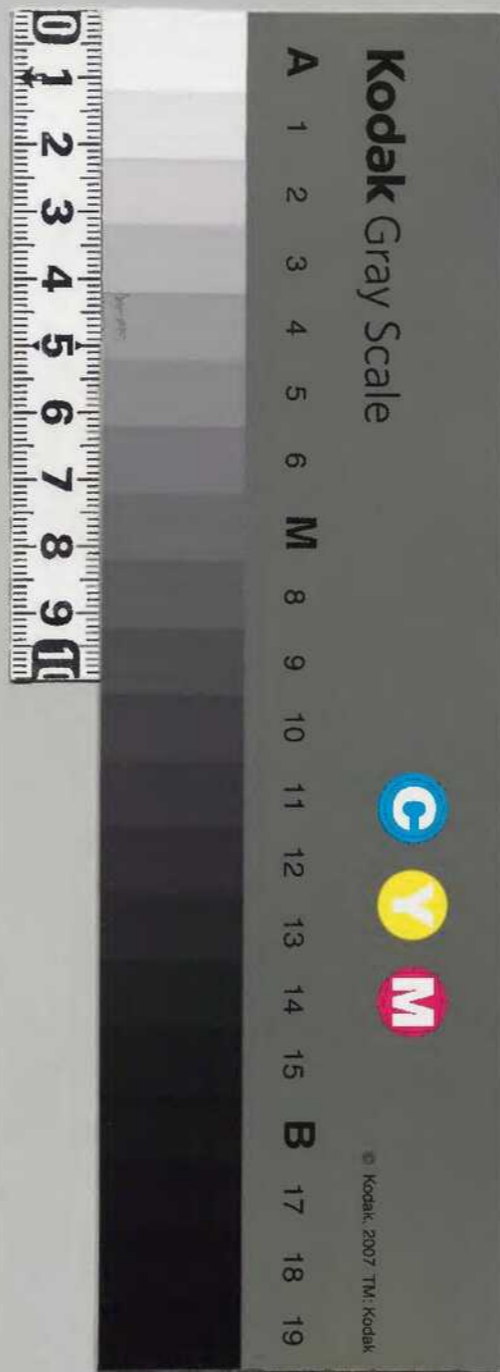


武家事紀

和書門類	二五七〇號	九七函	二〇冊
------	-------	-----	-----

内閣文庫	和書
二五七〇號	九七函
二〇冊	

内閣文庫	
番號	和 25170
冊數	30 (13)
函號	148 2



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

武家事紀卷第二十三目錄

續集

戰畧

美濃國
関ヶ原上

自慶長五年正月迄八月
附景勝等押所々番手

武家事紀卷第二十三

續集

戰畧

関ヶ原上

慶長五年正月元日源君大坂西丸ヲ御越羊豊臣秀頼卿ニ

御對面羊始ヲ賀シ玉フ而ノ天下ノ大小名西丸ニツマリテ各

羊始ノ拜禮アリ

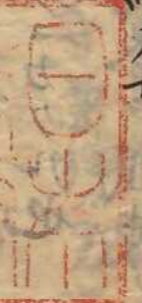
廿九日上杉中納言景勝參勤延引ニ付テ風説不止ニ因テ

實否ヲ糾シニタメ且景勝ヲ風諫ノタメ源君ヨリ伊奈圖書ヲ

會津ニツカワサル圖書今日會津ニ下向

三月森右近大夫忠政信州川中嶋ヲ賜フ川中嶋ハ元森武藏守

長三平信長ヨリ賜ルトイヘ信長被弒トキ川中嶋ヲ



淡路島上
自慶長五年正月元日
武藏守
森右近大夫忠政
川中嶋ヲ賜フ

ステ、上洛ソノアトラ上杉景勝領ス景勝會津へ所替ニ
付テ川中嶋松代ヲ田丸中書ニ賜リ信州 三万石飯山ハ関長門守ニ賜ル
森ハ美濃国金山ニ在城ス今年春旧領川中嶋ヲ忠政ニ賜テ
関田丸ハ濃州土岐多羅岩村ニ取替ハ此既関カヲツカリ領
信州善光寺ノ近所カジロト云処ニ佐野理左衛門尉其比号 八左門尉
居タル屋敷ヲ百姓片一揆ヲ起シトリマク理左衛門尉弟
七左衛門トモノ精兵ノ射キテ一揆凡十七人ヲ射タラスニ因テ
一揆シラムニ付無難引取也森忠政所替ノ後右ノ一揆凡ラ改ッ
八十餘人川中嶋ニ夕モニカクル也

夏四月カサ子テ上杉景勝違参ヲ諷諫ノタメ豊光寺瓦長老

方ヨリ景勝カ家臣直江山城守兼継カ方マテ四月朔日書ヲ

ツカワス兼継カ返簡今月末ニ上著書面甚無礼ソノ上景勝

別心ニ疑ナケレハ乃景勝退治ノタメ源君會津へ御出馬定ヘリ

五月七日奉行

各連判ノ書付ヲ源君へ捧奉リ上杉ヲ誅伐之度

今年ハ先延引アコシ度可然直江兼継一向田舎人ニ萬事

不調汰度多クハ源君憤ヲヤメ玉ハコトヲ云源君不肯

六月六日大坂西丸ヲイテ上杉景勝征伐ノ評議ノツテ四方ノ

寄手ヲ定メラル大寺白川ハ源君兵秀忠卿結城三河守秀康

信夫口ハ伊達政宗在大坂 米沢口ハ取上出羽守義光在大坂

和州米沢城主三拾万石

駿州府中城主三拾万石
中村式部少輔一氏

中老

丹波龜山城主五万石
前田徳善院玄以法印
江州水口城主五万石
長束大藏大権白家

越前国府中城主五万石
堀尾 帯刀吉晴
讚州高松城主三万石
生駒雅樂頭云成

羽州山形城主百万石程

奥州仙臺城主六拾万石

山北諸將南部津涇戸沢六卿等津川只前田肥前守利長

同能登守利政後醍醐天皇御孫越後守秀治并与力侍也山東口佐行

石京大夫義宣也七月廿一日大手搦手一度二膳令可押入

ト相究リ東国奥州北陸道ノ諸將其外軍勢皆服ヲ

賜

九日源君伏見城ニ御留守居ラ定ムル本丸ニ島居彦右衛門尉元忠

西丸ニ内藤弥二右衛門尉家長大平八松平主殿頭家忠

松丸ハ松平五左衛門尉近正也秀頼ヨリ木下若狭將豊臣勝俊

後号長嘯ト大將ヲ兼テ西丸ニ居ス大坂西丸ニ佐野肥後守元綱

御留守ヲワトシ源君渡邊半藏守綱ニ南蠻鎧ヲ賜ハリ

且足輕五十人ヲ加賜ノ以上百人

十六日源君大坂ヲ立テ伏見城ニ至リ至テ此處へ大坂ヨリ

堀田圖書盛重伊藤丹後守兩人来リヒラシメ石田治部少輔三成

逆心ノ意ヲ告来ルテ云ヘ伏見ニ日御逗留シテ御留守ノ事ヲ

委ク命セラルル十八日大津ニ御着京極宰相高次カ館ヲイテ

饗応セラルリ今日ハ石部ニ御寄宿也長束大藏左衛門家

父子マニ来謁ノ明日水口ヨリイテ御膳ヲ可上定テ約シテ

歸ルソノ夜丑ノ刻ニ石部ヲタセ賜テ夜中ニ水口ヲ通ラセ玉

イ長束カ丸ノ御使アリ路次ヲイウカセ玉フニニヨラセ玉ワサル

ト也乃国光ノ御腰物ヲ被下正家モ土山ニテ見ヲクワリニ

出十九日勢州関地蔵 九里半 七町 二十日同州四日市 六里半 十四町

今晚四日市場ヨリ御船ニ召レ二十一日ノ晚ハ三州篠嶋ニ

御舟ヲ載ラレ田中兵部少輔御膳ヲ上曉同州吉田ニ御著船

池田三左衛門尉御膳ヲ上遠州白須賀ニ御泊 四里半 十町 二十三日ニ

遠州濱松ニライテ堀尾信濃守御膳ヲ上 七里二町此内 今切舟渡有 同州

中泉ニ御泊二十四日佐夜中山ヲ山内對馬守昼御膳ヲ上

駿州嶋田ニ御泊 八里此内 大井川ヨリ 二十五日駿府二丸中村式部少輔家老

横田内膳ヲ宅ニテ御膳召上テ御膳過テ中村式部少輔一氏

カゴニ乗ナガラ御前へ伺公源君一氏カ病体ヲ御覽アリ

テ大キニ驚五ノ一氏モ涙ヲナガシ拜ニ奉リ又舌内モ不

心駿府御著座ノ中御供ノ衆鞠子ヨリ先へ参ルニキノ由

命セラレユエニ御人数多シ今晚同州清見寺ニ御泊 十里 八町

廿六日治津ニライテ中村秀左衛門尉御膳ヲ獻上シカニ

本多佐渡守大久保相模守其外御家人ヨシマニ御迎來ル

其晚ニ三島ニ御泊 十里半此内 富川舟渡 二十七日相州小田原 八里 菅根山

二十八日同州藤澤 八里二町此内 馬生川舟渡 二十九日同州鎌倉へ渡御也

廿五日水野和泉守忠重池鯉鱒ニライテ 尾州加賀舟渡人一万石 加賀ノ井沢八郎ヨリ

殺害セシ初堀尾帶刀吉晴會津へ供奉タマ越前国府中ヨリ出テ

子息信濃守カ濱松ノ城ニライテ源君ニ拜謁ス吉晴事

宜ニ府中ヨリ三成カシカタヲ可考由命セラレハ帶刀

府中ニカヘルヲ^{三州}為屋ノ城主水野和泉守池鯉鮒出テフルニ
 加賀并弥八郎モコニ出合テ食後日暮前ニ弥八郎忠重ヲ
 撃テ殺ス帶刀乃弥八郎ヲ突伏ス或云水野家臣 鈴木与八郎殺之水野カ家来帶刀
 加处為^ト疑テ帶刀ニ切テカリ^リ瘋ヲ蒙帶刀蠟燭ヲフ^レケシ^ソノ^コト
 ヲ^リヲ^云漸外^ハ出テ^出岨崎^ニ入吉晴在蒙瘋外^ハ出^シ家人伊奈伊織羽渡之
 長刀持^リ肩^ヲ引^キ刺^シ岨崎^ニ長刀持後改^メ
 森岡右衛門為^レ士^列

七月朔日源君武州金沢御一覽二日ニ江戸へ御著

會津御征伐ニ付大坂御進奏ノ節御家人供奉ノ人々

- 肥後守直親之男 平八郎忠高之男
- 井伊兵部少輔直政 上州高崎城主 拾二万石
- 忠勝之男 本多中務太補忠勝 上州多喜城主 拾万石
- 本多美濃守忠政 志勝次男
- 本多内記忠朝 後号 出雲守
- 榊原式部太輔康政 上州館林城主 拾万石
- 酒井宮内太補家次 上州碓氷 万石

河内守直忠男 武州河越内
 酒井右兵衛大夫忠世 五千石
 相模守忠隣男

大久保加賀守忠常

美作守信昌男 奥平大膳大夫家昌

志迎大夫貞慶男 小笠原信濃守秀政 德州古河城主 二万石

竹谷玄蕃允清善男 松平玄蕃允家清

一西男 戸田采女心 氏鉄 後改 左門

二信男 本多上野介 心純

志成男 青山伯耆守忠俊

伊与守三勝男 阿部備中守心次

高力左近大夫長房 武州岩槻 二万石

左衛門尉忠次男 大久保次右衛門忠佐 上州袁原 五千石

奥平美作守信昌 上州官崎 二万石

平岩主計頭親吉 上州厩橋城主 三万石

小笠原掃部大夫信頼 武州本庄 一万石

戸田左門 一西 武州ウヒライ 五千石

本多佐渡守心信 上德長南 一万石

青山常陸介忠成 相州中郡 五千石

松平和泉守忠次 上茨郡波 一万石

本多豊後守康重 上州白井 二万石

菅沼大膳亮定利 上州吉井 二万石

高左門康高男
大須賀出羽守忠政 上徳久苗利 三万石

松平内膳正忠吉 上州松山 一万石

石川長門守康通 上徳鳴戸 二万石

此外御供若干也

元諸大名順路ヲ歴テ奥州ニ趣ク人々

福嶋左衛門大夫正則 尾州清洲城主 拾二万石

福嶋掃部頭正頼 勢州長嶋城主 三万石

池田備中守長吉 因州鳥取城主 六万五千石

池田吉左衛門尉 順慶子

筒井伊賀守定次 伊州上野城主 八万石

田中兵部少輔吉政 三州畠崎城主 拾万石

長岡越中守忠興 丹後丹波後園 杵築城主拾一万石

山内對馬守一豊 遠州掛川城主 六万石

有馬玄蕃頭豊氏 則頼男

中村彦右衛門尉一栄 一氏才 遠州高田寺 城主

藤堂宮内高貞 高虎養子

黒田甲斐守長政 豊前小倉城主 拾三万石

生駒讀岐守正俊 讚州高松城主 拾七万石

富田信濃守知信 勢州阿津 七万石

稻葉藏人通茂 勢州田九但居城ハ 同州若子四万五千石

中村氏病死 菅沼新八郎 定仍在藩 駿府及 高田寺 定仍者 定仍子

内藤三左衛門信成 豆州垂山 二万石

天野三郎兵衛康景 政州高田寺 但園原後領人

本多維殿久康俊 下徳佐倉内

同刑部大夫正之

池田三左衛門尉輝政 三州吉田城主 拾五万石

池田与市郎長幸

京極徳理大夫高政 信州飯留城主 八万石

淺野左京大夫幸長 甲州府中城主 二拾一万石

同民部少輔長頭

堀尾信濃守吉氏 古晴男 遠州濱松城主 拾二万石

有馬汰印則頼 遠州横濱賀城 三万石

中村一角一忠 一氏男 後州府中城主

藤堂佐渡守高虎 源助虎高男 孫州令治 八万石

加藤左馬助喜明 三之丞喜男 孫州真崎城主 拾万石

蜂須賀長門守至鎮 阿波守家政男 阿州徳山城主 八万石余

寺沢志广守廣高 肥前唐津城主 拾二万石

古田兵部少輔信勝 信長才 勢州松坂城主 五万四千石

織田有樂長益 陸万石

有乐男

織田河内守長孝

長近男
金森出雲守重頼

昌時男
德永左馬助昌重

安心入道男
宇喜多左京亮成政

初名号平左門
本多因幡守正武

初名号近
松倉豊後守重正

作勝男
吉田織部少輔重勝

市橋下總守 正徳

龜井武藏守政宗

舟越五郎右衛門

池田弥右衛門尉

三好新左衛門尉

津田小平次

秋山右近

赤井五郎作

兼松亦四郎

山名禅高豊国

西尾豊後守忠照

極樂院

山岡修理

俗名五郎八
金森法印長近

大陽寺喜隆男
德永下總入道法印

九鬼長門守守隆

止肩
戸川肥後守正利

分部左京亮政壽

小出遠江守吉晨

法印子
来山相模守一貞

石川伊豆守貞政

池田備後守知政

佐久間河内守政実

同為三

神保長三郎

中川半左衛門尉

出田助右衛門尉

長谷川甚兵衛尉

山岡道阿弥

松井平左衛門尉

岡田小五郎

能勢治右衛門尉

飛州高山城主
三万八千石

飛州松木

志州島羽城主

備中国庭瀬
二万石

勢州上野
壹万石余

紀州内

信州長谷
二万石

岡田藤五郎

柘植平右衛門尉

別所孫二郎

村越兵庫頭

羽柴左近大夫秀俊道ヨリ五掃
与三成

一柳監物 真盛尾州黒田
城主三万石

天野周防守景俊

京極丹後守高知高政子

河村助左衛門尉

佐藤三河守

中川助左衛門尉

平野九左衛門尉長重刺髮
号長元

中村文藏

佐久間久右衛門尉安次初柴田勝家
家臣

清水小八郎

溝口源太郎

野間久右衛門尉

野尻喜太郎

洛泉院

堀田若狭守重氏秀吉
鷹師頭

若尾半左衛門尉

鈴木越中守

水野河内守清忠

大谷刑部少輔吉隆越前敦賀城主
拾三万石 三成

石川玄番允康長伯耆守數正男
信州松本城主
八万石

津田長門守信成山城国三牧
一万三千石 三成

秋田城久実季别名棟太郎
奥州三春城主
五万石

奥平藤兵衛信昌子
九月十五日秀秋之使
行途ヲ討死母
三百俵賜

小城宮内少輔

丹羽勘助氏定源君
御家人

大嶋雲八

落合新八

能勢惣左門尉

同 源六

岡部泐齋

堀田権八

伊丹兵庫

仙石少貳

佐、淡路守行政秀吉
鷹師頭

森惣兵衛尉

此外人數若干也

源君會津御征伐軍令ヲ出シ玉フ

七月十三日石田三成大谷吉隆廻文ヲ諸將ニシテ逆心ヲ企

大谷刑部少輔吉隆事源君へ別心ヲ不存ノユヘニ志ル

五日敦賀ヲ立テ江州佐和山ニ至リ三成同道ノ會津趣ントス

シカルニ三成逆心ノ企ヲ大谷ニ告テ同意ノ返ヲスル大谷

諷諫ヲ尽ストイハレ三成不肯存ツイニ同心シ今日三日先諸大名へ廻文ヲ

マシテトク味方ニ引ワクル也中ニ毛利輝元字喜多秀家

ハ中国ノ大名也其上太閤秀吉以来五老ノ列スルハ西人

ヲ引付ズシテハ事不可計トテ輝元ヲカキライ秀頼卿十五歳

マテハ天下ノ政勢悉ク輝元ニカスル由誓状ヲ与フ輝元

臣渡辺飛騨諫トイヘトモ輝元同心セスヤカテ大坂ニ至ル

大坂西丸源君ノ御留守居佐野肥後守元綱在城ス人数

凡五百余奉行トモ使ヲ立ツイニ佐野ヲ追立テ西丸ヲ

ウケトリ毛利輝元ヲ西丸ニラシム佐野ハ伏見ニ落行テ

籠城ノ兵ニ加ル

十九日前田利長カ方へ三成カ廻文到來利長不肯是言

リテ利長會津へ不下越前ノ逆後ノ退治ヲ用意ス

十六日大坂ニライテ諸大名ノ人質ヲウケトリ城中ニ可入室ム

關東へ發向ノ大名妻子マテ可取入ニキリセリシカル處ニ

長岡越中守忠興カ妻ヲラ城ニ可入ノ旨ヲ告ク妻不背ニ付テ
明日コラ可取圍ニキワマル 加藤清正カ妻ラハ家臣大木土佐守
又スミ出ノ肥後國へ行ナリ清正妻テ
三成ト不快ニヘニ大木ヒソカニツレガルナリ里田長政カ母美妻大坂ヨリ
又スミ出シ官崎織部臺前ノ國エヨレユク也

十七日毛利輝元宇喜多秀家徳善院玄以汰印増田君門尉
長盛石田治部少輔三成長東大藏太輔正家等各連判ノ
源君ノアヤマリヲ十二箇条書付是ヲ伏見城ニツカリシテ急キ
城ヲ可明渡ノ旨ヲイッカラス伏見ノ守將コレヲ不肯ニ付
乃伏見ノ城ヲ可攻手配ヲナス木下若狭少將秀勝ハ城
ヲ逃テ京都ニ奔ル

長岡越中守忠興カ妻女ヲ宅ヲ困ム妻女八歳ノ女子五歳ニナル

男子ヲサシ殺シ自殺家ニ火ヲ付テ燒去家人小笠原正齋

川北石見自殺稻留伊賀後号一夢逃亡ス 忠興室者明智
光秀女也出齋

妹若狭國武田氏室于取号宮川逃建仁寺目之人質ヲ取入更止
迷長元母也与市郎室ハ前田利長女也且ハ宇喜多秀家宅逃

今日十七日諸大名衆因持ハ輝元秀家小身衆ハ前田

玄以増田長盛長束正家書簡ヲ通シ家康公ハ非テ斷ハ

催促ヲイタス前田利長及堀尾帯刀以下ハ下ノ書ヲ遣ス

十八日三成諸方ノ寄手ヲ定メ軍勢ヲ手配ヲナス伊勢口ハ

八毛利輝元宇喜多秀家筑前中納言言秀秋土佐侍從

大津宰相京極高次立花左近將監宗茂久留米侍從 藤田四郎
秀包

三万石

筑紫主水義冬 鍋嶋信濃守定茂 肥後中務少輔安治

堀内安房守羽柴下總守勝雅 山崎右京定勝 蒔田權佐

中江式部少輔有澄 長束大藏太輔正家 都合七万九千八百

六十人 美濃口八岐阜 中納言秀信 稻葉右京亮貞通

父子 小西撰津守行長 稻葉甲斐守石田治部少輔三成 都合

二萬五千七百人 北国只大谷刑部少輔吉隆 若狭少將秀俊 木下

宮内少輔丹波衆七頭 但馬衆二頭 木下山城守 大谷吉隆

戸田武藏守重政 豫州守和嶋城守 豊後府内城守 福原右馬助直高 溝谷三郎

上田主水寺西下野守 奥山雅樂助小川土佐守祐忠 生駒

雅樂助正成 其身病氣 蜂須賀長門守至鎮上 青木紀伊守

青山修理亮都合三万余人 勢田橋九在番 太田飛騨守政信

同美作守垣見和泉守家純 豊後富木 熊谷内藏久直陣 豊後守書

秋月長門守種宗 日州高鍋 相良左兵衛頼定 肥後東麻 高橋右近長行

伊藤豊後守中川依理太夫 豊後竹田 木村弥市右衛門令

六千九百余人 信濃口八真田安房守父子 上田ヨリウツテ出テ

中山道ヲサシフサクヘシ大坂留守居者小性衆七千五百人 并

馬廻衆八千餘人 弓鉄炮足輕五千九百人 前備後備六千七百人

輝元德善院玄以法印 增田長盛留守居タリ 合四万二千余

都合三成同意ノ人数拾八万四千余人 此内関東内通ノ 逆徒

各面ノ持口ハ口口立テ路次ヲ塞閉東ニ敵大 兼平氏家内膳奉行屋 神戶羽柴下野守 三浦勢州内

此州須本三万三千石

濃州岐阜城主二拾五万石 濃州郡上城主五万石

肥後守土城主七万六千石 平信忠男

大谷吉隆

豊後府内城主二万石

与州今治城主七万石

越前北庄八万石

此州浪人

豊後守書

肥後東麻

信州

信州

此内関東内通ノ

兼平氏家内膳奉行屋

神戶羽柴下野守

三浦勢州内

龜山八田本下野守

二万石

伊勢口七月

十九日攻河津

城其日隔此

寄手直圓

松坂

丹後田邊城

七月廿日攻之

八月二日降

伏見城七月

廿日攻之

八月朔日隔

大洋城八月

七日攻之

濃州三月降

福東要亭

十七日隔

高須城九月

隔

十九日中納言秀忠卿會津征伐ノタメ今日自武城御出馬

榊原式部太捕先陣多^{下野守}秀康忠吉并^{下野守}御家人悉御供凡

ノ軍勢六万餘浦生秀行會津ノ案内者多リコトニ秀行家人

大半上杉景勝外ニ有之秀行宇津宮ニ在城旁以先陣ヲ乞

トイハ^{下野守}御嘉例ニラセテ^{下野守}榊原勤之ニ秀行ハ檜原時ノ先

陣ヲユルサ^{下野守}榊原式部太捕康政松平飛陣守^{奥平}

舎弟下總守清匡并伊兵部少捕直政本多中務太捕

忠勝酒井宮内少捕家次同右兵衛大夫忠世浦生飛陣守

秀行^{野州宇津宮城主}森右近大夫忠政^{信州松代城主}石川

玄蕃允康長^{信州松代城主}山石越前守忠俊^{信州小諸城主}

皆川山城守信正^{野州皆川}成田左馬助^{野州烏山}真田安房守

昌幸^{信州上田城主}真田伊豆守信之^{上州沼田}同左衛門幸村水谷左京

山川民部少捕朝信日根野徳太郎^{後任}等供奉^{筑後守}

廿日石田三成兵ヲ堯ノ丹後因田邊城ヲ攻ム城ニ長岡兵部太捕

藤孝入道幽齋玄旨楯籠初メ丹後ハ長岡カ領国也然^{藤孝}

隱居後丹後宮津在城ニ嫡子越中守忠興田邊在城ニ細川玄蕃ハ

峯山在城忠興太丰豊後国杵築ヲ賜テ杵築ハ老臣ヲ以テス殊ニ

今度関東ハ堯向ニ付テ兵士コトニク忠興ニ付テ下ルコトニ

田邊以外無勢ナシハ宮津ノ城峯山并ニ松井佐渡守カ身城

ヲモアケテ田邊城一ヶ処ニホム寄手小野木縫殿助谷步羽守

丹波佳入一万石

一万石

一五千石

泉州岸留城五八分石

藤掛三河守高田豊後守

別所豊後守小出大和守吉政

後改

俱州豊岡城主二万石

播磨守杉原伯耆守長房生駒左近大夫正也小野木縫殿助

常三長岡ト不和ニ付昼夜ノイトマナク攻トイヘ尺城兵堅守

伊賀国筒井伊賀守之次々居城上野ノ城ヲ伊勢口ノ寄手

大軍ヲ以テラシヨセ先口使ヲ立テ城ヲ請取ニト云城兵則城ヲ

明クヲユヘニ新庄越前守在番トメ上野ニ居ス

廿日源君江戸ヨリ御出馬江戸御留守武田信吉万石代依母氏号

武田守康元隠岐守定勝兄青山常陸公忠成下徳国閉宿城三万石後改播磨守

内藤修理亮清政甲州人西九石川日向守家成但前左衛門大夫康通

ト云後改日向守ト上徳国鳴戸二万石賜隠居後豆州家成爲御留守居按泥五千石賜

板倉四郎左衛門尉勝重後任子時河奉行伊賀守物頭加藤喜左門

美ニ奥平美作守信昌モ警御留守ヲツトム

逆徒今日伏見城ヲ攻ム寄手ハ筑前中納言秀秋寄石城良方

宇喜多秀家大隅薩摩兩國主嶋津兵庫頭義弘鍋嶋信濃守之茂肥前国佐賀城主三拾万石

増田佐右衛門尉増田長盛家人各代トシテ出見長束大藏権五郎家秀頼卿

馬廻野村肥後守入道父子美ニ物頭ニ鈴木孫三郎重朝後改雜賀守

川口久助等并三成カ家人高野越中守モ相加ル

廿三日佐竹右京大夫義宣カ方源君ヨリ嶋田次兵衛ヲツ

カワサテ軍勢ヲ催促シ玉フ義宣不応貴命ニ

廿四日源君今日野州小山へ御着座処鳥居彦右衛門尉元忠カ

飛脚到来シテ逆徒蜂起ヲ告ギニ因テ逆徒可取圍城々
伊勢美濃尾張ノ諸將ハ先達テ可帰城旨申セラル

尾州清洲ノ城ニ生駒隼人尾州系リ在人生駒八郎右衛門尉子也
初隼人為蜂須賀達庵養子号蜂須賀

隼人後還八郎左門尉家後改
因幡守刺髮号露月ソノ比浪人ナリシヲ福嶋正則ヲ

ミテ留守ヲナサシム隼人カ父ハ八郎右衛門尉ハソノ比入道ノ遊客ノ

身タリ岐阜廣門秀信ヲ入道ヲ呼出シテ正則カ留守清洲ノ

城ヲ可乘取ララ相談ス入道元來織田家人ナレハカイミシクタノ

一ニ在ノ人数ヲソメ且控用意ヲ叔子隼人先ハ案内シテ引イ

タスヘキ旨ヲ告ク隼人不肯一旦正則ミタシニ城ヲツカリテ父ノ

命ナリトテニ心ヲ存セシト非本意入道殿元ヨリ織田譜代ノ人ナレハ

秀信ノ手ヲ引玉心一可然古ヨリ父子ノ軍ナキニ非レハ不

苦ト云入道大ニ驚キ老テハ子ニ殺ラセテナラナイナレ隼人カ

云処ニ可殺トテ秀信ニ不与コユニ清洲ノ城責モヤミス

廿五日水野忠重カ事ニ付テ水野カ家臣上田清兵衛登次兵衛

同久兵衛カ方へ源君御方ヨリ御直書ヲ賜テ左衛門勝成後任
日向守

ヲ忠重カ遺跡ヲ相續ノタメニ被遣一ニ命セラル六右衛門尉

モソノ比ハ毛利輝元カ家臣備中国成羽城主三村紀伊守カ元浪人

分ニテ有之シナリ初ノ水野カ横死ノ事何ノ子細モ不知下野岡小山

ニ昔来ル早速宇津宮ニ達ス時ニ諸將群議メ是堀尾カ野心

カ然ラハ子息信濃守吉氏ハ宇都宮ニ在リ渠ヲセメテ実否

ヲ糺サレハミヤト云ケシハ秀忠卿カ子テ吉氏ニ懇遇アリケルニ是
言晴カ所為ニアルヘカラス若左存ルニシイテモ信濃守ハ天性律義ナ
ル者ナリト宣テ不糺之追付又荊屋ヨリ使者来テ加賀并カ懐ノ
證文等ヲ持参ス 加賀并左郎カ死骸ヲ故マケルハ懐ニ通ノ届状アリ徳川殿
与カノ大名一人殺サハ拾方石ヲ可与ト各クルニ成カ證文アリ
今日諸大名源君ノ御旅館ニアツマリ上方逆徒蜂起ノ言ヲ
議ス上座ハ織田有樂長益未座ハ市橋下總守正綱也源君チニ
巻物ヲ持セラレ出座ミシクテ大坂奉行衆ヨリ家康アヤマリノ
條ミラ唇立テ伏見テテコシヤサル也一々家康チカイアラサレ尼如此カ志
皆家康諸度イロワセマシキトノイハレ各一覽アトテ出^{シテ}之^ニ橋^ヲ仰^ルハ
信長佐和山通 五フトキハイカ様ニテ通り五フト尋玉フ一橋ヤ六八別ナリ子細意向
山ニ押テ置テ通り玉ト各而ノ入御也御逆徒ノ輩ニワカニ此御様ホヲ見ケルニト

其後山岡道阿弥岡江雪ヲ以テ諸大名仰せ凡ハ上方ニ人質有之六
早ニ上方ヘ上テ逆徒可被与有無ニ戦家康一身ニ可任軍勝負
正則スミ出テ自余ノ異見ヲ問ニ不及其ニシイテハ源君ヘ
無ニニ与シ奉ルヘシ上方ノ人質更ニ不及願也乃居城ノ
清洲ヲサシアケ上方御退治御座城夕ラシムヘシトイフ次ニ
淺野左京大夫幸長亦同定コノユヘニ大小名悉一同ニ不存異
儀旨ヲ云兩使カヘツテ此旨ヲ上達スシテ又兩
使ヲ被出上方ノ逆徒ヲ可被罰カ直ニ上杉景勝ヲ退治
セラルヘキカト各ノ異見ヲ聞召ヘキトナリ各上方ノ逆徒不且

御退治アツテ可然ト申上ル且井伊直政本多忠勝出座
會釈アツテ富田信濃守分部左京亮政壽古田兵部彌
信勝筒井伊賀守定次稻葉藏人通茂福嶋掃部頭正頼
徳永下總入道昌時同左馬助昌重市橋下總守正綱山岡
道阿弥 俗名八郎左門 此輩ノ城々逐後先ウツフノ由
キコヘアツテ急己レシカ領分ニ歸ルヘキノ旨ヲ命セラレ

伊達政宗今日白石ノ城ヲ攻取政宗六月十四日大坂ヲ立テ
佐竹岩城相馬ヘカリ七月廿二日下着中一日人馬ノ足ヲマシメ
廿四日荊田郡白石城ヘ押寄テノ城ニ上杉景勝カ老臣

甘糟備後守

近江守子
景時

在城也備後守ハ會津ニ居テ其兄壹坂

式部有之城中無勢也政宗カ兵力戦メ廿四日ニ三ノ郭ニテ
兼破今日甘糟カ兵力屈シ政宗カ兵石川大和守ヲタシ
城ヲロクシテ會津ニ退寄テアトヲツケルヲ富沢吉内ニカリ
シテ引トリヌ政宗濱田治部ヲ白石城ニ入置ク

廿六日會津ヘ寄テノ旨々源君御書ヲ賜テ上方逐後誅
伐ノ事ノ御業向旨ヲ告ラレ

筑前中納言秀秋カ使者平岡石見守今日黒田甲斐守長政
カ陣ニ至テ味方ニ可参ノ由ヲ告

今日前田肥前守利長同能登守利政加州大聖寺ヲ攻シカクメニ

金沢ヨリ出勢ス

廿七日上方逆後ヲ退治ノ面々今日ヨリ野州小山宇津宮ヲ立テ
順路ヲ経テ歸城セシノ清洲ニ待合スヘシト仰出サレ

一番福嶋左衛門大夫正則加藤左馬助喜明長岡越中守
忠興黒田甲斐守長政田中兵部大捕吉政同民部少捕
長頭藤堂佐渡守高虎京極修理大夫高政同丹後守
高知二番池田三左衛門輝政淺野左京大夫幸長有馬
玄蕃頭豊氏松下右兵衛佐吉綱山内對馬守一豊堀尾
信濃守吉氏池田備中守長吉一柳監物直盛三番勢
蜂須賀長門守至鎮生駒讚岐守正俊寺澤志ノ守廣高

金森法印長近同出雲守重頼此外小身之輩ハ其
遠近ニ随テ先向ス源君ヨリ井伊兵部少輔直政本多
中務太捕忠勝ヲ御目代トシテ清洲ニツカワサレ

一本八月朔日ヨリ分國ハ
先向ト云ハ非也

真田安房守昌幸同左衛門幸村會津征伐ノ催後上野
ニテ来ルトイハ凡三成カ廻文ニ応メ大伏ヨリ取テカヘスコノトキ
沼田ニ立寄真田伊豆守信之ニ對面シ直ニ上田ハル伊豆守
信之ハ源君ニ屬ス是ニ依テ本ル廿四日源君御書ヲ信之
賜テ此度父子引リカシ逆後ニ不与トテ感懐シ五ノ今日
又御書ヲ伊豆守ニ賜テ父安房守ガ領分信州小縣ヲ伊豆守

賜ルノ由命セララル

諸将ノ人質直ニ江戸ニ留置
或三州吉田城ニ入置也

今日源君土方勘兵衛尉雄久ヲ配所^所ヨリ召出セ^テ加州
煎田^カ方へ被遣^ラ上方逆徒退治ノ義ヲ煎田兄弟ニ命
セラ^レ大野修理亮治長モ配所ヨリ召出サ^レ

廿九日凡廿七日ヨリ今日ニテニ上方へ奔向ノ大小名皆進^出

奥平藤兵衛

美作守
信昌

路次ニテ使^ト被遣上方へ奔向諸將

ヲチギライイ^五フ

晦日 廿一日ヨリ伏見城ヲ攻ルトイヘ^ニ城兵堅守矢至^ラ

モ^テ寄手討死多カ攻ニナリカタキ^ニ处江州永原ノ代官

深生清十郎与カ廿騎足^テ澄百名^ヲシテ伏見松丸^ニコ^シ其外

江州甲賀衆并ニ伊賀衆皆楯籠リ松丸名^ニ菴屋丸有

之然ルニ増田右衛門尉長盛長東大藏太補^ト家等カ^ハ分

ライトノ永原兵甲賀ノモノ^トモ^ト妻子ヲ名ヨセ城ヨリ見ル^ル处ニハ

夕モノニカク^テノ後寄手ノ内浮貝庄助ト云モノニ夫文ヲ城内へ

射^ツセ城へ別心イ^タシ寄手ニ加^ハ妻子ヲ元^シト^シ上ニ恩賞ヲ

与^ユエ^シ不然^ハ如此不^レ残^レ妻子ヲハ夕モノニ^テ截^テ首増田殿長東^反

ヨリ仰^フセラ^ル若ウ^ラキリセハ城中ニ火ノキヲ可^ク上^ラレ^テ

相図ニ可^ク攻入ト云^フクル^ル至廿九日ノ夜半ニ松丸ニ火ヲ^テク^ル其

煙ヲ^シテ寄手一同ニセ^メ入^リ秀秋ノ兵尤^ク功アリ^シ松丸ハ秀秋手^上

三右衛門名^ニ菴屋丸ハ秀秋老臣松野主馬一番^ニ采也鍋嶋カ^チニ^テ

八家人成澄十右衛門尉一番采也本城ハカリニナリテ鳥居堅ク
守之

軍將ハ不及云太阿孫太郎ノ安藤次若門長谷川忠左衛門松井茂助高田八山口兵八
柴田治十郎中嶋三郎多南呂海兵衛糟谷重三郎ノ河村治之助鈴木清十郎藤江忠命
神谷甚重即河内喜平渡辺加藤福屋三藏早部千代此者凡此ハ勲イタシ付死ス

八月朔日伏見城落ル城兵悉チ死鳥居彦右門尉元忠カ首ハ

雜賀孫市討取松平主殿頭家忠首ハ嶋津家人則所圖各ト

云者討取松平五左門尉近正カ首ハ秀秋カ家人日夏角助

嶋田勘左門尉相討也内藤孫二右衛門父子カ首ハシレサル

ナリ則首取ラ大坂へ送ル松平主殿頭首ハ御一族ナリトテ

クギヤウニセタリト也大坂京橋ニ獄門ニカクル

竹菴在太鼓
丸冷木喜ハ
侍者

鳥居カ首ハ京町人
佐野四郎左門コシラ
ヌスミ取智思況ニ煙トス茶師上林竹菴峯順 同牛加石部ノ小市郎折斷
伏見へ見舞ニ至リ直ニ籠城ニテ打死但午加ハノカレサル
雜兵ハ命ヲタスクヘキ間降人ニ可出トアリイワシモ出カ子トルヲ

山岡甫菴道阿孫ニワレテ出ヘシト惣兵一決シテ云甫庵降人ノ頭ニ

伏見落城
之敗

ナリテ可出トハ本意ニアラスレカレ大勢ノ命ヲタスルトモハ

不及是流也但甫菴一人ニテハイマナレハタレナリ凡今一人可

本城鳥居
内藤父子
佐野肥後

被加ト云シカスハ深生清十郎ニ可出深生又ハ平生武勇ラア

西丸松平主殿
同上左門

ラワシ人ノ存シタルモナレハ降人ニ出タリ凡聽セルト云沙汰ハル

治部少丸
福井猪助
後城中

マシキトノ度ニテ兩人雜兵ヲ引ツテ城ヲ出則洗前中納言

名笹屋丸

三退秀秋ノ陳ニライテ降人ヲウケルトキ秀秋カ物頭本木式部此

藤山理高
甲賀佐左

内約束ヲ不知ノ深生ライマシメ秀秋カ前ニ引ズル深生右ノ

岩田兵庫
切ヨク

ワケラ云ニ付テ早ニ繩ヲトキトイハ深生一度縲絏ノ恥ニタノ一

松下孫十郎
手負死

ヲ云テ自殺ス 十月廿四日伏見城ニライテウラキリノ輩

松丸
池生清
太鼓丸
上林竹庵

セニサクアツテ忠義ノモノ_ニ是ニ籠城戦死伊賀甲賀ノモノ_ニハ
恩賜アリ甲賀ノモノ堀十内山口惣久以下水口ヲイテ十三人
ハタモノニカル也

伏見城責ノ間秀秋ノ先手松野主馬
侍可場ノ竹把ヲ城内ヨリ火箭ヲ焼立タルニ竹把前ニカ下地

ツイタシカヘヲヌル此時出テカヘシタチライタス_コナラヌモノニハキラ

コ子ヨト云ウケルニヤウヤク壁下地イタレニ出ル兵ハ七八人也

歴々ノ侍皆去ラコ子タリ中間モ出テ壁ヲヌル是ヨリヤケ立ラ

レサル也此取秀秋ノタ本ヨリ大鳴源次_ト云者使_ニ来リ仕寄先

ヨリ堀ハタメテノ間數ヲ問村上三右エ門 コノコトハ
字右エ門ト云 云十二間

ハアリタルヘシト云源次イツレモノ見分_ノ上ハ十二間_ノ凡_ハケレ_レ若

ウキテミタルト尋ノアルトキイカ_ニ作_ト云村上旗本ヨリノ使_ニ

問_ラウタセテアヤマテ_レハイカ也サ_ラハ打テ可遣_トテ壹間

竿ヲ以テ間_ヲウツ_ニ右源次間竿ノ先_ヘ出テタイラ一間二間

トサシケルニ十一間半アリシト也源次無比類勇士ナリトフ

二日 丹後國田辺城本月廿日ヨリ日夜_コシ_ラセルニ城堅ク

守ル禁裏ヨリ八條殿ウケ玉ワリ_ニテ幽斎玄旨方_ヘ勅命アリ則

徳善院玄以法印案内者_ヲテ城中_ヘ云入ル幽斎古今相傳

ノ箱證明狀歌ノ短冊并源氏抄廿代集管ヲ禁裏_ヘ獻_ス

而_メ城_ヲウカイニナリ今日玄旨高野山_ヘ退_ク城_ハ前田

丹波磐山城主五万石
或云九月十日
主膳心勤番ス
和睦

三日前田肥前守利長同能登守利政兄弟兵ヲ率ノ大聖寺^{加州}

ノ城ヲ攻メ城ハ山口^{七万石}至蕃久正弘子左京亮修弘在城ス

利長兄弟太月廿六日金沢ヲ立テ松任ニ三日逗留シ青筋兵

漆筋兩所ニテ川越アリ三堂山ニ要害ヲカマヘ岡崎備中守ヲ

置千代^{ミヤノ}寺西若狭守ヲ置小幡村三谷村ニカリ鴨野ニ宿

小松^{加州}丹羽^{舟羽}ノ城ヲ押ヘ八月朔日小松表ヲ押スル此段小松ヨリ木波ノ

沼へ櫻本源太夫上ニモノ舟ニテ出テ金沢勢ノ小荷駄へ是控ラカク

金沢方神尾因局上坂兵衛尉大橋九郎兵衛尉是控ラツシ跡ニノ

コリ船中ノ者ヲおまテ而メ小荷駄ヲ鴨野へ引付ル大聖寺ノ

城へ越前国丸岡城主青木伊賀守来リ丸岡ヲアケ大聖寺ノ城ニ

一所ニモラシ度ラ云山口不月ノ内ニ金沢勢既ニ押寄ケレ

ハ山口右京亮青木伊賀守ヲ同道イタシ物見ニ出右京方ヨ

リ足控ラカケシト青木カ兵モミシヨリ出前田利長カ兵ハ加茂野ニ

陳ラル利政カ兵ハ松原ニ陣ス城ノ大手鎗橋ハ利政カ軍

勢攻之山口右京亮防之コニテ利政カ兵山田出羽守丹羽

織部大道寺玄蕃久鎗ヲ合カ子カ丸ハ利長カ軍勢押

寄先手ノリ入横山山城守組力戦ス利長カ兵淺井左馬葛寒

隼人其外生田四郎兵衛藤掛豊前^{兩人}西村右馬允

鐵炮^{大将}氏家内藏久官崎藏人今井左太夫大音主馬各戦功

アリ富田藏人山田島六戦死而シ城ツイニ落四日山口玄蕃頭父子

臣自殺ス利長乃越前金津ノ上野ニテ癸向五本村長崎
邊ニテ手遣シカニ越前北ノ庄城主青木純伊守早馬ヲ
以テ急テ敦賀ニ告ケテ大聖寺城責ノ由ヲ大谷刑部少輔
吉隆告ク吉隆乃北陸道ノ諸勢大津宰相京極高次朽木
河内守服坂父子小川土佐守同左馬助寺西下野守戸田
濃州無井五十石武藏守同内記平塚因幡守木下山城守赤座久兵衛尉
一万余石木下官内少輔奥山雅楽助上田主水正等ヲ催促シ今日
居城敦賀ヲ立テ大聖寺ニ向

四日 今日源君小山ヨリ御師ヲカハサシ古河城ニ寄宿凡ソ
小山ニ御逗留十日也上方勢不殘引拂テ後小山ヲ立セ玉フ

上杉景勝力押勢結城三河守秀康大將トノ宇津宮ニ陳取玉フ

蒲生藤三郎秀行里見安房守忠義佐野修理大夫政綱

平岩主計頭鳥居左京亮忠政松平又七郎家信後任

等也同部内膳正長盛六野州奈須黒羽ニ在陳ス尤モ信夫口

米沢口ノ奥羽ノ勢ハ不殘ソノマ景勝ヲ押ヘシム三河守

秀康へ命セシムハ上杉景勝利根川ヲ越タリト凶ハ戦ヲナスヘシ

ト仰付元ト云々秀康シキリニ上方ノ供奉ヲ願玉ヘトモ大敵ノ

景勝ヲ押ヘシムル一秀康ニテラスシテハ不可叶ニ付堅ク命

セシテ宇津宮ニコリ玉フ 水戸會津 真田押

今日石田三成大坂ヨリ伏見ニ至リ今度伏見城責甲乙ヲ

アラタメ永原九万石源君ノ御領分ヲ戦切ノ軍ニ分千与
ニ尤金銀時ノ褒美アリ而シ大津ニ至リ京極高次ニ對面
ス此時高次家人安養寺三郎左衛門尉入道聞齋等
ニテ三成ヲ可討取_テ議ストイヘ_テ里田伊与守兵赤尾
伊豆守等不信心_ヲ交_テス高次ハ明日北国ヘ下向ニ付三成
モヤカテ佐和山ニ至ル 或云三成伏見ニ至リテ床机ニ腰ヲ
カケ軍勢ノ甲乙ヲ亂ス金吾秀秋コラ見テ大ニ怒リ是ヨリ
貳心ヲサレハサメリトツ

六日ノ今日源君古河城ヨリ船ニサレ江戸城ヘ歸セ丑ノ
今日真田安房守昌幸ガ久ヘ畱三成返簡ヲ送り信州

甲州ノ進退ヲカレニマカス

七日堀丹後守直寄ニ源君御感唇ヲ賜_テ初越後上杉
景勝カ領分ナリ是ニ因テ景勝會津ヨリ齊藤柿崎九田
等ヲ越後ニツラワシ方々ニテ一揆ヲ起サシム越後七郡ノ内
六郡ニテ一揆ヲ起シ其比越後ハ堀久太郎秀治カ領分ナリ
黒瀧城ニ堀監物塩津城ニ堀丹後守松崎城ニ柴田
源左衛門三条城ニ堀雅樂助_{監物}長岡城ニ堀美作守
下倉城ニ小倉主膳橋尾城ニ神子田八右衛門尉以上七人
村上城ニ村上周防守柴田_{五万石}溝口伯耆守兵秀治カ與カタ
リシカニ八月朔日二日一揆氏方々ニ起リ城々ヘヲシヨス上田

一揆未静而
直寄註進
一揆静謐
百或人唯
之直寄云
一揆不静
證我豈
全生守

郡下倉ノ城難義ニ及ヒ丹後守方へ加勢ヲ乞丹後守ウツ
立後詰スルノ處小倉主膳八月二日城ヨリツイテ出戦死ス
丹後守ウツノアトへヨセテ幸ニ弔命戦ヲイタシ一揆凡ラ追拂
三百余人討取一揆凡妻里ノ庄田川入小千屋近辺ニ蜂起
丹後守カ兵ニラウツ速水織部山中數馬サキカケシ二百餘ヲ
ウツリ則一揆静謐ノ旨江戶へ注進仕存今日御威書ヲ丹後守賜
此後村上溝ト三奈ノ後治ヲイタシ雅乐助カヲ付一揆ヲ追拂村六
元景勝カ臣本庄房居城ニ村上ニ本庄カ方ヨリ間人來リテ一揆起也ノ
後一揆凡下田村ニ取コモラ堀美伊守出テ追拂夏九月中マテノナリ堀
監物モ春日山ヨリ出テ拍崎追兵ヲ出シ一揆ノ下知チス
堀監物ハ雅乐助
丹後守又シ

今日福嶋左衛門大夫区則清洲ニ至ル凡ツ小山守津宮ヨリ
ハセ上ル大小名皆人質ヲ池田輝政カ家臣荒尾志广守處
ニワタシ吉田城ニ入シム此時田中兵部少輔岡崎ニアリ田中
執後守ハ西尾ニ在城ス然ルニ田中人質ヲモ不出コトニ兵部
ハ池田輝政ノ後陣ニ押ヘシト小山ニテ相究ノ處兵部本坂越
ヘカリ先へ押行ニ付池田輝政家臣竹村伊豆ニ足軽二十人
ツヘコレヲトメニツカリス竹村足軽ヲワレ先へ行宿ニ備兵部
ヲトメ輝政ヨリ跡ニヲサセシト云々
九日大谷刑部少輔吉隆ハ青木紀伊守カ乞ニヨツテ越前へ出
前田利長ト戦ヒテヲ議ス折節利長カ所縁中川宗半ハ會聖尉

夏京都ヨリ加州ニトラルトテ敦賀ニ至ル吉隆以前ヨリ茶湯ノ
友タリケレハ大谷宗半ヲ茶湯ニ事ヨセテ招寄教奇屋ニヨイ
テ状ヲコノミケルハ利長出勢ノアトヘ大谷吉隆五千ニテハマキ
ヨリ押寄丹羽長重三千ニテ金沢ヲ乗捕ハツニ死シリ必ス
熱流ヘ不可出ト云計策状ヲカシテ利長カ方ヘツクニス而メ
本ル三日敦賀ヲ去籍五宿ニ着大手搦チノ寄手ヲ定メ
大聖寺ノ後攻ラセシトスル處大聖寺ステニ落城シ前田利長
金沢ノ上野大聖寺ヨリ四里半ニ陳ラトリテ民屋ヲ放火シ北庄ヲ
可攻ト軍議ヲナス由告来ル然ハ府中堀尾兼光吉晴甥堀尾
宮内孫堀尾島解由
在ノ城ヲアトニライテ北庄ヘ出勢前後ニ敵ヲウケテ不可

然ト各コレヲ議ストイヘ厄大谷思慮ノ小松丸岡ヘカラツケスレ
テハ越前持カクメカクカルヘシ北庄ヲ堅守丸岡小松堅固ナラ
ニハ府中ノ城手ニ立ヘカラストテツノ夜ノ丑刻ニ大谷兵ヲ率メ
北庄ニ付前田利長四日ニ北庄城ヲ攻ヘキヲ上方勢昨
三日ノ夜北庄ヘ大勢下着トキイテ利長大聖寺ニ在傳ス其内ニ
中川宗半カ状至来セシカハ利長大ニ驚テ七日ノ早朝ニ
大聖寺ヲ引ハラフテ金沢ヘ兵ヲ歸八日五幸塚ノ東ノ山陰ヲ
ヲ押通り寺井北三堂山ニ陣取小松ノ城ヨリ付ルケルヘシト
ヲ五幸塚ニ山崎長門守入道閑齋大田但馬守高山南坊
横山山城守長怒菴同十郎左エ門尉等三千ノ兵ヲノコス

五幸塚ノ押勢モ利長引ドル道ヲ引取別各無之處或云八日朝子細

アルマレキトテ小松表ヲ押トラル一番山崎二番高山三番

横山也イッレモ夜ノアケサル中ニ引トル太田長カ兵ヲ引取処へ

丹羽長重カ侍大将江谷三郎右衛門酒井与右衛門大屋

与兵衛尉出向ノ江口ハ五幸塚ノ方へ打テ出大ラウノ野五幸塚ノ橋ノ下

ニテ長カ兵ニ寄合テ小松兵松村孫三郎元福富平左衛門尉家人子既属丹羽長重

其後仕兼切ライタス長カ兵ニラ馬上ヨリツキヲトス痛手

之当座ハ絶入ストイへ氏場急ニ首ヲトラス小松方團七兵衛尉

佐々多右衛門澤野二郎左衛門森野次左衛門古田

五兵衛尉坂井五左衛門尉各長カ兵ヲ討取酒井与右衛門尉

大屋与兵衛尉ハ北浅井ノ本江邊本江一直ニ押出ス浅井暁

小橋ノキリニテ大田但馬守カ兵クイ付テ戦フ小松方拜江

次大夫不破本兵衛安房左馬久成田助九郎宮田小兵衛

五人是向テ力戦ス利長カ兵松平久兵衛後改伯耆守水越縫殿助

太田カ兵岩田傳右衛門後改内藏外大野甚之丞井上助左衛門尉

上坂主馬六人ヲレト相戦フ此既本田但馬小高処へ備ヲ

アケテ横ヲウツ江口本江南蓮臺寺村高所へアカリ金沢

勢ノ猶付ヘシトイヘルヲ丹羽長重兩度軍使ヲハヒテコレヲ

トム長重モ中浅井ニテ江口トニ引トルナリ利長此夏ヲ

キ、三堂山ヨリ本江ニテ人数ヲ寄セケレ小松勢カ既ニ

引取ノユヘニ金沢勢モ引取也

七百ノ夜小松ヨリ五幸塚へ夜討ヲ可仕無評儀ノ交

大雨ニ長方兵小林平左衛門尉是輕大将也團七兵衛尉

討之

團元宰人ニテ小林カ所ニ有之此亂出未先丹羽カ所ヘナリ此可出トテ出ラ其比若敵味方トナラハワク首ヲ其方トレトザレ

コトライヘリ此取ハ不知討之小松ノ時長カ備ヘハナシ馬來リ家中ノモノ

エラトラヒトイヘリケレハ長怒菴下知ントラセサリシ也江口

三郎右衛門尉ワサト馬ヲハナシ是ヲ取ントミタルヲエラ可打

ノ心得也ヲ敗山崎閑斎日利過テ但馬カ崩ルヲイレカ

ハシト待テ居ル内ニ高山ワキノ梟手ヨリ仕カケ横ヲ入ント

スルニ小松衆皆引入ニ長後ニ南坊ニ五千石加増ヲ

山崎閑斎ハ山崎長門守ノ二男也少兵衛ト云父長門守カ孫也

生書ノ敗ハ明智所ニテ五百石也

八月十二日利長淺井ニテ戦功ノモノニ与威昏

黄金三枚贖斗付照差ヲ与ノ松平久兵衛甲前主銀ノ

鎗具是ウシロニ南無阿弥陀佛ヲカク久兵衛下ニテ家人

井口大学首ヲトル松平久兵衛相手ハ不破空兵衛若田

傳左衛門相手ハ拜江次大夫不破拜江戦死水越権殿助相手ハ

安彦左馬久井上勘左衛門相手ハ成田助九郎大野甚延相手ハ

宮田小兵衛也

孫郎利政家人山田合三門ヲ軍使トシテ惣勢折ルニキリ由コレアリ利政モ繩キト本道三股マテカレ陣ヲ備ス城兵不殘

十日石田三成佐和山ヨリ大垣城ニ入此城ハ伊藤彦兵衛

長門守

盛景子 在城ス三成使ヲ立テ此城ヲカラシテ伊藤彦兵衛

異儀ニ及トイヘ凡福原右馬助直高平塚因幡守為廣無

是非押入テ城ヲウケトルニ付テ彦兵衛ハ込所今村へ去退一説ニ長守

父子ト有之ハ亦也三成則伊藤家人伊藤頼母助同伊豫守ヲカ

夕ライ城ノ要害ヲ尋四方ヲ取ツクイ城ハ福原右馬助ヲ指

置也而ノ大垣城ヲ諸將會談ノ所トシ三成ハ岐阜へコヘテ乃

秀信ニ參會シ美濃尾張ノ手遣ヲ示シ合セ尾明犬山ノ城主ニ牒シ

合ス岐阜ノ城ヨリ十八町南福原権現ノ山ヲキニ三角外ノ

取出ヲカマヘ三成方ヨリ加勢相原彦右衛門同内膳父子兵

川瀬左馬助其外大勢指遣ス

十三日今日源君加藤清正ニ書ヲ賜テ肥後筑後兩國ヲ賜

ル間成次亦可ク付旨津田小平次佐々淡路守ニ命セラル

遣ワサレ

十三日今日村越茂助吉直ヲ清洲へ源君御使トシテ被

遣各ハ書ヲ賜リ御出馬無御油断ヲ示サレ是ハ各御出馬

ヲ待ノ旨申来ルニ付テ被遣也

十四日小山宇津宮ヨリ美向ノ諸勢順路次亦ニ段々ニ上著

本八七日八日ヨリ今日マテニ不殘參著スト云々

十五日有馬修理大夫正純松浦肥前守入道式部卿泷印鎮信

五嶋大和守盛季大村秋八純忠小西行長催促ニヨツテ居城出

陣唐津内柏嶋參着松浦大村相議ニ太閤遺命ニ源君ノ

命ニ可從トアリ然ルニ今度ハ亦専石田三成自立ハムライトキニ然ル

肥前国有馬ノ城主

肥前国平戸城主五六万三千石

肥前国五嶋一万石

肥前国大村城主二万石

是ヨリ引クニ源君可奉後ト各是ニ同シ則今日舟ヲモトシ
自國ニカヘル

十七日市橋下總守正綱張州福東城ヲ乗捕ル福東ハ丸茂即左衛

在城ノ大垣ノツチキ城又ハ兵糧用意ノヲノニ堅ク守ラシ

尾州赤目ノ城主横井伊織アツカイヌレ丸茂降参可仕

旨云ツラソシケレ丸茂不肯コシヨツテ市橋正綱徳永法印

横井孫左衛門同作左門兵ヲ出シ木曾川筋勝村船渡

ノ所ニ陳ラシ丸茂カチテ三成方張州ノ約束ニ相因ノ狼烟ヲ上

ケレハ三成カ兵前野兵庫高野越中長松城主武光式部

大垣城主伊藤彦兵衛武藤左京雜賀内膳其外大勢加勢来

テ大藪村大樽村ニ陳ラバウ川ヲクタクテ足控セリ合アリ川ハ

三町余ノイナレハウノ只戦クラシヌ然ル処ニ市橋正綱カ家子

金森平左衛門御内四郎左衛門兩人夜中ニ水練ヲツテ川ヲ

コシ敵ノ後自蓮坊村捨保村シヒ入ル百姓皆家ヲアケテ人

居ナケレハ思様ニ放火シ関ラアケシムコシヨツテ逆後マツク敗

軍ス此色ヲ見テ市橋徳永勝村川ヲ乘シ徳永ハ北ノ方追

カケテ十六騎討取市橋丸茂カアト付テ追付福東マテノ

ナワチニテ首共討取丸茂カ家人西股幸左衛門父子渋谷

太左衛門三人城下ニテアヒトマリ赤死ス丸茂城へ入トイヘ片持

コタヘカダケレハ道ヨリ川西ウチコヘ大垣へ退ク市橋ウイニ

福東城ヲ乗捕

丸氏三郎兵衛ハ兵庫頭カ子元并藤家ノ者也後信長在
度軍中アリ関原以後五郎兵衛子入道ニテ加州ニ住ス

十九日高洲城ニ高木十郎左エ門

三子ノ在城ス濃州松木城主

徳永法印昌時カ方ヨリ家人市家市右エ門一向坊主加納村

ノ宝壽坊フヒソクニ高木カ方ニツカフニ降参ノ度ラスム

高木頓テ同心シケルカ中村郷太田村ニ原隠岐寺在者野

ヲカタメ高木ニ助カシ堅ク示シ合タレハ無下ニ降参センモ

イ、カイナシ大牛馬ノ目又云、ヨリ法印押玉ナシ鉄炮

ヲ射シレヘシ甚改法印カ兵ヲ引テ福嶋カ加勢ヲ入替ヘシ然ハ

城ニテヘカタキ群ヲ示メ則搦手モスカセヘ城ヲアケテ可引取ト

ニ合ス是ニ依テ今日徳永父子免市橋下徳寺横井一族

及ニ福嶋カ兵本田将監武市内藏助梶田新助後号
出雲堀久兵衛

各一組廿五騎都合四組百騎ヲサシメテツカフ法印思集シ

ケル高木定テ搦手ヨリ退其改福岡ナラテ難所ヘカ、ラセ

一度ニ可打捕ト法印心ハヨリニ存キウメ加勢ノ面ニタハ法印

家人ニニ言合法印下知友弟ニ可仕トハカリ言旨テ出

福嶋カ家人并徳永カ兵ハヤリラ者尼我先ニト搦手成田村

ヨリラシカケ徳永カ兵河村忠右衛門真先ニリ入高木徳永

ニタカラレタリト大ニ怒ル高木カ兵川瀬平左衛門ヨリテ

寄チライタテケルカウニ川瀬戦死徳永カ兵徳永左衛門

城兵寺倉孫左衛門戦高木カ兵大ニ戦テ徳永カ兵川村

馬左衛門討取外郎ハツイニ攻ヤグラルトイハ臣二郭ノ横矢
能キテ寄手内へ入ラフ不持ルル処ニ太田村ヨリ原隠岐守
加勢ノ沙汰アリケルハ福嶋カ方ヨリ早く可引取由イッガ
コレ寄手引取 寄手へ首三
城中へ首三ヲ得 高木モ始終籠城難叶ヲ以
テ福岡ナワチニカリ 駒野ノ舟渡ヨリ引退ク原隠岐守奏者
ニテ三成カ岐阜ヨリカヘルニツヤノ原ト云處ニテ對面スヨツテ
三ノ首ヲ実檢ニ入三成黄金十枚褒美トノ高木ニ与エト云々
高木後主出雲國
仕堀尾帶刀卒
廿日 今日源君遠藤左馬助常利 後任
但馬守 郡上ヲ賜ルルノ
御書ヲ被下 安永九年九月朔日

廿日村越茂助清洲ニ著井伊本多カ陳至御出陣アル
コレキ由ヲ告ク兩人大ニ驚諸大名各御出馬ヲ待ル処如此
義キコヘテハ不可然ノ間大小名へ對シテハ追付御出馬
アルヘキ由ノ命ナリト云トカタク中合公而ノ村越江戸ヨリ
御使ニ参タル由因ヘケルハ近辺ノ大小名コトクク清洲ニラツマル
村越出座ヒテ源君御召各へ口々ニ其後既御出馬アルヘキ
ト仰コサレタリト云ヘキ所ヲ俄ニ息業シヨリノマニ御意ニ後テ
チワタシケルハ御出馬ノ後ハ各分別次第也只今ノ通ニテハ
御出馬アルヘキト仰コサレタリト云井伊本多手ヲニキリ
汗ヲカタ諸將兎角返答ニモ不及ノ處福嶋左衛門大夫

心則兼御出馬延引只今ノ御口上ニテイッレモ誤リシ
レ中作諸將眼前ニ敵ヲサシライテ數日相對シ敵味方
手切ニ戦モ不仕シテ暗然ノ打過山付御出馬御延引ト相
見カイツレモハイカク存セテ、明日乃岐阜ヲ攻テ村越茂助
ニ見物イタサセカヘシヤヘシト云池田淺野ヲ始メ諸將共義同ス
茂助云々ハ其儀御使參タレ迄イ也城攻不及見物則明日
可テ立ト云福嶋池田淺野イッレモ井伊本多両方ヘ達テ
茂助ヲトメ置被申作板、中置之而ノ茂助モ退出ス

今日福嶋心則カ陳ヘ諸大名并井伊本多ヲカクメ岐阜

城責ヲ評議ス岐阜ノ手流ニ尾州犬山ノ城アリ此城ニハ

石河備前守貞清在城ス中納言秀信并石田三成カ下知

ヲ以テ加藤左衛門尉貞泰濃州里野城主 四万石 竹中丹後守重門濃州岩手 城主六千石

稻葉右京亮同彦六関長門守濃州岐多良 一万石 田丸中務濃州岩村 城主一万石

其外大坂ヲ鉄炮ノ頭七十餘加勢ト犬山楯籠ル間先此城ヲ

可攻ヤ否ヤト評定アリケリ犬山城ノ加勢加藤竹中関稻葉

井伊本多ニ内々ヨツテ返忠ノイアリシカレハ犬山ハサレ働

不可有之岐阜落城セハ犬山乃隔入ヘケレハ犬山ニハ押凱カラシ

イテ先岐阜城ヲ可攻落ト一決ス岐阜ノ城ヘヲレヨセンニハ

先木曾川ヲ越サレハ不叶ニ付木曾川川越ノ次才相談ニ

自福嶋心則今度ノ合戦ニツイテイツトテモ心則先陳ヲ可

養間木曾川川越ノ儀正則先陳タルヘト云井伊本多忠
大軍一箇処ヲ渡ラテ謀ナキニ似タリ然レハ正則ハ幸萩原
起ノ舟渡自分ノ領地案内者タレハ萩原又ハ起ノ舟渡
ヲサルモ北方ノ歩渡ハ一柳監物直盛案内者トシテ池田三属
輝政ヲサルヘシ元号 松倉渡コニ因テ福嶋モ異論ニ不及北方ノ

歩渡ハ岐阜ヘチカク萩原起ノ舟渡ハ北方ト 相隔章岐阜ヘ遠

シ川上川下寄テ相図ナクテハ先後シリカタケレハ双方ヒニ

狼煙ヲ以テ川ヲ越テ相図スヘシ然ラハ先川上北方ノ寄テ

煙次第ニ川下ヲモ可越下相定ム相残軍勢ハクテトリニイ

タシ双方ヘ分ツ川上北方ノ歩渡ハ池田輝政淺野幸長

堀尾吉氏山内一豊有馬豊氏松下吉綱一柳直盛也川下

起ノ渡ハ福嶋正則長岡忠興加藤喜明黒田長政藤堂

高虎京極高政同高智田中吉政同長頭生駒正俊寺澤

廣高井伊直政本多忠勝也天山ノ押勢トシテ中村一角一忠

式部少輔 一氏死太同彦九衛門一栄カテ勢タルヘト許定相究ル

逆後岐阜大垣ヘモ関東勢明日木曾川ヲシテ岐阜ヲ攻メ沙汰

聴ヘシハ天山ノ東山道東海道両所ヲ指塞ク要害地也木曾川ヲ

コサニニ天山ヨリサシフサキ或ハウレロラタニニハコステ不可叶

古ヨリ其例ナレハ秀信三成方ヨリ大分ノ加勢ヲツカレ置

ノ処加藤竹中ステニウラ切ノ沙汰アリ稲葉父子モ是ニ同ス

ルキマヘアツテ城中立ニ心ヲラキ合ケシハ手堅働モ不可叶ノ
由石河備前守方ヨリ岐阜大垣へ注進ス是ニ由テ逆徳大ニ
カラフトス而ノ岐阜ヨリ川ハタへ人数ヲ出シ川越ノ寄手ヲ
可防タ大手川上北方渡へ秀信自身執加納へ兵ヲ出シ
其身モ關魔堂前テテ出馬ルヘ濃州上^{コウケチ}有知城主依藤
才二郎秀信ノ兵木造左門佐長廣百々越前守飯沼
十左衛門尉^{馬年}津田藤右衛門同藤三郎留半左衛門齋藤
齋宮其外諸士共三成カ加勢相原彦右衛門父子共川瀬
左馬助履野平三郎ヲ初トシテ軍勢皆加納ト大野ノ間出向
ヘシ搦手起テ渡ハ砂川足入テ人馬ノ働不自由地ニハ心

勢ナリ氏防ニタヨリアリ其^{濃州}上竹ヶ鼻^{濃州矢神住人三十戸}杉浦五左衛門毛利掃部

ルハヲ要害尤ノモクニ利フルヘシトテ花村半右衛門梶川三郎
ニ足輕大將ヲサシテ大筒ナトヲモタセ遣ス尤竹ヶ鼻ヨリ杉浦
毛利加勢スヘシト下知シ各ヨイヨリ打立テ寄手ヲ防クノ
手段ヲナス

廿二日川上北方ノ寄手一柳直盛廿日ノヨイヨリ河田ノ堤ニ
望ム凡ツ今日川越池田輝政名代ノ家人伊木清兵衛一番ニ
シ其^{濃州}次ニ堀尾吉茂此兩人川ヲ上レ川上下ニ備ラ立而輝政其次
一柳直盛ナルヘシトカ子テ次ナリ然ルニ川向ニ岐阜ノ軍物出
向テ相支テ艱ナリケルニ輝政并山内對馬守一豊河田川原

尤小家ニアカリ 逆後軍勢ヲミツモルニ三千ニ不過之ハ
イソキ川ヲ可越ト下知ス午刻ハアリニ番ニ柳直盛川ヲ越ス
池田有馬堀尾松下山内淺野以下ツイテオハル堀尾カ家人
堤五郎兵衛沢四郎左門畑民部一柳家人大塚権大夫
一番ニ乗上ル堤ハ岐阜勢前田半左衛門ニ討トス沢畑モ
ツイテ戦死ス大塚武市善兵衛ト戦フ武市忠左門来テ
善兵衛ヲスクフトイヘ氏大塚ツイニ善兵衛カ首ヲ取ル飯沼
勘平 紅縷鎧赤母衣乗
舟余ノ白芦毛馬 ノリカケテ来リ大塚ヲウツメントス一柳カ兵
コラ救トイヘ氏大塚ツイニ討死ス勘平ハ池田備中守討トス
岐阜勢前田半左門藤田権左門戦死ス城兵コトクク

追立タル岐阜ノ町口ヘ引トル寄手直ニ付入ニスキラ城兵川千ノ
町ヘ火ヲ放テ引トルニ寄手可入ヤウナリ各川千村東備ル
处ニ輝政ヨリ軍使来テ今晚ハ皆米野ニテ引取テ陣ヲハル
下知アリコトニ諸手皆米野ニテ引取テ陣ヲハル
池田カ兵佐分利弥右エ門ト云テワカキモノ氏軍法ヲヤフリテ
川ヲフスト云テラキ、私イリトムヘシトテ来イタス日置豊前
言ラカケ何ト云ケルハイソキコセトテコサシム因茲池田手ニテ
ハ柳田半助今枝宗二日置豊前先陣タリ
逆後岐阜方ニモ廿日ノ宵ヨリ各款加納村討出見食木造
百、カ下知ニヨツテ川ハ夕ニ虎落ニイ兵士皆川ハ夕三町ヲミサツテ

備へ川ハタハ足控ヲ出ノ弓鉄炮ヲカケシムシカニ廿二日ノ朝
木造川ハタノ小高处ヘアカリ向ヲルメハ寄手ノ内ヨリ
川ハタノ小家上ヲカリテ此方ヲ物見スツノアトニ家ノ旗ニ
カスラ見ユ木造下知シケル家ノ上ノ侍下人ノナラハ則川
コト知テ是ヲ諸侍油断不可仕寄手大軍ナレハ此小勢ヲ
川ハタテ防戦無心元トイヒテハ各必死覚悟テハ少モ不苦
ト云木造合戦ハ只今也ツノ口チカヘ五フナ人ト云テ四方ヲ
ハシリメク下知スツ内寄手川ヲ越川ハタノ新加納ヲ大ニ戦テ
逆徒過半ヲ死ス百、越前守木造ヲ招テ云ケル其軍勢
廿四人ノ内廿三人マテ打死今一人モ涙キヲ負我身モ

數箇所手ノ焔ヲ蒙レリシカハコニテ討死スヘシツノ間殘兵ヲ城へ
引入城ヲ堅固ニモタル分別可然ト云木造見捨カタリケレ
口人ニ今日明日ヲ限身ナレハツクルモ先タツモツノ間ツ
トテ急キ引カヘ又津田藤重門番衣同藤三郎程皮
リ也兼松又四郎妻母衣スレテ力戦一柳監物モコレヲ付衆ト
イハレ孰加納ノ地形足入多城兵ノ所ノ案内者ナレハ無子細引取
百、越前守以下シツカニミンガリス中納言秀信二幅白幡ニ
ノウレニ瓜紋小馬印 爛魔堂前ニカヘコニテ討死セント旗トイハレ
鷲ノ三ツクニ 佐々三郎秀信 使番川手村ヘアケカヘリ秀信馬ノ口ヲ取テ
城中へ引合各町口ヲ固ム木造下知シテ川手村ニ火ヲ付テ

寄手ヲサシフサク上有知城主佐藤才二郎一番敗北シテ
孰加納ヨリ四里ノ道ヲ瞬息間ニ上有知村カケユ川手村ニ
ツイテ津田藤右衛門同藤三郎堀場茂兵衛フミトマリセリ合
アリ堀尾カ家人野口彦助後攻母波 堀場ニウツ木造ハ
八嶋^{ヤシマ}所^{トコロ}ロカタム晚日ニ及ヒケレハ寄手各引トル川下起^{トキ}
寄手福嶋正則ヨイヨリ川ハタニヨセテ川上相國ノ煙ヲマツト
イハヒニスノ鉄炮ノ音キコヘケレハサテハ池田ニ出ヌカレタリトテ
川ヲサセトス川向ニハ竹ヶ鼻ヨリ杉浦毛利兩人出合セ大筒
ヲアケテ入^イ政阜加勢花村梶川イツシモ川西ニツイテ土居ヲ築
柵ヲ付テ鉄炮甚多ク打立川ハ碓^ウフアケテ入^イノエハ左右
ナクコス^コトモナラス川下加賀野井村ヘマワリ乘越ス逆後防又
不叶ノ皆竹ヶ鼻ヘ引トル本丸ニハ杉浦ニ郭ニ毛利梶川花村
楯籠ル諸手悉圍之正則元ヨリ毛利掃部トシシケレハ
和談ヲ入毛利ニ郭ヲワタス杉浦本丸ヲ堅ク守テケレハ申ノ下
刻ニ本丸落去杉浦自殺ス城兵三十六人死シヨリ政阜ノ
町口ニテ押ヨセケレ城兵皆引取タルアトナレハ無別余町口ニ
陳ラハル三成カ加勢柏原川瀬イッシモ今日ハフヒヤ兵ヲ出テ
カタメタリトイヘ凡惣勢敗シテ各出九ヘ引トル辰野平三郎ハ
今日ノ松子三成ニ可告トテ大垣ヘ退

東國勢高名

武藤掃部 津田新十郎 澤井左衛門 平井弥三右衛門

平井参右衛門 安孫子善十郎 森島解由 小坂助六

堀田小三郎 安井将監 吉田平内 堀田将監

八嶋吉十郎 武藤清兵衛 稻熊市左衛門 林藤十郎

廿三日 昨廿二日ノ夜関東ノ諸將各参會ス今日ノ城責

ヲ評議シ各先ノ争福嶋正則云々ハ今日各約ヲタカヘア

イツラナサス甚不快也云々明日又輝政先陣ト云々ニハ大

事ノ前ニ輝政ト指テガ元外ハ無之不入夏ニ先ヲ争異論

アルヘカラス今日大手一番乗ハ正則ト云々トイフ輝政モ理ニ

ツレ井伊木多ク指圖次也ト云々此城東南ハ谷深ク其間ニ

深田多シ或ハ高峯ソビエ北長柄川ノ切キシ高シ此三方ハ人馬

ノカヨイナシ只西一方ニモ曲百曲水ノ手トテワカニ三筋道アリ

トイヘ厄険坦ヲノボリニクシ先大手七曲口ハ福嶋正則加藤

左馬助喜明長岡城守忠興等也搦手百曲池田

輝政先陣タルヘシ大垣ヨリ後詰押勢ハ黒田中生駒

藤堂羽柴伊賀守戸川肥後守等也福嶋正則昨日岐阜城

下ノ合戦ニ不合ラテ憤テ拂曉ニ只一手一番ニ大手ヘツク

加藤喜明長岡忠興カ兵相ツク福嶋伯耆守一陣ニ進ニテ

敵ヲウツ山下ニツイテ城兵津田藤三郎相戦寄手馬ヲ乗放

シカウキツレテ坂ツルル正則カ兵梶田新助坂中ニツイテ敵

ヲウツ木造カ兵奥田左太郎 後仕 強弓ノ精兵ニ寄手

ヲ散ニ射立ッ正則カ兵大橋茂右衛門力戦ス城兵

津田藤右衛門同藤三郎大岡角助伊藤長八和田孫大夫

齋藤憑之介穢田兵部丁野左兵衛伊達平左衛門武市

喜兵衛大野善八木田弥左衛門相文ヲ寄手ト戦正則

カ兵傍嶋多兵衛敵ト組テ谷ノ落渡辺弥兵衛言ヲカケテ

傍嶋ヲタスク無カシラノ木戸口ニ城兵中嶋傳右衛門布川

次郎兵衛齋藤新五郎相文ニ長岡カ兵瑞就寺ヨリ政卓ハツ云

人衆ニウタシ合フ安賀山庄右衛門 後改 西郡大炊助收新五

後改 岡村半右衛門中嶋龙近中瀬新兵衛ナト一処ニ

居テ戦切アリ簧戸口ニテ有吉与太郎 後改 十八歳ニテ

組亦柳田五郎助野尻隱岐守田井助八戦切アリ沢村才八

大手門口ニ一番ニ付城兵中嶋傳右衛門齋藤市丸衛門 山縣

二人ニ 伴吉右衛門 母衣ヲ 三人トセリ合中嶋ト組テ下ニ七八間

コロフ處へ伴来テ中嶋ヲスクイ才八ヲヤリウケハ子ケレハ又

下ニ三三間コロヒ落才八ツイニ中嶋カ首ヲ取才八ハ七箇処手

ヲ負漸本道マテハイ上ル処才八縁者矢野六右衛門同

亀之助来テ才八ヲタスケ忠興カ前ニ出ル正則喜明モ其場ニ

アツテ才八ヲ感ス長岡カ兵沼田小兵衛 後改 荒木左助 後改

山 瑞龍寺ノ方ニテ高名忠興才玄蕃頭篠山与四郎

金守半助久奈三大夫森忠三郎米田与七郎于時後改
十五歳長岡監物

各本丸石垣へ早著其外米田助右衛門澤田次郎助水嶋源助

石田平八岩村新藏也家光松井式部後改
長岡先渡寺源手ツ員

正則カ兵吉村又右衛門澤村ト相ツイテス、出丸ノ執夫倉ヲ

取ル寄手ツ、ニアツテリ家ニ戦切ノ者アリツイニ三ノ郭ニテ押

詰テ寄手息ヲツク處正則カ兵長尾隼人内へ乘入門ヲアケテ

惣勢本丸ノ際ニテ押寄城ノ門ヲ堅クシ置ケハ寄手入トナラス

其内ニ長岡忠與加藤喜明本丸大手ノ門キワツツ正則モ来リ

池田以下アツマリアツカイヲ入秀信降参也

池田輝政モ正則ニツイテカケルカ正則カ兵惣構ノ内へ入ラ

カケルニ池田カ兵煙下ニナリテ兼木原ヲノクリ長柄川ノ边へ出水

ノ手へ攻入池田カ兵旗ヲ城中へナケ入テ一番乗トナリ本丸ニ

テツメヨスル也水ノ手へ落人多クツ
ニリ首級池田手へ多ク京極ハ柴田勝家カ旧屋敷

荒神ノ洞ノ方ヨリノリ上ル百曲ノウツノ門へ京極カ兵増田藏人

以下七八人ノリ入ウラミチヨリヒソカニアカリケレハ守ルモノ一人モ

ナシ城兵コノ寄手ヲミテ悉ク天主ノ内へ入ルヲムヘニ増田天主

郭ノ門ヲ内ヨリサシカタメ寄手ヲアゲスツメノ城天主郭京極一番乗

ナリト云福嶋カ兵攻阜本丸一番ニリクツシ既ニ中納言秀信

和睦ニナリテナレハ一番乗ハ福嶋ナリト云ニ増田等門ヲア

ケスモニ寄手ツカユ京極修理大夫アトニ有之ケレハ修理大夫

ガカタヨリ門ヲアケヨトテ證文来ラハアクヘトアラテ高政へ其
旨ヲ通シ高政ヨリ證文状ヲ付ニハサシ門ノ内へ入ルニ付テ則
門ヲククル也京極家人渡邊江左エ門西尾喜左衛門等戦功
アリ

岐阜中納言秀信ハ廿二日ノ戦ニマツク城兵ウタシ或ハ疵ヲ蒙
或ハ直ニ落失ケシハ守城ノイヲ許セシタメニ木造ヲ招ク木造
ハ八嶋町ヨリ堅メケルカ秀信廿二日夜中呼ヨセ木造持ロニ兵士ヲ
ノコシ本城へ入シトス門々マツクサシカタメテ一人モ不入木造
所ニニテナノルトイヘ兵士ノヲトモセサシハアタルナシ無程夜ア

内ニ入此時津田勘八相ツイテ能働アリ

秀信
感局ヲ此門ヲサシカタ

メ丸ニ付キ城兵内へ入ナラス大方直ニ落失タル輩多也木造内
へ入ル時分ニ加藤喜明カ兵ツイテセヌリ也而シテ本丸ニライテ秀信
自害スルヘキトアリシヲ木造百ニ色ニ諫シ矢倉サマヨリ小田笠ヲ
竿ニ付ケフリ矢留ヲ寄テ内沢井左衛門森勘解由トヨリ木造ト
旧友ナハ取扱テ和睦セリ秀信ハ信長ノ嫡孫ナシ福嶋池田各申
合テイタク取也此時秀信覩科紙ヲモトテ昨今戦功ノ輩ニ各感局
ニ与ニ城中ニ居ル兵士僅ニ三十六人三成加勢川瀬左馬助大高
善左衛門合テ三十八人也八月廿三日午刻落城
木造左衛門佐百々越前守梶川才二郎孫二郎入江左近

飯沼十左門其年 山田左門 澁川兵衛 和田孫大夫

津田藤右衛門 津田藤郎 大岡左馬助 織田左門秀信

織田兵部 十野左兵衛 伊達平右衛門

各戦功アリ

武藤助十郎 且立中書 齋藤丹宮新三郎子

此三人廿三日ノ晚長柄川ヲコシテ北ノ手へ落行也故不逢合戦

岐阜落城付福嶋池田西將ヨリ兵士二十騎旗一本ツツカワ

ニ城ヲ守ラレム

福葉少取出六柏原彦左門尉同内膳父子川瀬左馬助

松田十太夫志尾四郎兵衛以下皆世絶ルル

浅野左京大夫一柳監物并伊本多々軍勢瑞龍寺少西ノ麓ヨリ押

上ル川瀬左馬助ハ岐阜城ヤウス無心元トテ本城へ行自取

ハ赤尾ヨリハシメケレバ不用柏原父子其外相殘ル軍勢甚

カ戦々寄手浅野幸長ハ兵島田権兵衛後改 大隅 箕浦新左衛門

原傳三郎戦功アリ 傳三郎精兵ヲ六人ニテ城兵ヲ射フモ夕

リ浅野喜八郎伊藤八左門同又兵衛屋ヲ棄テ打死ス

林水右衛門三州 在入 城戸ヲ切アケ能敵ヲウツル友松弥五左衛門

深手ヲ負ナカラ敵ヲウツル佐々左衛門ノ若黨杉沢源丞

柏原トワタシ合ヒテ柏原ヲ討取并伊直政ヲ家人山中主膳

戦功アリ城兵コトノウツレ城隔ル赤尾ハ深手ヲ負赤坂ニテ

引下ル

中納言秀信ハ上加納村ノ一向道場へ入置こし二十月廿八日
ニテ逗留ノ後ニ高野山ニ至ル其時供ノモノ伊藤平右衛門
安達中務竹内三九郎荒木左衛門山井宗女正高橋
一徳齋森次右衛門越地多左衛門也

秀信支初會津奔向ノ權佐ニヨリテ七月朔日ニ岐阜ヲ可立
用意ノ交石田三成カ方ヨリ川瀬左馬助ヲ使テ隱謀ヲ
企ルヲ云ラケル秀信本造百ノ相談ス兩人諷諫ストイヘ凡
不用電臣入江左近伊達平右衛門高橋一徳齋シキリニ

申下ルハ秀信モ三成ニ對スルハ前田玄以松平將軍

指図ナレハ本造百ノイツキ出京ノ此度ヲ談ス前田キイトテ
會津へ出張可然ト堅ク諫ム兩人イツキ歸ル處ニ秀信佐和山ニ
至ル三成人ヲ道ニシイテ鳥居本ノ宿ニシイテ兩人ラマテウケ佐和山
へマ子キ種々馳走ノ上既秀信如此上ハ兩人異儀ヲ不可存
ノ由ヲ告兩人岐阜へ歸リ諸臣ヲ集メ相談シテハ飯沼十左衛門
云ケルハ秀信ハテニ佐和山へ御出上ハ會津へ奔向アリ凡云
ワケ不可立ノ間三成ヤリテ爰元へ來ル由分可討捕ナト云
ケレモ秀信同心ナクシテツイニ如此ナレト也秀信ノ人質母
義兵三歳息女 江州甲賀旗頭和田大藏少輔 大坂ニアリ
高松カ男和田孫大夫カ娘ニ出生
秀信上加納村ニ塾居ノ間ニ孫大夫則大坂へ出母歳ニ歳息女

ラスルニ出シ九月十日ノ夜江州へ来ル處丹義ハ行歩不叶
ユニサシ殺シ首ヲ下人ニモシセ息女六ツシ来ル江州土民是ヲ養
後ニ佐々木兵衛督義卿カ妾ナリ後秀信於高野山病死
大垣ヨリ岐阜ノ後詰トシ石田三成嶋津義弘呂久川ノ辺ニテ
出張石田カ先手杉江島兵衛森九兵衛以下コトクク江渡
ノ川堤ニ備フ後詰押勢トメ諸手皆江渡川ノソメトイヘサシ
テ大河ナレハ無左右コシカタシ諸手ヨリ瀬踏ヲイシテ考之
田中兵部少輔吉政ハ元ヨリ所ノ案内者ナリ 田中元任関白秀次ニ
秀次領美濃尾張江州
トイヘ凡若川ノ瀬カウルノモアルハ是ヲ尋シクノ加賀嶋梅寺 嶋梅寺
出家ヲ呼出シテ川ノ瀬ノ間僧ニロヘテ詳ニ教ヘ高能可聞カ

タメニ懐中ニ三枚入モテタル黄金ヲ一枚トシ出ノ僧ニ与ヘイヨク

委シ問 此時打行武者野村ト云者一人供ナリ サテ陳中ニカワソノ処ヘ三郎右衛門

ト云輕卒ヲ瀬踏ニ入テ弘安内ニシルコトニ一番ニ田中江渡川ヲ

乗取 或云戸川肥後守正利加賀嶋ニ至テ田中カフトコロヨリ金子ヲ出
ノ僧ニツカラスヲ見テ歸リ黒田ニ告ク黒田田中ニ向テ瀬ヲトイ田中

カコスヘキト云所ヲ黒田ウチ入テコス コニツイテ黒田藤堂等ノ

諸木小名ウチ入ノ川ヲコス三成カ兵一支モ不及敗北杉江島兵衛

後殿シテ引取所ヲ田中カ兵辻島兵衛 後改肥前 コラ鎗付テ先ヘトシリテ

別人ヲ討西服安重門杉江トカ戦ノ内西服痴ラ家ノ処松原善高

ハシリ来テ杉江カ首ヲ上田中カ兵宮川市左エ門 後改大炊 一番首ヲ取中村采女

後号 田中 川口九郎左門督カ戦ニ逆後先勢悉敗北ニハ三成義弘呂久川辺

ヨリ大垣へ引かへス凡ク江渡ヨリ呂久川ニテ其間三城が兵皆追々
夕九藤堂高虎が家人藤堂玄蕃元宮田ノ郷民ノカキアケノ要
宮ニ入テ御民ヲナテキリニイタシ名立山田五兵衛ヲ案内者ト
メ呂久川ノ水上落合ヲ一番ニリコシ赤坂ノ宿ニ入放火ヒン
トセシ処ニ赤坂ノ名主百姓町人出合テ放火ラユルサレハ爰元
諸度案内可仕肯乞ニマカヒ即赤坂ノ放火ラユル諸手へモ
其肯ラコトワルニ赤坂ニ陳取度諸事ノ勝手利アリケレハ高虎
大ニ喜テ玄蕃ヲ賞美ス戸川肥後守ノ兵岸本五郎左門同与重門
戦切アリ
廿三日ノ晩ハ諸手コトクク赤坂迄所ニウケ入テ陳ラユル一柳
監物ハ
廿三日瑞龍寺以後本甲ノ渡ヲ

長松ハ武光式部少輔在城ノ三成ニ味ストイヘ在今日岐阜
落城ヲキイテ廿三日ノ晩長松ノ城ヲクケテ勢州東名ニ廻
氏家内膳正カ所ニ至ル
今日東国方ノ寄手悉ク赤坂ニ入テ陳ラハル三成大ニ驚諸
方ノ寄手ヲヨヒヨス宇喜多秀家ツノ比ハ太田ヲサシフサイテ
陳ラハル先迄所ナレハ秀家乃大垣ニ至ル秀家カ軍勢大垣ニ着ラ
見テ三成大ニシラシレ大垣騒動ノ旗ノ紋ヲ見太鼓丸テ秀家ナリ
ト知大垣町玄古カ家ヲ以テ秀家カ旅館トス三成方ヨリ
阿閉万五郎后尾与古ヲ使トノ雜堂ヲ設ク秀家即三成ニ會
談ノ今夕赤坂へ夜討可然トスメケレハ三成不同心也

嵩津義弘カ兵ハ洲俣ラサヘシメケル是ヲモ悉ク大垣ヘヨヒヨスル
駒野ニ三成カ家人高野城中守高山忠重門尉牧野傳藏
蒲生備中守大場去佐守北川平左エ門以下二千ニテサヘシメ
ケル是モ大垣へ引入シム北国勢大谷刑部少輔ニハカチテ相談
ノイアリトテ大垣ニテ出ヘキ由申遣シケルエヘ大聖寺ヤケアトヲ
トリウクロイ木下官内少輔ニ蜂須賀阿波守カ軍勢カラサレシメ
コノヲキ小松城へ上田主水寺西備中ラ加勢セシメ其外北国勢
トククエシラキリツカチ廻計ニテ昔大聖寺ヲ去テ引田付ノ所三成
行長秀家義弘四人カ方ヨリ廿三日ノ飛脚到来シ関東勢赤坂宿
へ甲寄ヨシ進進ニ付大谷教賢へ引カヘシ北国勢ヲ不殘教賢追
引トラモ大垣へ可出ト評議ス

今日石田宇喜多嶋津大垣ノ町ノ間屋松井喜右衛門ト云者
ノ処へアツマリテ江渡川ニテフセキ様子ヲ嶋津義弘尋ケレハ
江渡へ出シ三成カ兵尾川ハタニテ防タルノ由ラ云義弘聞テ
川ハタラニ町モ三町モシサリテソ防クモト是程弓矢イ不心得
ニテハ始終無心元ト云三成云ケルハ分別ノ事ハ何事ニテモ我等ニ
尋子玉フヘシ弓矢ノ一ハ万支嶋津ヲタノムヨシ云ヘリ

廿四日 昨廿三日ヨリ今日ニ至テ味方皆赤坂ニアツマル
赤坂町ノ南岡山ニ陳城ヲカマヘテ此山ノ四方ニ陳ラルル中山道
北山手ニ加藤左馬助黒田甲斐守藤堂仇渡守筒井伊賀守

晝飯村ニ長岡越中守同東ノ大塚山ニ福島正則岡山ノ北
ノ手井伊本多西牧野ニ堀尾山内淺野荒尾村ニ池田輝政
池田備中守東牧野ニ中村一角有馬玄蕃頭磯部森田中
兵部少輔長松村ニ一柳監物也

今日秀忠卿野州宇津宮ヨリ中山道ニ御出馬真田安房守

昌幸居城信州小縣郡上田トリヨセ玉一真田伊豆守元一

秀忠卿ヨリ御届ラ賜小縣ニ可向由ラ被命中山道ニ隨兵ハ

榊原式部大捕庸政大久保相模守忠隣同加賀守忠常先

酒井宮内少輔家次本多美濃守忠政本多佐渡守正信酒井

右兵衛尉正親高力元近忠房奥平大膳大夫家經松平飛騨守忠昌

太次保治右衛門忠佐高木主水正清秀牧野右馬允康成 上州應古 二万石

松平下總守清匡 奥平美作守 信昌男 森右近太忠廣 信州松 石川玄蕃頭康長

信州松本城主 後任美濃守 根德太郎吉重真田伊豆守信之仙石城前守忠俊 信州小諸 城主

七万石 山口但馬守重政此外甲州先方吉田衆御供也淺野長政モ從

甲州出テ御供可加旨命セ元 或云七月廿八日小山ヨリ 直ニ中山道ニ御奉向 又ニ八月廿日皆兼也

御旗奉行 日下部兵右衛門 成瀬吉右衛門

御使番 土井甚三郎 後任 大炊頭 長谷川瀆岐守 倉橋内匠助

内藤外記 朝峯源六 久貝曰幡守 初名 忠節 山田半右衛門

石川八左衛門 今村彦彥 米津勘兵衛 内藤金右衛門

川中長三郎 遠山馬廐門 鶴殿兵庫 戸田備後守

牟礼若夷門 岩瀬吉左衛門 安藤治右衛門 山岡五郎作

信濃木曾侍知村山村浪人タリシラカ子テ源君被召出ラレシ
ニ此度信州木曾御手ニ入コトク可仕旨仰付ラシ秀忠御ニサキ
クツテ木曾路ニ行コノ比木曾福島ノモリ人質ハ皆犬山
城ニ入ラキケルカ兩人福島ハ押入マシク福嶋ラシタカハ
福嶋ヲウトル上六人質ヲコメ益ナシトテ犬山ヨリ皆人質ヲカヘ
ヌシカルニ山村鳥居峠ノコナタ奈良井ニテ福嶋ハ無子細ケニ
入間無変故乘取タ由関東へ注進可然ト云谷先モシシサレ度
イカト云シラ山村達テトケルニ知村モ同心ノ連署ノ注進ヲ
申上ケルト云ク

知村山村ハ元武田信玄ノ家士
木曾ノ方へ信守ヲ要請シ遣ハシ也

今日江戸へ到来則御届ヲ清洲侍後吉田侍後法野左京大夫
黒田甲斐守加藤左馬助京極丹後守方へ被下

廿六日伊勢國阿濃津城方益テ和睦シ城ヲワタス津城富田
信濃守知信カ居城也七月十九日逆徒毛利宰相秀元吉川

藏人廣家兎戸安藝守隆家輝元
伯母聲鍋嶋信濃守定茂

長曾我部管内少補盛親中井式部少補有澄山崎右京亮定勝
蒔田權佐松浦安太夫宗清堅田兵部少補廣澄輝元
名代長束

大藏太補白家指添テ都合三萬余是ヲ攻富田會津へ業向タ
関東ニ下ル留守兵堅ク守之此度小山ニキコハ富田以下先立
テ歸城分部左京亮相トモナイ船ヲ催シ五十余艘ニテ渡海

ス海上ニライテ九鬼大隅守善隆カ兵船稲葉藏入ヲ舟トシ

ナシモノリヨセ一度ヲリニツメントス 九鬼稲葉 元ヨリ不知 ルノ処富田分都

カ船ナレハ不及子細ヨシヲトラス而ノ富田無難津ニ著長束

正家津へ兵舟ヲ著タリト聞テ大ニ騒動シトルモノモ不取敢

コトク敗軍シ寄手皆引取其間ニ富田城ニ分都左京亮モ

上野ニカヘリ 津曰リ五町 北西方 ケルカ上野城要害ヨロシカラサレハ城ヲ

ワリステ津ノ城ヘツホム古田兵部少補信勝モ松坂へ歸城ス

トイヘ斥逆徒イマ夕松坂へヨセ来ラサルカユニ 自津松坂迄 四里 兵ヲ分

テ津城ニラシム長束正家今度敗軍天下ノ人ロニノリケレハ

今日廿三日ヨリ又寄チヲ催促シ城ヘツレヨヒ昼夜ノサカイモナリ

城ヲ責廿四日寄チ毛利秀元吉川ノ西方ヘマワリ南ノ口ヨリ

ヨセ案内者藏田弥四郎ヲ以テ順路ヲ考 弥四郎ハ織田軍ノ

見分シムニ松浦安太夫カ方ニ使トノ来ル松浦方 家人也津ノ城ヲ

ヨリ案内者ニ秀元ニツカラス于此十九歳也 攻ヨスルコトヲハ

分都左京亮持堅吉川藏人等キヒシテ攻ケレハ城兵皆内ニ入

松浦カ兵當世山ヨリ城へ寄テ長束下知ツツイニ外郭ヲセメヤ

フル城兵織田茲左門 同甥喜左衛門戦切ツリ藏田奥右門

吉川庄助引橋ヲハ子城戸ヲ召ス是ニ寄手入リテ不将

長束カ兵家所帯カ兵ヲ引ル富田カ兵上田古之丞 馬藝ヲ 達人

吉田兵部少補カ加勢佐多利九之丞原十兵衛林惣右衛門

小瀬四郎左衛門 後任淺野 長藏 各戦功アリ又コノ外ニ伴三左衛門

十郎左門兄才門キワニライテカ戦ス

伴元甲賀ノ人此時公道阿弥之命ノ伴ヲ甲賀ニ

至テ甲賀地侍死ヲカタライシムヘキトアリシ

奔居ヲ得トイヘテ不願城ニ楠籠後仕洩野長晟

中川清左門一番衆ライタル討死紫衣井上清右衛門ハ城ニ

キシ入テ首ヲ得テカハル凡廿三日ヨリ廿廿日テ三日三夜ノ城

責ニ城兵力屈シ廿六日和ヲ入テ富田知信剃髮ノ一身田

門跡ノ室ニソヨリ高野山ニ趣ク逆後中井式部山崎右京

蒔田権佐ヲ津ノ城ニ入ル富田後豫州宇和嶋城主

廿二日味方木曾川ヲコシ岐阜ノ城下ニラシムルノヨシ井伊

本多方ヨリノ注進今日午刻五戸ニ卷着御居ヲ兩人ニ被下

今日公前田利長家臣村井豊前守ニ御自筆ノ御内書ノ場

村井子取 利長 母芳春 院在江戸

テ利長大聖寺表ヲ勸ラ感セシ芳春院ヲ

慰勞セラル

廿七日逆徒阿野津寄手鍋嶋信濃守定茂兵ヲ率勢州ノ松坂

城ノ圍ム城主古由兵部少輔信勝堅守ル然處ニ信濃守カ父

加賀守直茂カ子テ源君ヘ志ヲ通シケレハ使者ヲ信濃守カ元ニ

通シ城責無用ノ由數度訊諫スコニ因テ松坂城ヲ遠卷ライ

タシテ日ヲ送ル

稻葉藏人通茂カ居城勢州岩手逆徒九鬼大隅守嘉隆急ニ是ヲ

攻ルトイヘテ通茂堅守ル九鬼ツイニ兵ヲ列テ志州鳥羽カハル山田ノ

中嶋左藏ト云杯宜屋布城ヲカマヘテ逆徒九鬼ニ与ル稻葉

通茂岩手城ヨリ兵ヲ出シ攻之 自中嶋迄 岩手回リ 中嶋堅守ル内ニ

鳥羽ヨリ後跡沙汰アリケル稲葉引退初九鬼大隅守嘉隆

隱居イタシ嫡子長門守守隆ニ鳥羽ヲリラス今度長門守國東ニ

下向ス大隅守元ヨリ稲葉藏人通茂ト不和互遺恨ヲサシ

ハサミケルニ今度稲葉源君ニ属シシハ大隅守ハ逆徒ニクミシ

幸平日遺恨ヲ散セシク如此トリ合ライタス也大隅守即

熊野新宮城主堀内安房守ト云合ヒ西旗ヲ志人國カモト云処ニテ

長門守ト父子ノ合戦アリ家中トモニ父子兄弟合戦ヤム

ナシ伊勢國ニシカノ浦ニ長門守番船ヲツイテ大隅守カ領分

濱嶋人民ヲナヤマスソノ此秀頼卿ノ舟奉行村上ト云右長門

義清管右衛門ハ五毛利家ノ軍船モ伊勢尾張ノ舟ヲ廻ス

トキ右ノ番船ヲソツトル伊勢アリノ沖ニテ長門守カ軍舟

五六十艘ヲ出シ水師アリ長門守内九鬼宮内 伊勢ノ 戦死ス

而村上等鳥羽ヘ舟ヲ入ル

廿八日岐阜落城ヲ注進今日藤堂高希カ使者池田忠兵衛

冬著源君御前ヘ被召出高希小山ニテ約束通早ニ注進御悅着

申テ池田ニ黄金ヲ被下也而ノ淺野長政カ元ヨリ又源君ヘ

告来ル即御返簡ヲ賜テ左京大夫幸長瑞菴寺取出来崩シ

スルヲ感セラレ且又来月朔日御出馬ニ付秀忠卿ノ中山道

ヨリ御進業ナレハ長政供奉可仕旨被仰付 長政其比ハ 甲州・藝居

廿九日岐阜落城ノ旨井伊本多兩人ヨリ注進状今日到来
則明日御出馬ノ旨ヲ秀忠卿ヘウケラシメタリ大久保助左衛門ヲ
信州ニ被遣

村越茂助清州ヨリ江戸ニ歸岐阜ノ次第ヲ言上ス

今日上杉景勝押勢ノ輩ニ賜御旨明日御出馬命景勝押勢法

景勝及佐竹真田ニテ所ノ押

常州鍋掛要水戸水谷伊勢守勝隆皆川山城守信正

下野結城景勝佐竹ノ押多賀谷依理大夫重經秀康卿老臣

同州宇津宮本城結城少將秀康ハ二郭小笠原信濃守秀茂三郭里見安房守景茂ヲ津宮蒲生秀行大須賀五郎左門

同州佐野要景勝此城左野冬經大夫政綱

房州立山景勝水戸押榎木大膳亮里見老臣

上州厩橋要真田沼田平岩主計頭親吉初秀忠公御供

同州三之倉石岡松平新三郎一生

野州烏山要景勝成田左衛門尉泰親

同州奈須同服部右見守半旗子松平三人ノ長

同 奈須衆 那須左京大夫 福原清路守

太田原備前守 菅野无逸

太閤去佐守 千本山城守

岡本宮内

同州黒羽

岡部内膳正長盛

上總勝浦 要水戸 植村土佐守

同州佐貫 内藤左馬郎政長

下總夫作 要景勝 水戸 鳥居左京亮忠友 父於伏見戰死故切乞供奉 下ノ一尺無邪赦免

同州小美川 松平主殿助忠利石三同

同州布川 松平伊豆守信一

羽州米澤 要景勝 伊達政宗 政宗奥州 在仙臺

奥州中村 相馬長門守義胤

同州加那 津輕右京亮為信

同州南部 南部大膳大夫信直

羽州山形 取上出羽守義光

同州坂田 近所林崎 戸沢九郎二郎政盛

同州由利

同時東海道 兵取、城番手

駿州沼津 未勘

同州興国寺 皇州 垂山城主 内藤紀伊守信正守之 菅治志之守

府中城 兵又加守此城 城主中村左衛門一采 關之 義八郎守之

同州府中 菅治志之守定仍守之 城主中村一角一忠 關之

同州田中 未勘

遠州掛川 内藤三左衛門信成守之 城主山内對馬守一豊 關之

同州濱松 保科肥後守正光 城主堀尾信濃守康氏 關之

但関原戦後正光守越前國北庄

遠州横須賀

康貞子三宅筑後守康信守之
城主有馬左番頭豊氏

但戦後康貞守勢州龜山城

参州吉田

松平和泉守家兼守之
城主池田三九郎輝政

同州岡崎

後守大山其後分濃州守金山松平左馬允北条元高以大夫氏勝守之城主

同州西尾

城主田中兵部太補守之

同州为屋

水野和泉守忠重但死後水野左衛門勝成守之勝成後兼命濃州曾根城守

尾州清洲

石川左門大夫康通松平左番頭家清守之
城主福高正則之但家清後守太山城

同州師崎

後任紀伊守松平又七郎家信 小笠原新九郎安元

此地要舟道也 道中难通之節御渡海之用意也 小笠原安藝守信元千賀孫兵衛重親守之
要无鬼大隅守

濃州苗木

城主岩村 城主高山
田丸中務 中務家人

右三ヶ所黨逆徒故山村甚兵衛千村平右衛門攻陷之
為加勢 信濃衆 小笠原勘負 上白 知久伊左門 今泉五介兼

釣糸加之

井伊直政居城 上州高崎

諏訪因幡守頼水守之

頼水後台駕至真田丹

須井宮内少輔家次居城 同州碓氷

石助

信州妻兒城

要村

小笠原左衛門信之守之

同州浪合

不勘

飛驒四高山

妻木雅樂助攻陷則思賞此地

山名中務禪問度太浦豐國

泉鈞命至但馬國

本國今彼平均島

武家事紀卷第二十四 續集

戰畧 関原下

九月朔日

神君江戸御薨駕江戸御留守居

御本丸武田信義主 万代

松平康元 因幡守

青山忠成 堂摩分

内藤清成 後理亮

酒井忠利 備後守

諏訪頼忠 安房守

松平清宗 備後守

菅治定盈 備前守

本多正信 佐渡守初從秀忠公至真田金銀無乏為之歸江戸直為御留守居

石川家成 日向守 領隠居免伊豆按縄五千石

天野康景 三郎兵衛三千石屬武田信義 後関原一戰無心元奉存密至方不欠儿

頼忠子頼政後秀忠公孫鈞 命守上州高崎 請宗子玄蕃頭宗清守清洲 定盈子頼命守行駿府及 奥國守三三 西御丸 家成子康通守清洲

御一戦勝利後ニ神君大御依色りテ乃大坂鬼
御由守居り

右之外

板倉勝重 四郎左衛門 町奉行
後任伊賀守

加藤喜左衛門 是左大将

伊奈忠政 熊藏後任 代官
備前守

同時大御番頭

松平某 忠左衛門後
任大隅守

松平某 善四郎後
任筑後守

松平某 右京亮後
任筑後守

水野某 藤次後任
對馬守

渡邊某 久三郎後
任山城守

御旗ニ厭離穢土依求淨土ノ文ヲカク此御旗ニ忽御勝利

アリ之也今日神奈川ニ御泊

今日濃州ニ加藤源次郎ヲ使節トシツカワセ味方ノ諸勢源君

ヲ待ウテ勳可然逆徒戦ヲイトト云モ不可輕戦肯各御唇

ヲ被下

中絶言秀忠郷今日信州小縣郡上田城ヘヲシヨセ玉フ上田ニ真田

安房守昌幸伊勢崎城ニ六左衛門儀幸村タテコモル秀忠郷

小諸ヨリ真田昌幸カ方ニ御使時昌幸返答ニ三成ニ与レ候

ニテラス會津ニ荒向ニ陳用意仕候テ引コシ居候即上田ノ

城掃除イタシ可奉渡トシテ一兩日ヲ夕セ奉ルコシ因テ味方

大ニ怒城外ヲ放火ニ城ヲトリツセソアイアリ大番衆内ヲスリ
リ五十人菊田ニ出シ敵ヲ引出セトス時ニ真田ク口四方ノ指
物ニ金ノ御幣ノマトイラモ夕ヒ城キワラ衆トラル大久保相模守
忠隣カ旗奉行杉浦宗九衛門是ヲ見テ旗ヲ押出ス牧野
右馬允康成カ旗奉行モ旗ヲスルニ付テ菊田ノ大番衆進
ヲイ木戸口ノ押ヨスルトイハ臣間遠ケハ真田ハ心静ニ門ニ入ラア
トヲ立ナセ足輕ヲ木戸口へ出シテ寄手ヲウツ味方門キワラツ
マヨセテ門ヲノラントス内ヨリ木石ヲ落シ左白石トトヲ寄手ヲ
負多シ寄手危ノ城兵キライカユヘニ大久保忠隣本多忠
政下知ノ寄手タリノニイタレ引トル者城攻ニ大番衆太田善太

夫ヲニテ城兵ヲ射ハラスニチノ矢ニテ小野二郎右衛門等居ニ
三人射殺ス

テ鎗ヲソキ合我ヤリテ敵ニトラシ敵ノヤリヲ取ル辻太郎助後改

木戸口へ急ニツク内ヨリ鎗ニテワタカシヲツクツ鎗ヲ奪トリケシ

小野カ鎗也辻己カ鎗ト二筋持居ル一方ハ中山助六後号

朝倉藤十郎後任統鎮目市丸門齋藤久右衛門城戸

口ニ付テセリ合アリ此外戸田半三水野大膳等戦切アリト

イハトモ無御下知城ヘツキ御軍法ヲソク由御意ニ付テイ

ツシモ城キリノ寄タル一ラカクス太田辻小野中山朝倉鎮目齋

藤七人御軍法ヲヤフリタ九首嚴命ニ由テアツク引込戸

田半平モアツクマニ蓄居結城三川守秀康ヨリ秀忠卿へ使者

来リソメヤク臺ニテ右ノ次第ヲ見物仕

ツノ後秀康ヨリアツコへ各小袖二領
ツ玉ハル此取戸田半平ニハ不賜也
過カモチシ鎗ヲ二郎右工門

己カ鎗ナシハトラント云是ニツソノ場ニテ出入出来各アツキテ
後ワラスト云此度家人モ軍法ヲヤフリシ答ニヨツテ太刀保

忠隣カ旗奉行ハ忠隣下知ラマクス自殺ス牧野カ旗奉行遂

雷ス此セリ合ニ本多忠政カ兵淺井小兵衛永田角右衛門能働ア

リ而シ城兵堅守リユニ寄手急ニ攻ル一不叶遠来ニノ教目

ヲ徑此間芦田衆依田肥前守足軽セリ合等アリ
本多忠勝 後ニ真田カ

此タルヲキイテ昌幸一代
ノ不覚タルハヒト云ヘリト也

右ノ取分森右近大夫忠廣カ兵ヲ虚空山へ早クアケテ真田

表ヲトリカケル此度忠廣カ家人名菴屋三光衛門 森庄藏 井

村串某 占ニ左工門 酒井某 作右衛門 或云酒井 兼司 御長柄

同時足軽大将

服部石見 二百人 伊賀衆 伊奈國谷 百人 成瀬小吉 百人 根来 渡部半藏 百人

渡部矢之助 五十人 水野赤節 作 上同 加藤喜光 門上 神谷登助 同上

榊原小兵衛 千人 高木九助 上旨 嶋田次兵衛 上旨 森川金齋 門上

此外未勘

御使番 牧助右衛門 山本新左衛門 横田甚右衛門

初鹿傳右衛門 交保助左衛門 大塚平右衛門 服部権大夫

阿部八右衛門 城和泉守 初名 織部 小笠原次右衛門 鈴木友之助

山上元右衛門 嶋田次兵衛 西尾膝兵衛 保坂金齋門

隱岐守
真田一徳未子
甲州テカヌ
市右衛門上吉
吏八幡五物

真田隱岐守 間宮左衛門 中澤主税助 小栗忠左衛門

安藤彦兵衛 成瀬小吉 米津清右衛門 小栗又市忠政

瀧川豊前守 米倉丹後守

御城ヨリ芝口ニテ出御ノ処ニ尾州ノ飛脚ヲサカリテテ頭十一

到来 赤坂ニライテ逆徒ヨリ 則神明ノ前ニテ御覽ノヨリ三縁山

廣渡院増上寺ニ入ラセ玉フテ法問ヲ御聴聞本則ヲ御所望ノ

處住寺存翁和尚天上天下唯我獨尊ノ内ヲ論ス是則天下ニ

一人ノ主タラセ玉ワシテ稱美スト也源君甚御快然和尚御昔

例ニマカセ御旗ヲトツテ草力直人ノ文ヲカク是ハ永祿 癸亥 六年十

月三州ニ一向宗ノ逆徒蜂起ノトキ大樹寺ノ登臺上人白布

土宇右衛門先陳ノ事アリ此遺恨ヲ以テ三右衛門井土ヲウツ

也三右衛門モ蒙死也 或云真田表ヨリ合 八月朔日事ト云也

美濃國郡上ハ稲葉右京亮貞通居城也貞通逆徒ニ与シ

加勢 尾州 トノ犬山ニ在城ス郡上ハ元遠藤左馬助常利代ノ

領処ニテ處ノ案内者タルトテ今度ノ軍功郡上ヲ襲取

テ本領ヲ安堵セシテ金森法印ニツイテ源君へ申上ケレハ

八月廿日御眷ヲ賜コトニ軍功ニヨツテ郡上ヲ被下ノ旨命セシ

テ六太喜金森ト勝シ合ヒ郡上ノ城ヲ可攻タメ美濃路

外田口ヨリ遠藤常利飛彈國ヨリ長滝白へ金森法印長遠

可攻入トヤクス両方ニ難所ナレハ人数ヲクリ合テ數日ニ及

ソノ處福葉者京亮貞通ステニ関東へ内通シ堀尾吉氏
福島正則コレヲトリアウカイ事スシケレハ郡上ノ城責無用ノ
由井伊本多兩人ヨリ告来ルシカレ是ニテ攻ヨセ矢ヲ不射
シテ引トラシモ本意トテ兩人ヲラシマスシテ九月朔日
郡上八幡山ヘヨシヨスル金森家人吉田孫四郎元ヨリ郡上モ
ノニテ案内者ナレハ尾崎山ヨリ郡上ノ古城山ヘトリ上ラシタニ
長瀬ロヨリ攻入遠藤ハ和良ロヨリ城ノ大手ヘヒノ入城ス貞
通カ弟修理亮後号福葉土佐入道大将ヲロカノ小勢
楯籠ニトニ貞通ステニ関東方ナレハ別ノ子細ナレト心易ク存

居不思寄イナリケレハ此崎甚右衛門郡波五右衛門中村
太郎左衛門ワツカニ人城下谷合ノ切取ヲカネトリ防戦ヲ寄
手切取ニサヘラシ不進得城兵中村スミ出テ鎗ヲツキ出スニアマ
サレ真サカサマニ下ヘヨツルコレニラシラタシテ金森ノ兵コトノ
ク坂下落トモ具足ニテ手負死人アリ中村モ打死ス此崎那
波城へ引入城兵原十兵衛佐合加右衛門等カ戦ス金森カ
兵ツイテ古城ヘヨセケレハ城兵要害ヲカマヘ矢ヲ飛メサユ
金森カ兵牛丸ニ郎左衛門今井平助南都宗四郎阿波賀佐
十郎戦死ス金森ツイニ尾崎山ヘ引トル飯沼源九郎門アト
ニコリ城ノ旗ヲ一流ウハイ取テカレ遠藤モ赤町口極所
陳ヲハリ急ニ攻ム不能城中ヘアウカイヲ入ル城中無勢ナレハ

且和談ヲ入ッノ中ニ小宅傳三郎ヲヒツカニ天山ヘツカソノ右ノ次
第ヲ告者京亮大ニ怒リ一騎カケニハセテ郡上ヨリ二重午前カ
ソヤス村ニ至テツクノ兵ヲ待ソロヘ九月三日ノ未明ニ討立郡上
ヘノリ入ニタノ遠藤カ陳ヘ打テカニ遠藤不意ヲウケテ彫川小
十郎同五郎四郎既驚見忠尤街門餌鳥作今角尤街門等打死
スソノイキホイニ右京亮城中ニ入り入ル其後アツカイニナリ金森
遠藤モ兵ヲ入ル也今日朔日ノ様子使節ヲ以テ源君花ニ
秀忠卿ヘ註進ス

二日源君藤沢ニ御着行程五里福鳥心則池田輝政カ使者ヲニ至
濃州リ岐阜落城ノ次弟ヲ言上ス或云

三日小田原御着行程八里武町竹中丹後守重門濃州岩手城主加藤尤門

尉濃州黒野城主逆徒ノ催促ニヨッテ犬山ニ加勢ストイヘ尾井伊本多

ヲタミテ源君ヘ内通ノ報キ小田原ヘ申来ル今日西人ヘ御昏
ヲ賜テ其志ヲ感セラシ今日徳永法印カ元ヨリ吉川内通

ノイラ奉告書付到来乃徳永ニ御内昏ヲ賜ル

四日三嶋ニ御泊七里ナ六町五日清見寺ニ御泊

六日嶋田ニ着御濃州味方ノ諸將各使者ヲ奉リ岐阜落城

ノ由ヲ告今日御旅館ニ到着ノ言上ス

七日中泉ニ御着

今日逆徒江州大津城ヲ攻此城ニ京極宰相高次京極長門寺高吉子

在城也初高次園東へ与ノ旗ヲ上タリトイヘ尺大谷刑部少輔
 吉隆カハカライヲ以テ和睦ニ及フ高次モ大義一旦ニ事ナリカ
 タテ六改節ヲ伺テ先通徒ニ後イ八月五日北国ノ加勢トノ
 越前ニ至リ加州大聖寺ニ陳ヲ張テ大谷吉隆カ下知ヲ待ノ処岐
 阜落城ニ付テ北国勢悉ク大垣へ可出旨申来リ大谷吉隆越前敦
 賀城蜂屋市兵衛ヲノコシ七里半ノ山中ニ日置足田ヲ置木目
 峠ニ岩根傳五郎ヲサシライテ九月朔日ニ敦賀ヲ立テ濃州ニ
 出テ北国勢脇坂父子中希少補安治
淡路守安元山川父子土佐守
左馬助戸田武藏守
 子息内記朽木河内守利綱赤座久兵衛直保各相從フ京極
 高次ハワサト一日引サカリテ敦賀ヲ立四日ニ大津ニ着ニ則我兵
 ヲ奉大津松本園寺迄邊ノ民屋一字モ不殘燒拂テ寄テ
 待コシ因テ逆徒吉川藏人廣家久留米侍後秀包立花左
 近將監宗茂流紫土野今義冬伊東民部少輔祐隆宮部兵
 部少輔南余中務少輔木下倫中守ニ多賀出雲守杉谷城後
 守ヲ案内者トシテ秀頼卿ヨリ小出大隅守吉政石河掃部頭
 頼明松浦伊豫守高田小左衛門輝元名代堅田兵部少輔
 廣隆毛利七郎兵衛元康輝元
伯父増田長盛カ名代増田作
 左衛門各大軍ヲ率ノ今月七日大津ノ城ヲ圍ミ長柄山ヨリ
 大筒ヲシケケ湖水ニ込江一國ノ船ヲウカヘテ海陸ヨリ取カム
 九日源君岡崎著御

九鬼大隅守嘉隆秀頼卿ノ舟奉行村上彦右衛門義清菅
野右衛門八兵衛毛利輝元カ舟奉行村上八郎左衛門能美孫
兵衛等軍船勢州來名表尾張路へ衝尾列トコナヘヘアリ今
月廿九日燒勵ライタレ浦ヲラ亂妨ス十二日來名へ船ヲツケテ十三
日九鬼兵秀頼ノ舟奉行濃州南宮出長束正家ニ對面ス正家
カ下知ニ由テ村上菅野八四日市ノ城ヲウケトリニ行九鬼鳥志州
羽へカ村上十四日ニ四日市ニ至ル十五日ノ晚長束只一騎関ケ原ヨリ
トイハレ長束不來ニハニ村上ハ
鳥羽へハ九鬼ニ兵會ノ列トル
黒田如水今日居城中津豊前ヲ立テ大友退治ニ出勢ス大友左
兵衛督義統本國没収ノ後毛利輝元ニアツケラレ周防山口
ニ浪々ノ處今度逆後等大友ヲ大坂へ招テ輝元并増田長
盛カハカライトノ馬百疋具足百領長柄鎧百本鉄炮三百挺
弓三百張同銀子三十枚ヲ与ヘ本國豊後ニハセ下リ豊前小倉ノ城主森
壹岐守ニ潜シ合セ九州ノ関東方ヲ可退治ノヨシヲ下知ス
コレニ因テ大友譜代ノ家人率人凡ラアツメ豊後へハ立石ノ
要害ヲ取立テ楯籠リ柴田小太郎ヲ四方へマワシ軍士ヲマツ
ム此立石ハ大友宗麟一亂ノ時コレニタテコモリ運ラヒラキレ吉
例ノ地也ト而ノ長岡越中守忠興カ領分へ出勢ノ木築豊後城ヲ
責ントス故ニ木築ヨリ加勢ヲコフ黒田如水方へハ上方ノ逆亂七
月十七日キコヘケレ尼委細ノ註進不詳ニハ四方ノ敵味方関合

九鬼大隅守嘉隆秀頼卿ノ舟奉行村上彦右衛門義清菅
野右衛門八兵衛毛利輝元カ舟奉行村上八郎左衛門能美孫
兵衛等軍船勢州來名表尾張路へ衝尾列トコナヘヘアリ今
月廿九日燒勵ライタレ浦ヲラ亂妨ス十二日來名へ船ヲツケテ十三
日九鬼兵秀頼ノ舟奉行濃州南宮出長束正家ニ對面ス正家
カ下知ニ由テ村上菅野八四日市ノ城ヲウケトリニ行九鬼鳥志州
羽へカ村上十四日ニ四日市ニ至ル十五日ノ晚長束只一騎関ケ原ヨリ
トイハレ長束不來ニハニ村上ハ
鳥羽へハ九鬼ニ兵會ノ列トル
黒田如水今日居城中津豊前ヲ立テ大友退治ニ出勢ス大友左
兵衛督義統本國没収ノ後毛利輝元ニアツケラレ周防山口
ニ浪々ノ處今度逆後等大友ヲ大坂へ招テ輝元并増田長
盛カハカライトノ馬百疋具足百領長柄鎧百本鉄炮三百挺
弓三百張同銀子三十枚ヲ与ヘ本國豊後ニハセ下リ豊前小倉ノ城主森
壹岐守ニ潜シ合セ九州ノ関東方ヲ可退治ノヨシヲ下知ス
コレニ因テ大友譜代ノ家人率人凡ラアツメ豊後へハ立石ノ
要害ヲ取立テ楯籠リ柴田小太郎ヲ四方へマワシ軍士ヲマツ
ム此立石ハ大友宗麟一亂ノ時コレニタテコモリ運ラヒラキレ吉
例ノ地也ト而ノ長岡越中守忠興カ領分へ出勢ノ木築豊後城ヲ
責ントス故ニ木築ヨリ加勢ヲコフ黒田如水方へハ上方ノ逆亂七
月十七日キコヘケレ尼委細ノ註進不詳ニハ四方ノ敵味方関合

今日出勢ニ及ヒケルト也

十日源君熱田ニ着御

逆後三成人林半助ニイ付テ濃州曾根ヲヤキテ曾根ノ要害

ヲ可兼捕手ヲナサシム曾根ニハ水野六左衛門勝成後任日向守

西尾豊後守光教在陳シテコレヲ守ル林半助呂久村浪人馬

淵兵左衛門元氏家志ノ守家ツカタライ間者トシテ曾根城

搦手瀨古村へ忍火ヲカケ曾根ヲ可兼取コラ約ス馬淵才覚

ノ高田秋山ト云浪人ヲカタライ忍ニコシラへ今月十日刈田ノ人

足ニコシへ瀨古村へツアワス刈田ノ奉行コレヲ見トカメケルハ二

人ハ落合村ノ川ヲコレテノル馬淵ノ瀨古村ノ名主宇野右近右

衛門ガ取ヘルケ入り此処ニ西尾豊後守光教カ姉女綾野ト云

ヘル女アリシヲ人質ニシル水野西尾カ兵コノ家ヲトリマクトイへ

氏右ノ通ユへ馬淵ヲホラフルト不叶ツノ内ニ馬淵云分イタシ西

尾カ内馬淵権方衛門ト曰友ナシハ権方衛門處ニアワカル其

後ツイニ馬淵ヲ殺シ首ヲ曾根ノ道ハタニカケシムルナリ

十二日源君清洲尾州ニ着御角清洲ノ方ヲワタリ玉イテ岐阜ヘラモセシマフヒト親手ナリ黒田ヨリ山ヘ行通也

大津ノ城中ニ大関ノ竈妻松丸高次有之コレニ因テ高野木

食奥山上人來テアウカイヲ入ルトイヘ氏高次不用之

十三日源君岐阜ニ着御北国青木紀伊守丹羽長重各降参

ノ義ヲ乞フツテ今日土方勘兵衛雄久カ元へ御旨ヲ賜テ

中納言利長丹羽長重ト和睦アリテ裁前表ウケシタカヘル
ヘキ一ヲ命セラル

黒田如水九日ニ中津ヲ立テ十日ニ富来豊後國 垣見 和泉守 十一日ニ安岐豊後國

城下ニ至ル熊谷百敏久 居城 城ノ躰一覽初ノ如ク大友カ元ヘ大如大

学元大友 家人 ヲ使トノ味方ニ属セラルヘキ一ヲ云ツカワス此使ヨニ

キタル大友木築城ヘトリカクル由ヲ告長岡忠典家臣松井

佐渡守有吉四郎右衛門カ元ヨリモ加勢ノ一ヲ告来ニツイ

テ安岐ノ城責ヲサシヨキ立石ヘ趣自中津 十三里 ントスレカス先木築

ヘ後詰勢ヲツカワスヘシトテ十二日先立テコレヨツカワシ十三日

如水モ木築ヘスル処安岐城ヨリ付出ルノ押トノ東山倫後守ヲ

臨ニコレ敷タララカタ取テ居ラシ如葉安岐ヨリ兵ヲ出スル処栗山

ニシト渡シ合追拂頭数四十餘ヲ取コレヲ中津ニ遣シ高瀬川

ノ西ニカケシム十三日ハ如水立石ノ三里手前カシラナリト云トコロニ

陳取如水ヨリ加勢十二日ノ晩ニ木築ニ付十三日ノ朝木築

勢松井有吉如水カ援兵ト石垣原ニ出テ陳ヲハル大友義

統帥師ヲ出張ス先陳木部玄琢ニ陳義弘加兵衛行親後陳藤

掃部也如勢先陳森与三兵衛辰枝平太夫ニテ手久野次右衛

門尉曾我部五右衛門池田九郎兵衛黒田安大夫也井上

九郎右衛門実相寺山ニ備テ如水方ノ大将タリ其次松井

有吉相備ヲ初合戦ニ大友カ兵敗北ス黒田方ニクルヲ追スカフ

處ニ大友カ兵小川ヲヘタテカヘシ合三備ラツニシテモリクニ如

方久野曾我部カ兵悉敗北シ西人小藤ヲ抵テ軍勢ヲト

レ氏不叶西人戦死ス 曾我部ハ宗像
掃部ト引組テ指違 井上実相寺山ヨリ備ラ

フロシ横ラツ井上大友カ將義弘加兵衛行親トツタシ合セ

小ミソラヘタテ戦フ互ニシレルモノナレハ名乗合ラ勝負ヲナス

処ニ井上カクマヤリ義弘カ内曹ニカケテケレハ義弘重キニニ居

黨ニ引ナケラシテ退ク義弘カ鎧モ井上ニアタリケレモツキソヒ

レテ不當身此場ニ義弘ツイニ打死ニ手ノ者八十三騎雜兵

百九十七人戦死ス此戦ニ井上カ備モアヤウカリシラ野村市右

衛門 志根ノシナイ若坊
ナニシテ十九歳ナリ 横ヨリ打テカリ大友カ勢悉ク敗北ス大

友カ勇士吉良傳右衛門ハ井上カ内大村六大夫是ラウトル

長岡カ兵魚住右衛門兵衛中村次郎兵衛分捕ノ功名有

吉和手ヲ負テ引トリカ子居タルヲ小栗次右衛門ノ首ヲアケテ奉ル也
コノニ吉弘首小栗ウチタリトイシラ井上ヤリツケタララモテツイニ井上

十三日ノ晩黒田如水実相寺山へ着也

今日上相景勝カ老臣直江山城守景純畑屋城ヲ責ム初ノ

景勝會津領ニ長沼城嶋津下下齋白川城五百川縫殿助平林内藏助

白石城ニ甘糟備後守柳川城ニ須田大炊助横田守及本崎義隆等ニ

本松下余駿河守南山小国但馬守福嶋城本庄城前守重長米沢城ニ

直江山城守是繼ヲ入置リ會津城分内不直トシ神刺原城取立トシ議

ストイハレ未首尾内源君御征伐丁成セハ米沢福嶋ニ番勢ヲサシ

置テ本庄直江ハ會津ニツメテ軍ノ評定ヲナス本庄ハ白川口
へ働テ可然トイ、ケルヲ直江思慮ノ取上へハタラク人シト云奉
庄云敵ノ向方へハ不出メ出羽國へノ働ハイカト云ケレハ内通
ノ者有之ユヘナリトテ今日十三日春日左衛門上泉主水ニ人教
ヲサシメ大関弥七杉原常陸ヲ軍奉行トシ直江山城守大將ト
シテ取上出羽守義光領地村田郡へ下長井口船貝ヨリ畑屋城へ
押寄白山形道畑屋四里畑屋城守江口五兵衛ワカ小勢ニテ大敵ヲセシ
不可叶ノ間城ヲステ、山形ニツホムシト義光教度コレニ告トイトモ
江口不肯日比小身ニテ塚目ヲ守ル処大敵ノ困ラウニテ退ルル
道アハカラス此城ニライテ快死ヲ可逐ト云キルニ付テ山形ヨリ後
責トシテ飯田播戶守伊良古弾正高館遠江守松根備
前守小国日向守延沢遠江守名代氏江左近名代富並
忠丸衛門寒河江肥前守同外記寺都合二千余人ノ
援兵タリ直江ハ十二日ニ畑屋関ヲ越城向ノ山ニ陣ヲ取リ城
ヲ圍ム山形ヨリ後責ノ軍勢寄テ大勢ヲツカイ各評議シテ
ハ此城ノ落去不可有日シカラス直ニ山形ヘラシヨセ攻撃之無
疑此人衆ヨニテ戦死無益シカレハ身ヲ全ノ山形一戦用ニ可トテ
築沢村ト云処ニヒクテ畑屋城ヘカテ不付飯田播戶ニケルハ此迄
加勢トシテ出勢シ江口ヲ捨救ヲ歸ラシテ堂勇士ノ本意ナラニヤ
各ハトモカクモ飯田ニライテハ城中ニ入テ江口ト云ニ死ヲナスヘシト云畑

厚城ニカケ入ル其夜江口ヲ謀ラ以テ寄手ノ夜打イタシ春日在
衛門ガ陳ラヤク寄手大勢ウタルアケレ六十日ノ朝直江カ先勢畑
谷ヲトリマキ攻撃之城兵甚カ戦スレバ城中微勢ナレハ
ツイニ落城江口五兵衛同嫡子小吉甥久佐ハ本城ニ自殺
後責勢飯田播ノハ二郭ニ戦死ス築次ニヒカタル山形ヨリ
ノ加勢ハ落城ヲミテ悉敗軍シ山形ニ引カヘス直江ノ下原ト云
所ニ陣ヲトリテ畑屋城ニ弟直江但馬守ヲ城代トシテツノ身ハ
十四日長谷堂ヲ攻ヘキ用意府長谷堂ノ向菅沢ノ山ニ陣ヲ取テ
諸手ヲツメ長谷堂ヲ可攻トテ議ス 景勝願ムカケテ川ニタ西処ニ
接アリ相馬ヲ引入此取上泉主
水ニテ退治ニ出テカ戦ス此取上泉カ家人友町大勝戦功アリ

十四日源君岐阜ヨリ木田ノ舟渡延田郡ノ道筋ヲトヲラセ
テ安八郡八奈村瑞雲寺ノ禪僧大ナル柿ヲ一折献上ス公
大ニ悦ハセ玉フ 濃州 大垣手ニ入ト仰テ御近習ノ軍ニイトセ玉
フ則末代ノ寺領十石ヲ賜フ俗ニ柿寺ト稱ス而メキノ刻志坂
ノ岡山 岡山ハ志坂ノ南三町四面ノ小山也去月
廿三日ヨリ此山ヲ陳城トノ御本陣ト定置也 御陳ヲスヘラル此山
ハ清見原天皇大友ノ皇子ニヲソワレ吉野山ヨリ伊勢路ヲテ
此山ニアカリ玉フツイニ大友カ戦ニカチ此山ニアカリ此下ノ川ニテ
矢瘋ラアライ其苦ヲ治シ玉フニ山ヲ勝山ト云川ヲ苦愈
川 又苦整 瀨川 ト勅號アリシト也源君岡山ニ入ラセ玉イ先山ト
セイロウノアカラセ玉イテ逆徒ノ体ヲ伺ハセ玉フ諸大名群参

ストイハ慰勞ノ御言モナリケレハ井伊本多心得テ諸大名へ會釈ス而ノ明日ノ軍評定アリ

今日源君御着座ニ付テ諸大名路次ニテ為御迎出其様子ヲ伺ヒタメニ逆徒三成カ兵嶋左近同新吉安宅三郎右衛門ト控兵士少々召ツレ出ツ嶋左近ハ控ハカリ召ツ兵士ハ新吉ト安宅トニアツケ置合因寄可奉ト約ス左近杭瀬川ヲコヘテ赤坂取出ノ前ニ出ル其所中村一角有馬玄蕃頭カ陳場也兩将家人モ源君御着座ヲ可奉見トテ出ケル嶋左近ト控ヲカクルヲ見テ中村ノ家人出峯左近

カ兵士甚スクナケレハコレヲアナトリ嶋左近カ是控ニト取ケル

中村カ兵中村名代トノ中村彦右衛門甘利甲州甘利カキ也藪内近

野一色頼母赤井久左衛門高屋助八郎夫野和泉成合平左

衛門酒井兵右衛門吉田武左衛門長野六郎二郎竹田

五郎兵衛原田出遇テ嶋左近カ是控ヲ追崩ス左近川

ヲ引テ引カケ既ニアヤウカリケルヲ新吉安宅ノリ入テヲガ

ヘシ枕瀬川ヲコレヲ中村カ兵ヲオウツ甘利ヲハシノ野一色

頼母原田竹田ナトお死ス三成カ兵嶋左近同新吉安宅

三郎右衛門前野伊豆丹羽五平次前本佐左衛門以下

戦切アリ源君赤坂ヨリ御覧アツテ猩々皮ノ羽織ヲキタル

モ一番ニ出テ下知イタシフリ見事ナリト仰アリシハ此安宅

也 丹波五平次モ 狸ノ皮ノ
羽織ヲキルトイハニハ跡アリ

中村カ兵士追立ラシタルヲ見テ有馬玄蕃頭カ兵成合セ

三成カ兵士ヲ引トルヲツクル安宅又足輕ヲマトイテウチカクル

玄蕃内稻次右近 後辨 壹岐 大田半平岡本清三郎 後辨 石衛門

篠瀬左大夫淺野彦兵衛土方六左衛門澁半左衛門池

田スツヘイ松浦トロカケ出テ追崩ス稻次一番先ヲカケ横山監物ヲ

至ウチニイタス 横山監物又辨弓削監物三成カ家臣請生倫中
家人ニ此ウチノ此稻次下ニナリシヲ稻次カ馬トリ

上ヨリ監 又三成カ兵花本外記ト鎗ヲ合ス篠瀬左大夫岡本

清三郎鎗ヲ合セ戦切アリ此時逆後方宇喜多秀家カ

兵士カケ付テ戦切アリ而シテ物ワレイタセリ三成カ兵林半助泊

相物 秀家カ兵稻葉助丞 金ノキリサ ナ相物 兩人殿ス中村有馬カ兵

多クウタシケルニ味方ノ諸手川ハタニソソニテ戦ライトム逆後

方兵士カサシケレハ源君赤坂ノ町ヤノ上ヨリ御一覽アツテイキ

井伊本多ヲ被遣コレヲ引トラシムヘキトノ一也兩人抗瀬ニ

イタリ引トラシム 兩人ハニスハタニ
テ羽織ヲ着ル

右兩度ノカケタイ 逆後利ヲ得首尾ヲ大垣ニテ実檢ス首ノ

色ヲレキ由各評定今度ノ戦無心元トイヘリト也此セリ合ニ

秀家カ兵明石掃部 白シナイ
ノ相物 三成兵淺香左馬稻葉猪右衛門 銀ノ
針

前立金ノエヨルニ
タレ白鎧一幅 フソヨシトノ評也

凡ソ味方八月廿三日岐阜落城後ハマトク赤坂ニ入

テ赤坂ノ四方ニ陳ラル大垣ト佐和山ノ通路ヲトメシタ井

江州

伊本多両氏ノハカライトシテ長松ニ柳監物直盛ヲ陳トラシ

長松ト元竹中カ所領也近年ハ武光武部少捕有之武光ハ岐阜落城ヲキイテ廿三日ノ晩勢州末名ニ逃長松ノ要害ヨリ

多堀一重ニテ屋敷カマヘモアサナルヲ以テ逆徒三成カ方

ヨリ度々忍ヲ入テ長松ヲ乗捕ントス一柳兩度マテ忍ヲトラ

ヘ井伊本多カ元ニ遣ス兩氏モ度々見分ノ多ク長松ニイタル

此地干要ノ所ナリ諸手ヨリ人夫ヲ出シ要害ヲ堅固ニイタ

シ一柳守ラシムヘキトテ藤堂仇渡守高希ナリソカヘ普

濟ヲ企ツル内ニ去ル朔日御出馬ノ旨加藤源太郎為使節

来ルヘシラヤム長松左方東ハ大垣ニ近シ前南毛利家

ノ大軍アリ右ノ方西ハ松尾山関箇原ニ上方勢充滿ス長松ヨ

リ岡山へ新道ヲアツル長松味方ノ陳ヲハナル一廿餘町也一

柳堅ク守之曾根ハ初松下石見守在陳ス此處ハ赤坂海道

ヲヤユル取也コトニ樂田ニ嶋津陳城ヲカマヘセイロウヲアケテ

赤坂海道ヲ取キラシトイタ嶋津方ヨリ度々呈控ヲカケ松

下トセリ合引取サシニ領家トニ村へ火ヲアケ樂田へウチ入然

ル曾根大事ノ地ナリトテ井伊本多見分ノ上水野六左衛

門勝成在陳ス西尾豊後守古瀬村ニ陳取テ曾根ヲカケ

樂田ト曾根ト兩處赤坂ノ道ヲタテハサム也曾根ハ元稻葉居城此ハ堀ニ垣リ平地同前逆徒岐阜落城ノ後諸方ノ寄手ヲ大垣近處ヘマ子キケル

ハ筑前中納言秀秋ハ松尾山ニ陳ラル北国勢大谷刑部少
輔吉隆朽木辰坂小川寺西下野守戸田武藏守平塚因幡守
木下山城守赤座久兵衛ハ関ヶ原ノ西北山中ニ陳ラル伊
勢口ノ逆徒毛利長曾我部ニ長束正家相加テ南宮山岡カ
鼻ニ陳ラル石田小西嶋津宇喜多ハ大垣ヲツマリ居テ軍評
定ライタシ諸大將ヲ大垣ヘミ子キ日夜群議ヲコラスツ此西
美濃北山廣瀬ノ谷ニ高橋修理亮ト云モノアリ古太閤ヨリ
コノカタ存知ラシシモノナレハ三成カハアライトシ秀頼卿ノ馬廻
ノ侍廣瀬兵庫助知行ト云モノヲ高橋カスヘツカワシ廣瀬糟
河ノ谷ノ野伏狩人千人ヲ催シ高橋修理廣瀬兵庫助兩
人大將トシテ赤坂へ出テ関東勢ヲ可襲トテ黄金百枚ヲ与
ヘ才覚ツカラス廣瀬兵庫助彼地ニ行テ此更ヲ高橋ニ談ス高
橋不肯シテ事ヤミス如此四方ヲカラクリテ数日ヲ送ル内ニ
毛利輝元カ臣吉川藏人廣家ノ許へ德永法印カ方ヨリ南宮ノ
祢宜左衛門大夫ヲ使ニシテ和睦ノコトヲツクワイケレハ吉川ツイニ
関東へ内通ノ誓旨ヲ出ス此旨八月廿六日德永方ヨリ一ツ
旨ヲ以テ関東へ言上スルノ处小田原ニライテ入高見則德
永方へ御旨ヲ被下テ西日赤坂御著座ノ日栗屋十郎兵衛
ヲ人質トシテ献上ス筑前中納言元ヨリ関東へ志ヲ通スルカ
コニ大垣不出合逆徒コシラ疑ノ平塚因幡守為廣ヲ使トメ

秀秋ニ紙ノ誓状ヲナサシム尚ウタカワシキ事多ケレハ十四
日ニ矢田半右衛門ヲ使トシテ秀頼卿十五歳マテハ関白
職ヲ秀秋任シ天下大小事ヲマカスヘシ當分ノ雜掌トシ
播広國ヲメイラセ家臣稻葉依後守平岡石見守江州ニシ
イテ十方石マ与ヘ西人ヘ當座ヲ引出物トシテ秀頼卿ヨリ黄
金三百枚ツゞ可賜旨ラシルニ三成吉隆正家行長惠瓊秀
家連判ノ誓状ヲ稻葉平岡カ元ニ遺シ秀秋ノ心ツルトイヘ
秀秋深ク關東ヘ志ヲ通ス

今日源君赤坂ヘ御着陳ニキワセリケレハ逆徒方大將爲秀
家ノ依ニラウモリテ軍ノ評定ハ大軍ワツカノ山城ニ楯籠ル

謀ナキニ似タリ関箇原ヘ出テ佐和山ヲ後ニマテ一戦ヲ可決一

陳ハ三成嶋津小西安國寺秀家也ニ陳ハ大谷ヲ大將トシ

國勢タルヘシ松尾山ノ秀秋南宮山ノ毛利カ軍勢自山上迄山下十八段也

横アイヨリ可打出ト定ム而ノ大垣ノ城本丸ハ福原右馬助直

高ニ郭考備中丸熊谷内藏允直陳垣見和泉守家純木村宗左門

木村當陸介所ラキ石ル者也三ノクルソニ高橋秋月相良ヲ入ラキテ堅ク

マモラシム

味方ヨリ入置處ノ忍ノモノ尺ハセカヘリ逆徒明日関箇原ヘ

出張ノ告アリケレハ明日ノ御先手福嶋左衛門大夫正則其

次井伊本多左右ニ備ノ北ノ手ハ加藤黒田藤堂并

長岡金森より南宮押勢トシテ池田淺野山内右馬中村樽
井ト野上トノ間ノ山チニ陳ラルヘシ長松ニハ一柳監物岡山
ノ御留守居堀尾信濃守吉氏池尻ニ松平丹波守康長津輕右
京亮為信西尾豊後守松下右兵衛曾根ニ水野六右衛門勝成也
合戦ハ松尾山ヨリ筑前中納言秀秋アイツアルヘシ是ヲ可待
令リ軍令也御旗本ニ八田中兵部少輔吉政地形ノ要内者タ
ト可罷布ノ肯被仰出モリ兵沢井九衛門祖父江法齋
森助解由奥平藤兵衛也
此敗逆後方ノモノニ乾次郎兵衛沢
田小三郎ト道ニ行合言ヲカウシ引退
今夜ニ入テ大雨甚シ

今日畠田如水橋大友義統昨十三日如水実相寺山ニ著陳
シ今日十四日昨日ノ戦ニオトル處ノ首実檢シ乃大友カ楯籠ル
立石ラセメントス立石ハ東ハ海西南ハツルミカ嶽ト云高山北ハ
石垣原トテ廣野也岸高ノ屏風ヲ立タルカトシ大友義統昨
日ノ戦ニタノミ切クル勇士ヲトククウタレケレハコノ口四方ヨリ
カリアツメタル軍勢ナレハ一夜ノ間ニ皆落失テ義統立石ノ麓
城カナイカタシ因是如水カ先手毛利太兵衛尉カ陳ヘアツ
カイヲ入降参ラレシ義統剃髮染衣ノ姿ニナツテ主従十人
多兵衛カ陳ニ来ル如水一命ヲタスク義統ライケトリ則中
津ヘ遣シ関東ヘ言上ス柳川ヨリ立花カ兵豊後ノ日田ニ出
張シ大友ヲスクフトイヘ凡石垣原ニテノ戦ニ大友敗績シケルヲ

キイテ早々柳川へ引ルヘス加藤清政自師ヲヒキイテ豊後
国タス郡ノ方ノ山陰ヨリテ出シ黒田ニ助力セントス中川修
理大夫大勢ニテ豊後ノ竹田ノ城ヨリ立石ニ出張シテ黒
田如水ニ加勢ストイヘ各石垣原一戦ノ後ナルカユヘ引ル
竹中源助子采女正ハ如水ニ後テ此戦ニ出合也

後改伊豆守

今日大津ノ城隔大津京町口ハ三田村安右衛門尉今村掃部
助丸茂万五郎赤尾久助辰子宮内少輔由井太郎左エ門
ナリ三井寺口ハ友岡新兵衛尉淺見藤右衛門尉荊川筋
ハ赤尾伊豆守山田大炊助後改多賀
越中守同三左衛門尉守之此城良
ノ方一方ニ湖水ノ要害アリ殘三方ハ平地ニ関寺三井寺ノ

方ハ山高ノ城中目ノ下ニウカワルルシカシハ久シク篁城カナイ
難カルヘシト云ヘ高次堅ク守テ寄手攻メグミ松浦伊豫
守ヲ先トシテ討死ス去ル十日マテハ遠攻ニイタシケルカ
城兵黒田伊豫守野心ヲサシハサシ寄手ハ内通セシメケレハ
寄手ヲシニ利ヲ得十三日ノ朝ヨリトリマキ急ニセメ二三郭
ヲヒメ破ラ相戦ノ寄手多賀出雲守アキニ城兵ノ首五
ツウツトル此旨則大坂へ註進ニ付輝元長盛多賀ニ感唇
ヲ与エ右ノセリ合ニ由井太郎左衛門尉門役ヲイタシ山田
大炊赤尾伊豆淺見藤右衛門ナト皆夕テ出サレ山田赤尾
ハヤウヤリ濱ノ手ニマワリ城へ入ル淺見ハ寄手増田佐右衛門

ルキノモノノ村野金六ト云モノニ近付ニ増田カ陳ニ入テ死ラ
ノル後生捕ニナレリ本城ニテニナリテ籠城カナイカ多ク今
日十四日和睦相トノホリ高次ハ園城寺ノ内雲光院ニ入
ソレヨリ高野へ趣也

十五日朝細雨降 逆徒夜中ニ大垣ヲ立テ牧田

大垣ノ間道 西南

ヲ入兵ヲ関箇原ニ出ス石田三成ハ小関村北山ノ尾ニ台テ陳
ヲル長篠ノ例ナリトテ陳ノ前ニヨイヨリ柵ヲ二重カマヘシム

嶋左近蒲生倫中光千多リ嶋津久七郎丸茂助兵衛高野
越中小野庄助丹羽五平次安宅三郎右衛門以下逆徒ノ勇

士ソナヌ小関ノ南ニテタリ一段小高處ノ山ノ尾崎嶋津茂弘
八百餘騎ソ次ニ小西行長安國寺ソレヨリ南ノ道節ニテ守

喜多秀家カ陳場也石原峠山中ニ大谷刑部少輔大將ト

シテ北國勢ヲソナヌ平塚因幡守戸田武藏守ハ秀秋裏キリ

ノヲサトノ松尾山ヲ志シ引キテ備フ大谷刑部少輔子大

學助吉勝吉隆弟木下山城守頼継ハ逆兵ヲ率メ道節

東へ出向テ備フ大谷吉隆ワサト鎧ヲ不着也

急ニ自 殺スル也

味方ヨリ物見忍ノ輩今晚来テ告ケルハ逆徒大垣ヲ出テニ

方ニ分リ方仇和山一方ハ関箇原へヲモムク躰ニハタルヨシヲ

告源君モ御出馬ノツテ野上ノ里ノ西桃配ト云山原ニ御旗

ヲ立ラル赤坂ヨリ関 原へ三里 岩手村北ノ山手ニ金持越ト云テ赤坂

青野へ先陣道あり是ヲサシフサクキ由命ヒ元先陣福嶋
以下夜中ヨリ打立テ胴筋ノ道ヲ一文字ニ押出テ井伊本多
相ツイテ備ヲ押入細雨露ヲクシテ前後モ見ヘワラス胴
筋ヨリ黒田長政長岡忠興加藤嘉明筒井定次金森父子
平カリ也山中北國勢ノ方ハ藤堂高虎京極高政蜂須賀長
門守幾田有樂同河内守津田長門守佐久間久右衛門久六也

福嶋正則カ軍勢胴筋ノ道ヲ一文字ニ押行ケルハ逆後宇喜
多秀家カ軍勢大軍ニ未ラシ詰メスラカリ行処へ出合セ

秀家カ兵ノ真中ヲウキワリコトク追討テ秀家カ兵一番ニ

敗軍ス長岡忠興加藤嘉明関箇原所口ロマテ未明ニ押出セ

正霧ヲカリメミヘワラス西人相談イシシ霧ノハレマラ待合戦可

仕間御旗本ヲツメラルヤウニト忠興カ兵沢村才八嘉明兵田

辺彦兵衛アトへ使ニキ樽井近取ニテ井伊直政ニテ此首

ヲ云直政此ト上ヲウケトリ西使ヲバカヘス田中兵部少輔直政

御旗本ニアリケルカ取ノ案内者ナハ是非先陣ヲ可任由申

ステ諸手ノアトヨリ間道ヲヘテ小関村ヘラニ出シ逆後

三成ク陣へ切テカス三成ク兵嶋左近嶋津又七郎其外戸

田内記以下ニカケ立ラシテ三町ハカリニサリケルヲ長岡忠興

加藤嘉明寢カスル処へ黒田長政金森戸川肥後守岡田將

監以下平カリニカウテ三成カ勢ヲ切崩ス忠興カ子与一

即^中第^中五蕃頭各戦切^り秀家カ大軍福嶋ニ切崩サ^レ三
成^ル退兵加藤黒田田中以下ニカケ^テ立^ラシケ^レハ小西安国寺秀
家カ旗本悉^ク敗軍ス嶋津義弘カ戦ストイヘ^テ大軍ヤ^ク
立^ラト、ムヘキ手立モナ^シ

黒田長政ハ小関村ニシイテ三成カ兵ニアタリソ^レヨリ筑前中
納言秀秋カ子テ黒田ニタヨツテカ^レリ忠ノ旨ヲ請^ケルニ命
因^リダメ秀秋カ陳ニ至^ル也

藤堂高虎ハ服坂朽木等ウラキリノ才覚カ子テ有^レ之^レハ北
国勢方へ出向家人藤堂新七郎先手ニマキ^シ朝カケイ

ク^レ頭ヲ得諸^クノ一番頭ナリトテ高虎カ兵高橋金右衛門
御旗本ハ持参ナリ而^シ高席北国勢ハカリ敵^ヲウツ岩佐

五助^{大谷吉隆}母^{辰ノ}兵^ヲ藤堂仁右衛門討取也

北国勢秀^ノ秋カ別心ヲ知^ケレハ^レコヲ弟一トチアテスル処ニ
秀秋松尾山ヨリ大軍一同ニ北国勢ノウラヘキリカル平塚
因幡守戸田武藏守カ子テ心得^タイナ^レハ秀秋カ勢ヲ散^タ
ニカケテ^テス秀秋カ兵田中島左衛門布目新平以下討死
ス秀秋大軍ナ^レハ是ヲト^テモヒス入^カヘ^ク相戦ノ京極高政
以下ノ北国勢ハ手向味方ヲソイウツ處ニ服坂小川赤座
朽木一同ニウラキリシテケ^レハ北国勢立足モナ^ラトク^ク敗北ス
軍半^ク時源君神馬廻ノ勇士^ニ一同ニカケ入^テ相戦^ノ伊

丹兵庫頭河村助右衛門奥平藤兵衛村越兵庫於此国勢戰死

死ス小坂助六安孫子善十郎福熊市左衛門兼松又四郎

坪内喜太郎長男惣兵衛二男加兵衛三男佐左衛門四男

太兵衛内谷理右衛門以下各力戦し戦切り御旗本ノ眼

近ノ者八米津清右衛門小栗又二也西人氏ニ御使番其外切る衆ハ皆上

方衆也南宮之逆徒等不肯戦皆敗北毛利家兵隊内府

井伊兵部少輔直政ハ先手木俣土佐守二ノ手鈴木平兵衛

ヲ備シ宇喜多カ備ヘカリ大戦木俣カ手ニテ照坂五右衛門

中村与三兵衛小幡勘兵衛兄弟戦切り直政ハ下野守忠

家人可児才藏帝以甚為美物俗稱世才藏長刀ヲヨコタヘ他家ノ人ハ一人

モ先ヘトラスヘカラストノシリケルヲ直政一源君ノ仰ヨツテ先

ヘ乍候ノタメ出ル由云ナクノ則衆出シ嶋津カ陣ニカケ入大ニ

戦ノ忠吉力戦シ玉ヲ嶋津家人松浦三郎兵衛ト短兵ヲ

交引組テ落ツイニ松浦ヲ討取忠吉ノ兵嶋津九兵衛馳来

テ首ヲカク処ニ逆徒大勢ヲツイ来トイヘ兵忠吉ノ兵阿知羽角

助等馳フサカリテ相戦井伊直政小栗又市八方ニ相マタリカ

戦ス忠吉組ウケノ敗馬ハナシ玉ヲ直政ノ家人武藤六大夫己

ノ馬ヲ奉ル初渡部弥五右衛門来テ馬ヲ奉ル処武藤来テ汝ハ疵ヲ蒙レリトテ己カ馬ヲ奉ル

十九歳或云忠吉ノ討玉ヲモノハ長尾新六也新六ハ子石田三成養子分ニテ呼ヨセ置ケルトソ

本多中務少輔忠勝ハ嶋津義弘字喜多秀家ノ陳ニハセ

入カ戦ス忠勝秀忠卿ヨリ賜リ元三国黒ト云名馬ノ長九寸

或云此名馬自去開秀吉賜之

ホトアリケルニ乗テ四方ヲ下知ス此馬嶋津カ兵ノ鉄炮ニ当リ

タラシケレハ家人梶金平己カ馬ニノセシム忠勝カニ男内記忠

朝後任出生年十九歳勇カ人ニスクレケレハ逆徒ヲ二人胴キリ

ニイタシノツタル太刀ヲ鞭ノ前輪ヲラシナラシ尚来ル敵ヲ

マツ本多カ兵山口至水永田角右衛門加藤忠左衛門吉原

新助長野新四郎青山三四郎各カ戦シ本多カ兵討取

首級九十余也或云永田長環守忠政後ヲ上甲表戦アリ

福嶋正則カ兵福嶋丹波尾関石見長尾隼人可見才藏大

崎玄蕃喜多次郎左衛門松田下総吉村又右衛門梶田新

助後改福嶋式部林亀之助武藤修理仙石但馬以下戦

切アリ

石川伊豆守一番首ヲ得テ御感書ヲ賜

逆徒石田三成カ家人嶋左近蒲生備中高野義中小野

庄助安宅三郎右衛門丹羽五平次各カ戦蒲生備中ハ織田

有樂長益ノ兵千賀又藏是ヲツキタラシ有樂ニ頸ヲカ、

シム備中子大膳八田中カ手ハ討取嶋左近カ子新吉ハ藤堂

高虎カ兵藤堂玄蕃元関白秀次家人秀次自殺ノ後高虎

守ヲ預クトイハ臣玄蕃秀次自殺ノ既逃レクルヲ存ノ必死ニキリ

メヒソカニアトヨリ来レリ玄蕃関原ニテ看唐冠曾是秀次ノ所与

也又云高
所也
ト組テ新吉玄蕃ヲウツ玄蕃カ家人赤尾ハヒ来

ヲ新吉ヲ打取
新吉者星曹
緋威具足

大谷吉隆ハ秀秋カウラキリノ眈度々ノカケアイニ利ヲ得ト

イニ北国勢ヲトクウラキリイタシ大谷カ兵下河原宗右衛門

牧村三九衛門尉閑齋堅者京川太郎兵衛池沢七郎兄身

佐久間勘右衛門若林八兵衛村木小三郎平子清兵衛以下

百餘人戦死シケレハ吉隆馬上ニテ自殺ス家臣岩佐五助吉隆母衣

モノナリ藤堂仁右衛門
以錯シテカクハラニサレキ戦死ス三浦喜太夫

大谷カ首ヲミツケ大谷カ甥ノ僧祐玄ニワタス祐玄袈裟袈

吉隆子大學助吉勝吉隆弟木下山城守頼継ウラキリノ勢

ニツミシテ不残ウタル大學助ハ乳子橋本久ハカス、メニヨツテ

敦賀ノ城ヘカリケレハ城中ニ野心者多ケレハ直ニ大坂ヲサシ

ヲ落行也

秀家カ兵明石掃部全登金森カ勢カト戦功アリ

嶋津義弘敗北シテ伊勢地方ヘナダシクウルヲ筑前中納言

秀秋カ兵稲葉佐渡守平岡石見守松野主馬三人ハニ狸ト緋

ノ鼻足羽織ニテ討テカリ相戦フ嶋津兵カ戦メ更ニクツシ

ス段々ニ引トル然ニ井伊直政カ方ヨリハ遙ニヘタリケ分南

方ヘラス人数ハ敵カ味方カト直政ウタカフ松倉右近重正後任

豊後 敵トミクリトイヘルワサトソラシラズシテ不告ノ取直政

カ兵甲州衆ノ内ヨリマキレモナキ敵ナリト云直政キイテ敵ヲ

目ノ前ヲトラスフヤアルトノシリマツ先ニカケ出ス直政カ兵相

ツイテ戦フ処ニ嶋津カ兵ヲリシキテウツ鉄炮ニ直政癩ヲ蒙

ラ落馬スコレニ因テ直政カ倫モナクリケルヲ関長門守一政初

犬少ノ加勢後属 下知シテ備ラ立ナラシ兵ヲマドメ追ル嶋津

源居此度在直政陣 中務主従十四五騎立留ヲ打死ス其内義弘伊勢路ニカリ引取也

平塚因幡守為廣ハ秀秋カ兵ヲオイナヒケ其後自長カヲ以テ

小川兵押井多兵衛ヲ討取テ其首ヲ大谷ニヲケリ其後自殺ス小川

カ兵小川甚々カレテ討取也因幡守カ子庄兵衛モ戦死ス為

戸田武藏守ハ子内記石田三成カ陳ニアリケルニニ其行末ヲ

見一取ニ戦死スヘシト存三成カ陳へ趣繼田河内守長壽カ

陳ノ前ヲリトフル處ヲ河内守出向テ鐘ツケル河内守兵矢

田太兵衛鐘下ヲクリ戸田カ左ノアツミヲ取テ引カヘス戸田

馬ヨリ落ルヲ太兵衛ツイテケル河内守兵山崎源太郎落合ヲ

首ヲカリ取ニ津田長門守カ兵玉木五右衛門ト云モノ此首

ヲ奪トラストス二人ノモノハイカス津田長門守ヲイウチナリト

云津田長門守繼田河内守兵ニ知音ノ間ナレハ何ヤリニモト云矢

田山崎コホト多キ頭ヲアイウチト云フヤアルト云テ繼田カ母

黄母衣ニナチ竹金ノ
スミトリ紙ノ指物ナ文字ヲ持

行多清兵衛ニ首ヲモタセ御旗本(遣ス御実檢ノ上
ニテ武藏守カ首ニキワマル武藏守ハ知音多キモノユヘニ武
藏守打死トキイテ各落涙スト也戸田家人鶴見金右衛門
モ一取ニテ打死ス子息内記ハ三成カ陣ニテ戦死スル也内記
カ子村上月防守後号カ着子後ニ村上月防守ト号ス戸田シイナリ曾黒黒豆高
毛ノ羽織鎧ハ不持カラスキヒライテノリトナル也此戦功ニヨリテ飛田内
守三千石ノ上ニ七千石御加増拜領美濃大野郡ノ内野村ヲ領河内
守ニ武藏守ト知音ナリケレ且足曾ノ上ニミワケサリケルト也武藏守
ハミト丹羽長重カ家来後越前安厨一万石ヲ賜
ナリ津田長門守ヲ日記ニ長門守討取ト云ハ亦也 諸將會談ツイテ
今度上方勢ノ内ハニナル打死ヲ可仕者ハ大谷刑部少輔戸田
武藏守ナルヘシトイワシモ評シケルトシ

今日逆徒ウタル者八千余人源君関ヶ原ニ御旗ヲ之ラ
レ群將皆出席関箇原御利運ヲ賀シ奉ル本多忠勝於
御前會釈ス福嶋正則軍切御褒美福嶋本多忠勝ヲ称
美ス而ノ松平忠吉下野手ヲ肩玉ナカフ出玉フ各忠吉ノ働
シ称美ス其アトハ井伊直政来ル源君直政カ疵ヲ蒙リシ御
覧アリテ大ニ驚玉イ自御薬箱ヲサセ御薬ヲ賜其後村越
茂今ヲ以テ筑前中納言秀秋ヲ召秀秋家人十人ハリ并ニ服坂朽
木小川赤座ヲ率シ秀秋芝ノ上ニ跪テ御礼ヲ申上ル源君
床机ヨリヲリ玉イテ殿前ヨリ志ヲ通スルイラ悦玉フ而ノ明日
佐和山ヲ可乗捕ト評説也秀秋則先陣ヲノミケシハ仰甘ラン
諸大将勝関ヲ執行レ可然トスメ奉ル源君仰アリケレハ各ノ

人質大坂ニ有之間人質ヲヤカテ取モトシ各安堵ノ上ニ勝関ヲ
可執行旨アリケレバ諸將シキリニスメ奉ルニ付テ則勝関ヲ執行
今夜、藤川ノ上、大谷、蔭ノ小屋、御一宿則秀忠卿は御使ヲ被遣也昔伊
直政居益村陣スル今日早天ヨリ水野勝成曾根ヲ出テ嶋津ノ陣城
樂田ヲ破リ直ニ大垣ニ攻メ敵兵出テ戦凡ソ菟城ノ兵七千五百人
十日ノ朝早々ニテ丸ヲ棄込テ六充エ門勝成則関箇原ハ大
垣ノ城乗取本丸ハカリニイタシ候事註進佐関箇原御一戦ハシ
マラサル内ノイニ源君大ニ悦玉ヲテ使ノモノヲ御前へ被召出
黄金壹枚ヲ賜本丸門際ニテ城兵夕テ出サレ寄手トセリ合
勝成ハ兵川村、殿同新ハ中山將監神谷久右衛門、近藤、矢
之助、上田清兵衛、松浦六兵衛、取トキ、町屋ニ
火ヲ放テ林ト云寺内ニテ大垣ノ北引取松平丹波守康長モ大垣取
出ノ柵ヲ破リ城キリハ兵ヲスム勝成ハ引取処へ丹波守行合テ
ニニカリヲ清取城中ヨリキヒシク討テ危アリケレバアトニ火ヲ放
テ無子細引上ル丹波守モ池尻へ不引取林ニ陳スル今日町
中惣カヘラ乗取也西尾豊後守光教ハ大垣北領家村地侍
久瀬助兵衛ヲ大垣ニ付置ケレハ此者来テ今晚三成関箇原
へ出張イテ告則大垣へ押ツメ大手ヨリ攻入家人小寺半兵
衛惣門ノ南ノワキヨリノリ入ニトスルヲ城中ヨリ鎗三筋ニテ宍
殺シ門ヲ関テ戦寄手ト付入ニセントス城兵七人出合テセリ

合西尾カ兵村田長兵衛西尾掃部丹羽弥左衛門敵ラテ
西尾宗兵衛同掃部大橋惣右衛門佐治久左衛門松岡左衛門五
人城中へ立ッフル西尾掃部松岡兵左衛門ハヤウヤク門外へ
カケス久左衛門ト惣兵衛ハ城ノヲクヘッキレ入西尾惣兵衛
城中ニテウタレヌ佐地ハ木村宗左衛門カ兵ニ知人アリテ搦手へ
ノカシ出テツノ夜ヒツカニ城外へ出ル也大橋惣右衛門ヲ木村カ
手討取 福原方敵ノ頭一ツ取
者ニ金一枚ヲ与ム
十六日源君佐和山ヘツモムカセ玉イテ正宝寺山ニ御着

佐和ノ城寄手筑前中納言秀秋北陸道降参諸將相和リ
江州
之攻之福嶋正則以下ハ高宮越智川也ニ陳取テ後陳ノ

胸勢カクリ城中本丸ニ石田隠岐守晴成 三成父蒲生秀行家
人蒲生左近御可下人

同木エ頭重成 三成 同左近朝成 重成
本氏尾藤 宇多下野守頼忠 三成
之妻

父同河内守頼重 頼忠
之子 守之マ、リ尾ニハ山田上野赤松左兵

衛北水ノ手ニ河瀬織部中ノ丸ニ養壽院ナリ寄手秀秋カ

カリ尾ノ丸ヲ攻破北ノ丸川瀬カ持ロミラシヤフラシコトクク本城

へ引入城兵長谷川右兵衛ウラキリノイフテアラハレ右兵衛

ヲウタシトス右兵衛水道ヲタリ逃シ出ツツス城分リテ

リテ晩日ニ及フニ付寄手秀秋等カ軍勢引トル此取城門

ノナリタルヲトニヲトロキ雜兵キ、クツシイタシ秀秋カ兵大ニミ

タル稻葉佐渡守ノミト、マリ諸卒ヲ下知ス松野三馬カ寄

カ等三人松ノ本ヲカタムテ立トマル其外大ニサワキテ旗ヲ
ステ兵器ヲスラ引トリケルト云々 又云鉄炮某營ニ火入矢倉一リ
ヤケラツ此トキ寄テ大ニ敗北

山岡道阿弥江州甲賀ノ兵七百八十騎ヲ率シ福嶋掃部

頭正頼カ蕃名九勢州長嶋城ニ楮コモル十九日関箇原敗

北ノ事キコヘケハ山岡長嶋ヲ引拂船ニテ伊勢国康取里

ノ南大鳥居ヘコキヨセケル処ニ十九日ノ晩長束天藏太捕

正家関箇原ヲ落テ大嶋ニアリケルヲキ、道阿弥手勢カ三

百ハカリニテ大嶋ニシヨセ大ニ戦フ長束敗軍ヲ逐電ス 大

ハ長嶋ヨリニ
十余丁南東 十六日山岡又來名ニシヨス氏家内膳正行廣和

テカテ城ヲワクス 來名ハ長嶋ヨリ
ワレヨリ山岡又神戸城ニ越

ク羽柴下總守勝雅和ヲ乞テ城ヲワクス 來名ヨリ
四里 山岡又龜山

城 來名ヨリ
八里 へテシヨセ岡本下野守シハラヲサユ山岡急ニ政テ

城ヲ取

十七日佐和山城落石田父子自殺石田桃雲今錯ス宇多

下總ヲハ尾藤善四郎及錯ス城一敗ニ燒失城ニ中納言秀

秋在番ス黒田長政カ兵後藤又兵衛サシラ

伊与國真崎城ヨリ三津ニ夜討真崎城ハ加藤九馬助嘉

洲ノ城也嘉明ハ関東へ出張シノアトへ毛利輝元カ兵士完

戸善左衛門 備取 曾根公庫頭船奉行村上掃部野

嶋等藝州ヨリ五ノ嶋ニイタリ先使節ヲ真崎ニツカリシ

城ヲ可渡ヨシラ告城ヲ大将加藤内記右馬助嘉明手内箇

賜ノイナ内記豫州原以後喜朋伊与ヲ

林一万石ヲ領ス即後佃次郎兵衛中嶋庄右衛門安達半右

衛門尉等ヲ以テ一戦ヲトクヘキニ定テ毛利家ノ使者ニ返

答ニモ不及因此輝元カ兵船ヨリ上リ三津ノ浦ニ陣ヲハル佃

等相謀テ今日十七日ノ夜毛利カ陣ヘ夜討ヲナス毛利家曾

根村上野嶋各討死ス城兵荒川甚右衛門井上加之助討

死野上討井上上佃深手ノ負嘉明カ妻女為人質大坂ニ有之

ニ始終無心許トテ川村推セテ大坂ヘツカワシ様子ヲ窺ハシ

ムニ当国ノ住人平岡善兵衛浪人ニテ居ケルカヒツカニ毛利

家内通セシメ毛利カ兵引入同國江原城ニ取上ル真崎

加藤内記兵ヲ出三津処江原ヨリ輕卒ヲ告リ合九月十九日江原ヨリ

前田イタシ在リ亂防真崎勢ニ進立進徒人米如來寺ニ入真崎勢

ツイテ攻之カ戦黒田久兵衛ヲモテヨリ押入佃裏ヨリ打黒田寺

飛松兵助川合九郎兵衛戦死真崎由之三津ニテ先江原可攻

ト許議公毛利家兵士平岡孫右衛門勢州ヨリ三津来リカ善兵

衛急難由リキ江原欲入自三津行真崎勢渡之トヘ平岡兄弟

江原山後ヲヨリ三津ニ歸ル真崎勢空チンケリ毛利カ兵漆山在陣

然処上方逆徒敗北トキコヘ毛利勢悉藝州ニ引入

上福景勝兵永井ヨリ直江方篠原七郎中山ヨリ穂村造酒丞

横田式部中山聖兩人米沢ヨリ上山奈向ス上山城山形里見越後守在城越後

守在山形子
民評大夫在城
寄手川口村藤五村赤坂村高松村ヲ放火
上山ノ地侍取者
防之放火ノ火付

ヲ打取藤五村ノ近内川口村次右
工門高村村岩津即左ノ門管見音
城兵出高双方ヲ捨テ合テ米沢方森作

左工門鈴ノイモ上ノ方大勢寡テ死鉄地中リ戦死寄山ヲカトリ

ヲリイテ備エ上山ノ地侍氏馬ヲ入テ米沢方悉敗死穂村カ馬ヲクヌ

マイライタシモ急不來馬ノ内ニ坂野弥兵衛引組テ谷ニ落ツイ穂村

ウ丸
双方谷底ノ口ニ居テ勝負
不叶ヲ坂野ノ家僕ニ命ヲ与
横田八上ノ臺ノ入クイ沢ノ九大沢ヲ味方ヲ

下ノ引取
横田家人万強子庄工門
一人立留遮追來敵
凡ウ丸モテ篠弥七郎ヲシメ二百余

騎米沢方新宿吉兵衛一方ノ大将ヲ柏木ヨリ小穴ノ道ヲ山下ヨリ

兵ヲ出ス久尾中山口ヲ兩將敗北ニ早々引ル也
自上山形連三里自中野
山形ニテ一里半中野城本馬左
馬助守此

十八日源君江州八幡ニ着御

大垣ノ城内秋月長門守種長カ家人水野勝成カ家人ニ所縁

アリケハ関東ノ内通ノイラヒ相良宮内高橋九郎皆同心

ス是ニヨツテ十六日ノ夜水野勝成松平丹波守兩人方ノ高橋相

良秋月三人ノ名付ニテ状ヲロシ内通ニ城將ヲウタシ稟ヲ云

トノホラハ首ヲ持サイラフルヘシツノ既今各ノ旗一二本城中

へ可被入サナクハ味方打ニアフヘキウタカイアリト云越ス則六

左衛門丹波守約束シ水野カ方ヨリ鈴木与八郎ニ旗二本

添可遣丹波守ノ通ニ約束者三人ノ城將三郎ヲ堅メタル
備中

九垣見和泉守熊谷内藏允木村惣左衛門ヲ招コレヲ殺シ

今度ノ忠節ニセント相候シ今日三人連署ノ相誓言而ノ

垣見熊谷ラ子キヨセ無子細殺客ス惣左衛門及子傳藏

ハ不來ユニ兵ラツカワシコレヲ討取或云同者而ノ此四ノ頭ヲ入ラ殺ス

ヲモクセ相良兵部ヲ使トノ寄手ニウタシ約束ノサイラワル

是ニ因テ水野六左エ門勝成松平丹波守康長急ニ攻ヨセニ三ノ郭ヲ

ノリ破リ本城福原鶴助堅ク守リ家人南部助之丞本丸大手ノ橋出跡

ノ門ヲ守セ且怪ラカケテ相防ク故急ニ攻メ不叶林ノ引取對城ス

十九日源君江州ノ津ニ着御 勅使ヨニ來聘ス

逆徒敗北シ落人京都ニ入京都騷動ノ由京都ノ町人龜

屋水仁茶屋新四郎以下草津來ラ言上其外洛中ヨリ其

告アリケルハ則奥平義作守信昌ヲ京都ニツカワサレ洛中ノ

騷動ラシメメラシ辻々ニ制札ヲ立甲乙ノ亂妨狼藉ラフヲ

メシム今日近藤藤登助伊奈図書加藤源太郎ヲ日ノ岡相坂

ノ岡ニツカワサレ味方ノ軍勢京都へ亂入ツカタメシメテ

福嶋正則カ郎後佐久間加左衛門使ニ行テ右相坂ノ岡伊

奈図書カ組根來張番ノ前ヲトサルトテアヤマツテ棒ニ脚ヲ

蹴ルル根來棒ヲ以テ脛ヲ打佐久間無子細カヘリ使ノ執

ヲ正則ニ告テ右ノ次第ヲ正則ニ云当座ニ有合根來五人七

人切フスルイヤスシトス正則ノ御タイカト不及其義由ヲ云

テ自殺ス正則彼ヲ首ヲ伊奈岡各カ方へ遣ス伊奈大ニツトロ

キ則イツシモ相談ノ上ノ場ニテリ合根來六人カ頭ヲ劊正則送ル

正則是見こは足輕ノ首トシヘタリ
回唇腹ヲ切ラスシテハ不可叶
ニキワマリ成瀬小吉米津清右衛門坂ニ行ソノ後村越茂助
行テアワフトイヘ氏事ナラス
回唇逐ニ切腹ス

小西行長ナ音戦破シテ後伊吹ノ山ツキ槽川ト云深山ニカ
ク居ス関箇原落去シ槽川谷ヘ落人アリシ風聞シケレハ
同国池田郡ノ郷人氏皆カケアツマリテ落人ヲサカシ衣服甲
曹ラキトル関箇原ノ住人相川林藏主ト云禅宗ノ墮落セル
坊主今度ノ兵亂ヲサイテ槽川ノ谷ニアリケルヲ竹長見付
テモ野伏ニ生捕シテ思テ林藏主ヲヨヒヨセ有ノマニ名氏ヲ

名ノリイケルハ純ハ南蛮耶蘇ノ法ヲ守ルユヘニ自殺セサル
也汝イツキ我ヲ石トリツレ出ヘシシカラハ恩賞ニ可預ト云小
西カ供ノモノ六人アリ彼等カ身ニ付タル金銀ヲ不殘林藏主
ニワタス林藏主是ヲ郷人氏ニワカケ与ヘ即竹中丹後守重門カ
家人伊藤次右衛門後藤市左衛門岩手ノ留守ニアリケル
モノ、方ヘ告兩人来ラヤカテ小西ヲ生捕十六日ノ夜岩
手ニ入置十七日佐和山ヘワタス而ノ佐和山黒田カ兵士後藤又
兵衛方ヨリ草津ノ御本陣ヘ註進ス岩手ヨリ竹中丹後守方
ヘ告クルニ則丹後守方ヨリモ言上ス十九日小西佐和山ヨリ
来ル是ニ両方ヨリメントルヨシ註進ノ義ヲタサシ竹中ハ小
西行長カ取持ノカ英御感唇ヲ今日十九日被下林藏主

佐名備前元忠

ニ黄金十枚ヲ賜ル小西ハ村越茂助吉直ニアツケラル
黒田如水去ル十六日ヨリ豊後安岐城ヲ攻此城南北へ長ク
東ハ海西方ハ山甚近シテ中間ニ堀ヲホリ要害ヲカマヘテ堅
固ノ平城ナリ熊谷内藏久カ一族熊谷外記ニシラモル
如水カ兵馬杉喜右衛門一平外記ト一取ニ一柳伊豆守直
末ア家ニ仕ヘテ旧友タシハ如水則馬杉ヲ以テ和ヲ入シム是
ニ因テ城中ヨリ平野勘左エ門ヲ使ニ出シ惣勢ヲタスクラシ
外記一人自殺可侍由ラ乞ニ付テ今日十九日和ラユルニ城
ヲウケトル外記モ降参ス 或云 廿日

廿日源君大津ニ着御

石田三成カ家人小幡助六ヲメシトル三成カ居処ヲ尋子シム
トイハ兵在否存スレ兵不可云ト堅ク云キルニ付テコレヲユルサ
ル小幡裸親ノ恥ニカフヲ云テツイニ自殺ス

廿日大津御逗留今日北田輝政淺野幸長藤堂高房井
伊直政本多忠勝ヲ大坂へ被遣テ毛利輝元増田長盛ヲ追
討セラル

廿三日大津御逗留

大垣本城ハカリニテ今日ニテ持リクム其内三箇度ニ及ヒ城
攻アリトイハ兵城兵堅守而テ和談ヲ入水野六左エ門方ハ加
井弥八郎カ子大垣ニモル此者ヲ出シ降参ニシマテハ堪忍分ニ

一万余石ヲ申与へ無相違可申宥ト西尾豊後守光教取ツカ
ケハ福原同之今日廿三日福原剃髮決衣姿トナリ道蘊ト
改名ニ城ヲ出ツ西尾カ方ヨリ谷清兵衛ヲ人質ニ出ス福原
谷ヲノシツ勢州朝熊へ行西尾コレヲオクル廿七日アサニ着
テ福原方ヨリ書ヲ西尾ニ送テ礼謝スツノ後切腹ニキワマリ
自殺ス 大垣城松平
周防守在番

石田三成被召捕今日廿三日大津ノ御陳取へ来ル三成ハ
十九日軍敗ルノ後伊吹山ヲコヘテ逃凶儀野平三郎渡部
勘平塩野清助三人供ス小谷山ヲ経ラ馬上山ニ至リ三人
ノ者ヲカヘシ三成身ヲヤシシ知少ノ手習ノ師三重院ト云僧
アリニシラタシ行三重院事田中兵部少捕吉政井口マテ来テ

山野ノル処ナリサカシ三重院ヲカラ捕テ井口ニ行ント云ユ
三成又山林ニカクレ四日食ヲ断シ中木ノ葉ヲ名ツユニ腹
中ヲ煩ソレヨリ古橋村ノ与次郎大夫カ方へ尋行テタム与
次郎毎日食ヲツケレ凡久敷カクス一難叶フトニ三成病氣
ニ付テ行歩不叶ヲ以テ与次郎ニ申付テ田中カ方ヘイワシム
田中カ兵田中傳九エ門澤田庄九エ門来テ生捕井口ハ台
達田中吉政カ家人穴部善久ヲ馳走人ニ付テ今日大津へ来
也則本多上野今正純ニツツケ玉フ 或云井口ノ半福寺村寂動院
手習ノ師ニマニ三成キタルト云
或云三成島
居久即成次
賜ハ是彼父
仇ハハ成次
請取一夜種
馳走翌日見
野ト云有姓草刈ニ来テ見付クレハ三成シロク云野々則於飯ヲ白へ

志死何死
破成於
元思子ナリ
又云秀崇
ヨリ大久保
志勝彦
己ラアハル

置ク田中四方ニ高札ヲタテニ成ラサカスニ付ツイニカクルハカラサシハ野々乃
妻ウモト云モノ夫婦相淡ノ田中カ兵田中傳九衛門ニシクル傳左五門生
トリケルトキ三成懐中ヨリ一尺三寸ノキリハ兼真ヲ取
イタシテ田中傳左五門ニ与ユ田中名ワシ大津へ十九日ニ出云

安國寺惠瓊ハ濃州ヨリ大原志津原ニカクシ鞍馬寺月照

院ニ思居ル京都ノ奉行奥平美作守信昌松平下總守清

匡コシキ、出し家老山田半右衛門ヲツカワシ東福寺ニ生捕

村越茂助吉直ニ預ラシ又云安國寺一向宗端ノ坊カ元ニ居ラ
石捕テノリ物ニセツレヲヲ見物ノモノノ

内ヨリノリモノ外へ首ヲ出ス外ヲ安國寺ヲキルキラシテ安國寺ノリ

モノ引ユム登園ノ者ハ右ノキリシモノトモヲ執罪ス此者安國寺カ家人

平井藤九郎長坂長七ト云モノ也安國寺此度イ、ケルハ軍敗レハ生捕シ

法師ノ罪科ニアハシモ見苦シカルヘシ備ヨリ出ラコシテ容セヨト云付置セハ

安國寺家人山田半右衛門組向名ナリ

之花左述將監宗茂今日柳川ニ着宗茂ハ大津ノ城ヲマテ

トス後十五日関箇原落去由ヲキ、十六日佐和山ノ煙ヲシ

ラ則京都へ出三條御幸町ニ備へ木下肥後守カ許へ使ヲ立

大坂へ出ラシハ同道可仕ヨシラ云ヲクリソレヨリ大坂ニ下リ天

酒ニ陳スリニ輝元長盛カ方へ使ヲ立云ヲクリケルハ我関箇

原ノ一戦ニアリス輝元当城ニツイテ防戦アラハ則一方ヲ承

テ可掬篋云ケレヒ輝元不肯仍テ嶋津ヲ待合セケハ嶋

津義弘モ十七日ニ大坂へ来ル則嶋津カ元へ使ヲ立テ当方ニ

テ一戦アラハ元ニ相支ユヘシト云ヲクル義弘於関箇原大勢打

死セシメケレハ不可叶ト云十七日ニ大坂ヲ立廿一日筑前岩松

ニツク今日廿三日柳川ニ着也

廿四日大津御逗留

今日秀忠卿信州ヨリ江州草津御着昔^{或云}関ヶ原落去

旨信州へ御使アリコノユヘニ森右近大夫忠廣ヲ信州ニノコ

シラカシ御歸陳ニヨリ敗れ子筋ハ近シトイヘ正真田カ領分ニハ

若付トモアルヘシトアリテ長久保ヘカウセモイテ高陽ノ地

御本陣ラスヘラシ諸手ハ皆沢ヘアリテ陣トル真田尤エ門幸

村チニニ出テ今夜夜討ヲ可仕搦トセケル昌奉思案ノ上

方ノ敗軍無心元上方敗軍セハマニテ大和ヲ得テ益アル

ヘカラストスラ雷ノタリト云レ或云此時柳原康政ハマワラス直ニ来レリト也

トナリ秀忠卿草津ヨリ大津ニ至リ五ノ源君御對面ナリ又草

津ハ口ヘラヒ玉フ是ハ真田ヲ攻ラトシ玉ハサルヲ源君憤ラセ

玉フナルヘシ廿五日又秀忠卿草津ニ御執旨御對面アリ其後秀

忠卿大久保助右衛門ヲ台真田ヘ参リ申上タル口上相違ノ

由ニテ御勘氣也又云秀忠卿九月十三日ノ御旨ニ東表在置被仰付為上洛今日下諏訪ニテ御出陣トアリ然ハ関

箇原御一戦前ニ上甲表引拂ワセ玉フニヤ

今日廿四日筑前中納言秀秋へ今度ノ忠戦ヲ被感御旨ヲ

賜ラ

今日毛利輝元降ラ乞テ大坂西丸ヲアケ木津ノ下屋敷ニ至ル

吉川カ子テ関東へ内通ノ事アリケルハ其罪ラニルサル

廿五日大津ニ御逗留

今日秀頼卿ヨリ大野修理亮治長柘植大炊助ヲ大津マテ

使節ト此度三成ケ逆意毛頭ヲシシラレサル旨ヲ陳セラ秀
頼卿存シ玉ハサル上ハ少モ秀頼卿へ等閑アノシキヨシ被命
大坂御和睦也

今日増田長盛大坂ノ城ヲ出テ高野山ニ趣

高野山ニ二年有之
ヲ岩付ハ流罪子共

大盛及尾州義直ニ仕大坂ニクシ元和元年丑
月六日大坂打死因之丑月廿日長盛於所伏誅

廿六日大津御逗留今晚源君草津へ至ラヒモテ秀忠卿ニ

御密談也明日大坂へ御業向ニ付テ大津城在番大須賀出

羽守忠政

五郎左衛門
康高男

松平甲斐守忠良

因幡守
康元男

二御付ラレ或云今
日自大

津波ニ御一宿云
出御手番

前田中納言利長今日廿六日金沢ヲ立テ小松ニ至リ丹羽長

重下人質ヲ取カワシ
テ以テ人
質トス

青木紀伊守カキテ関東へ内通ソク人其身病氣ユへ

利長無子弟利常元歳
少長孫為人質長重弟

北庄無子細

青木紀伊守
奔子若
衛門佐領地没収

ニ付テ越前一国平均也

廿七日源君大津ヨリ今日大坂西丸へ渡御廿日ヨリ昨廿六日

ニテ大津ニ御滞留也大津ヲ立セ玉フ阪藤ノ森ノ边ニ酒井

河内守重忠舍弟備後守在陳御目見乃兩人モ大津在

番ニ仰付ラレ

今日廿七日黒田如水攻富来城此城東北ハ海西南ハ山迹ノ

堅固要害也垣見和泉守カ一族垣見理右衛門同助九衛

門和泉守
守見

九兵衛父子堅守之如水カ兵黒田四谷同伯者守軍

法ヲシイテヌケカケ寄手太ウタル此処へ於大垣垣見生官三
付テ家人尼カシ来ルノ内江長新右衛門ト云和泉守カ祐筆
出来此者ヲ名捕和泉守カ状ヲシタメサセラ城無別条可
渡音シイ、ヨクラス其後江長ヲモ城中へ入ケルニ城逐ニ廿八
日ニ陷也助光衛門九兵衛ハ戦死ス

今日豊後姫嶋ニライテ嶋津義弘カ船類船ニノリテタルヲ
如水カ舟手ノ野嶋カ一黨庄林六兵衛ナト押ヨセテ姫嶋ヨリ
佐賀関ニテ十里ノ間互ニ相戦ノ嶋津カ船ホウロク火矢
ヲカケツコナツテ燒失三艘ニヤキリ嶋津義弘大坂ニ賞
ニラケル母儀ヲノセタル船也母儀ニテ卒死

廿八日勅使院使并公家門跡寺ノ使節其外悉西丸ニ至テ
関箇原御勝利ヲ賀ス諸大名ノ家老ニ御礼

十月朔日石田三成小西行長安国寺大路ヲワタシ六条河原ニ
テ頸ヲ刎三條河原ニ獄門ニカクル三將囚ノ内ニ返服ニツ
死ヲ賜フ或云三成囚テ在京ノ間四條ノ町人ニ樂ト云モノ奥平信
度ト云信昌免之而ノニ樂柿ヲ少ツミ懐中ニテ三成ニ与ヘ三成日比
惣遇フ謝シカハルトテ番人ニ聞処ニテ云ヘルハ日比三成息願ノ一ナリ
トイヘテ諸道具以下我等処ニムテ預リ不申候以來ニテ
コトハリ候間番衆被得其意候様ニト云三成其通リナリト對ニ云
ケルハ我罪死ノ後尸骸ハ紫野大徳寺春屋ニ納ノ玉ワルヤウニ云ヘト云
ツクリケルトソ

凡逆徒嶋津義弘入江權右衛門
揚州住人入江左丞ヲ甥也
案内者ニツカワシ
案内者ニシテ土岐多羅越ヲイタシ江
目付心ニ有之

州多賀ノ里ニシテ所ノ者ヲ名トリ案内者トシテ高宮河
原ノ野陳スリ亂妨ノ牛馬ヲ奪イ食物トシ牛ノ皮ヲキト
リ馬印トシテ大津ニ出敗軍ノ兵ヲマテソロヘソレヨリ十七日ニ
塚ノ津ニ出入江蘇右衛門ト云町人ノ処ニ落着塚ノ町人
田辺屋策庵道与ト云モノ大坂ニ出テ嶋津カ入賃母我
内室ヲヌスニ出シ住吉ノ濱ヘ至ル
母儀ノ舟道ニテ里田如水カ
タニ被知事ハ九月廿廿日條
也川口雲右衛門ハ嶋津中務ノ者也塚ニ至リ中務打死ヲキ
イテソレヨリ入道ニ高野ヘ行中務母儀雲右衛門カ妻子ヲ皆
コロセリ

字喜多秀家ハ十廿日敗軍ノ後伊吹ノ高山ヘ逃マカリ山傳
ニ美濃ノ糟河ノ谷ニ入中山ノ郷ヘ十六日ノ未明ニタトリ付供ノ
モノ二人也コノニ美濃池田郡白樫村矢野五右衛門ト云モノ
落人乳坊ニ行テ秀家ニ行合テイカ思ケシ落涙シ此人ヲ助
ハト思道シルヘ申サントテ召遣シ九藏ニシラセトイラセ三里カ
リノ処ヲ暮方ニ白樫村ニキ帳内ニ入テ飲食ヲ夫婦二人シ
テハ己ヌ秀家下人二人ノモノト談合ヲアリマニ五右衛門曰カ
タ九供ノ内一人ハ本多左兵衛督ト云モノカイクシタイタシテ五
右衛門カ頼ミソノ身ハヤカテ関東ヘ才覚ニ下ル五右衛門岩穴
ノアリケルニ秀家ヲ入晝夜ツカヘケル秀家七首ノ狂歌ヲ
ミテテ讀ケル日数ヘテ五右衛門アシタラコレヲ入秀家ヲノセ

病人ノトクヨシラハ江州武佐ニ至ルリヨリ伏見京橋ニ着テ

船ヲシツライ大坂へ着天王寺寺内へシルヨシアリテカクシ秀

家ノ屋敷へ案内シツイニ屋敷へ入内室ニ對面内室ハ加賀

大納言利家ノ娘也五右衛門ハ引出物ノ黄金三十枚奥

方ヨリ小袖ニ重ク々ワリテカヘリヌ其後西園嶋津ヲタノシ落行

後嶋津御歎申候テ八丈鳴へ被流也ツノ比本多安房守政
重守喜多力家ニ在リ

関ケ原ニテ與ラ蒙坂本へノキ後
案内ノ嶋津方へノカシメタリ

長曾我部宮内少輔盛親ハ一旦土佐へ逃ルトイヘ凡井伊直

政ニツイテ色々降ラ乞フ上今度逆徒ニラミストイヘ凡サセル

働七十キニ付テ一命ツタスケ被下直政ニ命セラシ
鈴木石見守

ラ土佐ニツカワシ長曾我部カ居城ヲウケトラシムシカルニ土佐ノ地

下一領具足馬廻ノ
兵也凡一揆ヲ起ス鈴木石見守雪溪寺ニ陳テ取

所一揆凡ヲシヨセ攻メントス嵯川新右衛門親長入道道標

長曾我部カ老臣ト示シ合セラ一揆悉退治セシメ首凡ヲ大坂

へ献リ其後鈴木石見守城ヲウケトル也

長束大藏大捕正家カ居城江州水口城ニハ長束伊賀守

菴城ノ寄手池田倫中守長吉輝政
弟コシヲ攻トイヘ凡要害堅

固ニ不落城倫中守和談ヲ入本領出堵セシムヘキ由堅ク約

諾ス是ニ因ラ城ヲウケシ江州櫻井カ谷ニ整居ス長束正家モ

コニ来リシヲ倫中守ヤカラ押寄テ自殺セシム正家ノ家人奥

村左馬助西川兵庫久小西次九衛門長束与七郎ヨニテ伊
賀守ヲ林甚藏ニ錯スツイテ自殺セトスルヲノラキ正家
ヲ小奥村左馬助今錯ス左馬助モツイテ自殺セント腹カラ立
タラトトリトスル也 右馬後任寺沢
志戸寺

増田右衛門尉長盛放高野出せ郡山ハ初中納言秀俊率去ノ
後太閤秀吉ヨリ増田右衛門尉ニ領知二十万石ヲ賜リ郡山ヲ
領シ紀伊大和和泉三箇國代官タリコトニ関ケ原ノ時分
長盛自分侍于騎也郡山大変ノ地ニニ七百騎ヲ殘シ三百
騎ヲメシシ大坂城ニ留守居ス関箇原落去ノ後郡山ノ地

侍正一揆ヲ起シ郡山ノ町口へ押入放火亂妨ス此時渡邊勘兵
衛三ノ郭ニ有之与ニ諸夏ニカマワストイハ凡右ノ通ニ渡邊

指図ニテ諸侍ノ人質ヲ本丸へ入兵士三百ヲ出ノ二揆頭
片人質ヲトリ人質不出モノハ下ノノ誅ニ郡山ノ五町目口ト
云所ニ獄門ニカクルユへ一揆大方靜ナル然處ニ城ヲウケトリノ
夕案内者ト筒井伊賀守ニ藤堂高虎相加リ平水ニテ自郡山
五里来
テ使ヲエツ筒井才覚童テ地下人ヲオサセ一揆セシト渡邊勘兵衛
ニ三百ノ兵ヲツシ出ラ御人四五十討取テ頭ヲ獄門ニカクル
ユへ筒井藤堂無左右ヲシヨスルイ不叶ニ付此事ヲ長盛方
ヘ云遣ス長盛方ヨリ高田小左エ門ト云出頭人ヲ郡山へ指致
無相遣可渡城ノ肯自筆ノ状ヲ勘兵衛方へ遣シ郡山ヲ

ワタスナリ渡ストキモ清瓦ノ衆約束ヲ方ヘタルニ甘城ヲ
渡メマシキト重テコトワリ請取衆難義ニ及ヒケルヲ南都興
福寺大衆院門跡アツカイヲ以テ是ヲワタス也

石河備前守ハ福嶋区則ニ降ツ犬山ヲアケ渡シ伊勢ノ淺熊ニ越
ケル道ヨリカヘリ関箇原戦三成一恥ニテ十五日ハ本多三
弥ヲタシ合ス其後敗軍ノ越前方ヘ落行朽木ニニ上リ京
ノ町人トシヤト云モ、斯ノ十月十六日ノ夜半ニ行テ九日ノ夜腰ニ
付ル黄金十枚ヲ虎屋ニ与ヘ竜安寺ノ山ニ一日一夜居妙心
寺ニ行世旦ニ大坂ヘ下ルソヨリ池田輝政ヲ取ヘハシリヨミテ一

命ヲ乞フ輝政執シ申死罪流刑ヲナタムラシ輝政ニ被下
福嶋ノ人實ヲ不殺福嶋
嶋ヘ歸セシニ因テ助命セシ

石川掃部ハ大津ノ寄手タリ服坂ニツイテ命ヲ乞トイハレ不
叶十月十日首ヲ刎ラテ獄門ニカケラル

小野本縫殿助福知少城主也逆徒ニシ丹後田辺攻取リ
今日長岡以下福知山ヲセム小野ホツイニ和ヲ請テ出テ百六日

龜山ノ淨土寺ニテ自殺其頸獄門ニカケル
或ニ十月十八日
云ナリ

鍋嶋信濃守久加賀守直茂使者ヲ奉リ源君ヘ申上ケル信
濃守父ノ異見ニ不從逆徒ニ与シ衆狀不淡ノ間御下知次第
可罰之但先年伏見騷動ノ敗分直茂源君御屋敷ニ入
テ無ニ心守護シ奉リケル変不被思召忘ル可預厚免肯ラ

之源君者免し玉フ

真田安房守父子森右近大夫忠政ヲ以テ秀忠卿ノ眾科陣
ス伊豆守信之味方ニ馳加軍忠ニ後ニマカセ御免ラウラ高野
山ニ蟄居ス

山崎左馬丞近侍ニクミストイハレ関箇原以後池田輝政内

室无息尤云伏藤松丸後任官
内少輔ヲ居城攝津國三田ヘケラキ

ニ因テ本地ニ二万石ノ御加恩ヲ賜山崎妻者
輝政姉

森壹岐守ハ小倉ヨリヒソカニ上京シ都建仁寺ニ居自殺

大谷刑部少輔吉隆カ畱守敦賀城蜂屋市兵衛城ヲタ

セリ仕形無殘取ト云ハ

前田徳善院玄以ハ其比子羽柴左近ニ亀山ヲワクシ其身ハ

諸吏ニ不構トイハレ左近三成ニ一味ノ上進退破滅也

九鬼大隅守嘉隆ハ勢州鳥羽ノ城主也嘉隆今度西國方ニ

成合ヲ因此嫡子長門守守隆ニ命シ他人ヲ交ヘズ是ヲ攻

シト嘉隆利ヲ失イ鳥羽城ヲモル長門守カ兵急ニ擊ク嘉隆

和ヲ請守隆公儀ヲ忍ルニ一語モス嘉隆自害ス或ニ熊野路行
テ自殺

紀州新宮堀内安房守植菴九鬼守隆攻之堀内和逃亡子堀内秋

守後菴大坂城見大坂記今日朔日伊藤修理大夫祐慶于段十歳父民部
少輔祐隆在大坂通

大垣今日城ヲウトリ城代近藤平左衛門父子三人戦死

ソノ外百餘人打死シヨリ嶋津我家居城佐渡原ヘテ

日向國

レヨセ大ニ戦テ利ヲ得レヨリ嶋津義弘カ領分ムカサ穆佐倉岡

高岡綾合四箇所ノ外城カリ合テ築築瀨ノ渡ヲ相戦嶋

津兵石餘輩ヲ討トル嶋津カ兵真田山本服口處々ニ防トイヘ

元伊東カ兵得利也 聖年五月和睦官
時四方石子高橋

上相景勝カ臣直江今日朔日関箇原ニシイテ逆徒落去テ

ヲキイテ兵ヲカヘス初メ九月十三日畑屋城ヲ攻落ト夫ヨリ山形城

初瀨堂城ヲ攻ヘキカクノ同面初瀨堂城向管渡山ニ陣スル城ハ取上

義光カ兵志村伊豆守在城ス山形ヨリ加勢トシテ酒延城前氏家九兵衛

富南相模守赤根常陸今ヲ楯籠ラシム都合其兵五十余 自初瀨堂

迄山形初瀨堂ヨリ山形ハ平地ニテ險固ナケレハ初瀨堂落城ニ

シイテハ山形城危也取上出羽守伊達政宗ト親戚ノヨシ

ニアリトイヘ元ソノ比遺恨ノイアツテ互ニ不相通 政宗之母若
取上義光

ノ妹也母嘗妻政宗之身欲害政宗カ恨

之由其母ヲ岩手山之奥母密逃而奔取上トイヘ此度政宗

ヘ加勢ヲソスシテハ家ノ滅亡無疑ト群臣評議ヲコラシ上

相カ兵未夕畑屋ヘ兵ヲ不出以前ニ義光嫡男修理大夫方ヨリ政

宗ヘ加勢ヲ乞ヒ遣ス此青九月十二日ニ政宗ヘ告キタリケレハ

則政宗伯父伊達上野合后川弥兵衛ヲサシソケテ馬上五百騎鉄炮七

百挺ヲ十六日ニ岩手城ヲ出勢セシム而シテ直江カ兵初瀨

堂ヲ取カコム山形ノ方ハサト固ク城兵妻チフ山形ノ

政宗が母若
妻ヲサシト
云送リテ
呈送ニ短ニ
百挺ノ加勢
也ト云々

城ヘノケシメテ心易ク防戦ヲトケシテ云ケルヲ湯村信濃イ、

ケルハ妻子ヲ山形ヘシラハ必ス幼弱ヲ輩取ミクシテツクニヨツテ

城兵モ崩ルハイアルヘシ妻子ヲ其マ、置各必死ヲキワメ妻子

モ必死セシムヘシ如此敗妻子ノカタツケ何カト取シタセハ籠

城ノサウリトナラセ也ト制止ノ城ヲカタク守ツテ昼夜相

サ、ユ是ニヨツテ城中カ不屈ソノ内ニ政宗カ加勢山形ニ至リケ

レハ義光即新田村へ出勢ノ初瀬堂後詰ヲナス然ハ城中於ヨク寄手

モ困ラトイテ義光ト對陳音沢村ト新田村間シイテ度セリタイアリ九月

廿四日双方ヨリ互輕少々合戦始リ合アリシトシ互ニ合下テ大勢チリ門付村

ヲイテ義光勢兵政宗加勢相トモ直江カ兵ト相戦直江本陣ハチノカニ
備前守ヨリニ百餘ヲ事各警カ

加勢川藤次後地田舎有高カキ且経殘必討タハ直江カ兵士モ過半打死存直江

方ヨリ軍使登上泉主水整方人教ヲケテ引レト下知ストイヘ尼 畑屋ニ

ライテ寄手多クウタセ名ハシニテ色ヲナラサトシイテアリシキ

戦ツイニ打死ス行幸卅四金原加兵衛
十八歳ニテ討之 義光方モ大勢ウタシケン

ハ里見越後ヲツカワシテ人数ヲケシム里見越後ノ比七十有

餘ノ老武者ナリケルカカルトハヒリナクリ小高取ヘノリア

ケテ越後カ家人里見内藏助船越作者衛門ト相談シ馬ヲ

三頭ニタテ味方ノ人衆ノ中ヘノリフニ段々ニ引取此日越後馬

三足ノリタラシケルト云傳ヘタリ上掲カタ前田忽止齋慶次小田

边大学政宗カタニ石川孫兵衛イソシモ戦切アリ

ラニ村へ出合テ互ノコノ合戦早朝ヨリ極晩テテノ事也カハル処ニ

ハシラキ相感スト云々

或云
上泉深田
兼入戦死
金原カニ
里見カニ
由カニ

大学ト孫
兵衛トモ

関箇原逐後敗北ノ夏廿八日ニキコヘケハ同廿九日直江初瀬堂

前寄手并義光對陣ノ兵ヲ引トラス此改初瀬堂城義光カ兵

付暮フ直江自ラリシキラ心静下知ス直江方溝口尾馬助大関孫揚原守

足輕ラシテ後殿イタシ付ル敵ヲ数多討取大関足輕百騎兵七下ニワケ

切取ラリ立百挺鉄炮ヲ打立見テ七十ノ騎兵ヲ入立テ太ニホリテ引取

也上榻方二本松右京亮取上方兵天童孫七ヲ討日既暮ニ及ケハ溝口

尾馬助直江引テ則其場陳スリ今日十月朔日ニ悉引拂也廿四日有ニ

上榻勢二千餘討死取上義光カ兵政宗加勢足輕多討死兵士死後ニ

十騎不過九直江カ兵亦并ヨリ三ノ山ノ辺城ニサカイ肥前守在城シ

ケルヲ攻落ス山形ハ廿一里半上榻領分庄内三郡ノ内川北酒田ニ志多

修理亮在城川南大山城下治右衛門初孫馬守在城河南下治右

衛門秀久兵ヲ出取上方番手持城々谷地白岩寒河江城及落

谷地城下秀久寒河江城一粟兵部白岩城土橋喜守是谷地城取上ヨリカリテ

召テ大ニ攻撃城兵大井右近トテ鉄炮ヲ打テ寄手大ニ蒙痕上方逐後敗

走ニ付各城ヲ引退ク庄内本陣取上義光
属ハ此改大治寺城ニテ一粟戦死ノ説也 谷地ノ境富並城モ隔下取上ニテ

大沢サスサハ西城ヲ志多修理攻ヲス川西取上取上領城々残上

杉方ニ属ス義光ニ勇快理大夫コシヨツテ取上義光大ニ駕西ハ左沢

北ハ天童城ヲカキリ大ニ守防之

今度奥羽兩國ノ大名悉ク景勝退治ノタメ七月廿日山北ヒシホク

戸沢上仙北ノ野寺六卿本堂南部皆取上ヘカリ義

光トホシ合米沢口ヘ癸向七月廿八日逐後敗北ノ注進キコヘ

九月朔旦諸勢皆歸陳也

南部大膳大夫信直新城ニテ出勢ノ処ニ仙臺塚南部領テ
一揆蜂起シ由註進ニ付ユトク引カヘス上方敗北ノサタキコヘス
アトニ一揆ヲコリケレハ南部進退ニ度ララシオキ北東上サカイ
ニラガオオトヲ切取ラコシテ引退ニトス山北境金山ニ東上義光
方ヨリ要害ヲカマヘ丹ノ与ニト云小身モノヲ入置南部ヲ所通ニ
丹使ヲ立テ義光ヨリ左右無之間トラスマシキト云南部兵コ
ニ騷雜兵皆クソシ立テ新城方ヘ敗北スシカレハ南部マニ這
留シ義光ヘ使ヲ立數日ノ逗留ニクルシミラガマテノ要害ヲカ
リテ人衆ヲ可入置ト云ケレハ丹大ニ怒リ要害ヲアタリヘモ
ヨス不付其後義光ヨリ使来テ南部此処ヲ通リ

南部領和賀郡水沢ト云ニ南部ト政宗領分ノサカイ也此処和

賀主馬助ト云モノ南部カ家人ナリシカ九戸カ子孫ナリトテ政宗

ニ勝ト合セ政宗加勢イタスヘキ由ニ付テ一揆ヲ起ントヤサキノ城ヲ攻

或云南部居城 花巻城ヲ責ラシ 城ニ北庄齋 初名太郎 左衛門 奥寺右馬允平良子

平内兵衛ナト云モノ楯籠ケルカ城中ノ女童マテカリアツメ屏ヲ

ラ守ラシメ四方ヲラセキ能図ヲ考ヘテ兵士外ヘツイテ出テ一

揆ヲ追拂フコトニ一揆コタヘカ子和賀郡岩崎ノ古城ニ取入

南部帰国以後岩崎ヘ出勢ストイヘ凡無程嚴寒大雪ニ

岩崎ノ城責不事成アトサラ此城北上川ト云大河ヲ東南北ニ

引帶西ノ廣野山ニツキ堀ヲ西ニ三重ニテホリケレハ要害險阻
ノ地ナリケレハ早速落城ノ地ニラヌ明辛丑三月六日南部父
子兵ヲ出ノ岩崎ヲ攻此時政宗方ヨリ南部へ加勢ノ申ニテ
人衆一千余ヲ指越岩崎城一方ヲウケトリ可攻ト云然レモ實ハ
一揆主馬助方へノ援兵ナレニ南部カ備ノヒマラ伺フ南部
憤之自信濃守逞兵ヲ与テ政宗カ加勢ヲキリクツシ大膳ハ城ヲ一敗ニ
ノソクツス政宗加勢大ニウケレ城モ陷ツイニ和賀主馬助戦死
城内ナデキリニイタシ其後右ノ旨趣ヲ公儀ニ辨政宗不存儀
逆意ヲ企ハ加勢ノ者ノ私トイタセル者ナレトテ紀明上其敗ノ
加勢ノ大将三人切腹セシメ頭ヲ南部カ元ニシラケリテ陳謝
セシメケルニ政宗事不及子細也シカレモ政宗ト南部ツイ不和
タルコトニ也南部領斗ニ不限政宗取ノノ土民ニ氣ヲモタセ一揆
ヲ催促セシメシ也 景勝領川田郡ハ政宗旧領ニ一揆ヲ催テ政宗
白石ヘトフル飛脚二人湯原ノモノニ打取首ヲ文箱ニウケテ政宗
宗喜テ肯定景勝大ニ怒リ湯原村百姓男女ヲ屠ヘトテオチラツカ
ニ付湯原村ノ民不殘山形領ヘ引逃ルマタ伊達郡ノモノトモ、政宗ニ
シタカイ一揆セシメ七八百古城ニトリヨモル処ニ景勝オチラツカ
テ崩レ一揆不殘ナデキリノニイタセリ 政宗謀計如此ト多シ

又南部領大間ニ一揆ヲコシリ 城主大間藤四郎戦死ス此
城ハ南部嘗田中清六ニ与ニ清六大間藤四郎ヲ城主トス此外
方々一揆蜂起スシカレモ上方逆徒靜澄ノニ翌年三月中ニ
悉退治之

三日黒田如水豊前小倉城陥トシ如水去月廿八日富来城ヲセメ
トソクヨリ兵ヲ入シ中津ヲトラルトイハル城ヨラス直ニ唐津
へ出香春城ヲセムコニハ毛利壹岐守カ一族毛利九右衛門
在城ス寄手ノ来ルヲキイテ城ヲワタシ降参ス如水之
ヨリ小倉へ趣ノ処壹岐守城ヲ守ルコト不能今日城ヲステテ
逃退

四日豊後臼杵城ハ太田飛彈守在城ス飛彈守上方ニアリ
テ逆後ニ与シケレハ臼杵ヨリ佐賀関マテトリツケテ海陸ヲ
持クタル中川修理大夫同国星崎ヨリ先向ノ臼杵ヲ攻ントス
中川即從中川平允衛門古田喜太郎榎野五右衛門以下
千餘人大坂ヨリ渡海シ海上ノ番船ヲ追ハラシ陸路ヲヘテ
臼杵表ヘヨセントス太田カ兵北塩源内橋本傳十郎佐賀関
津久見佐志生ノ人質ヲトリ堅メ相待処へ中川カ足輕凡入
コム地下ニ鉄炮ヲウチカケテ鍋倉谷へ引入佐義長カ鼻
田中ヨリキヒシク鉄炮ヲ打ツ中川カ兵鍋倉山ヘトリリホリ足
軽ヲカク今日四日寅刻中川兵コノ取ヲトヲラントセシニ地下
人佐志生ノヲリロニ伏兵ヲオキ中川カ兵山下ヘラル取テ神主
伏ノ先サキカケシ矢石ヲ飛スコト急故ニ中川カ兵本道引カス
地下人取ノ案内ハシル有屋峠マカレシへ出合中川カ兵ヲ
ウチ中川カ兵士牧助右衛門討死雜人三十餘人ウチル地下人

ヲ首テラ白杵城ニラケル白杵勢コシキ、加勢トシテ戸井田太
郎左衛門三百餘人ヲ召具テ来中川カ軍船廿餘艘ヲ悉ク
下浦ニテキリトル中川勢不叶テ佐賀國ヘ引トル白杵勢ヲ悉ク
下人ニ皆淨土寺ヘ引籠ル中川勢攻之太田カ兵士橋本傳十
郎力戦ス田原紹忠宗像小助佐賀國ヨリ来ラ中川平右衛門
勢ニ加リ宮上山ニ備ヘ古田喜太郎ハ佐義長鼻ヲ討死ス加嶋
衛門討取之 榎野五右衛門ハ姫野清分マウケル中川平右衛門百餘
人ニテ白杵勢三四百人ヲ三度切崩シ神主作之允ニ討ラル戸
井田太郎左衛門小松原ニテ相戦紹忠打死ス佐子野喜三
郎得其頭中屋宗悦柴屋兩嘉等戦死ス兩月戦ニ双方
手負死人甚多シ中川自白杵ヲモムニ屈竟ク要害ナシ
ハ不及力其内ニ逆徒敗北ノキコヘケレハ太田城ヲケケラシ
去也

十日毛利輝元逆徒ニクミストイヘ尾吉川カ子ヲ関東ヘ内
通セシムルニ付テ周防長門兩國ヲ被下也今日則誓眷ヲ
賜フ同十二日井伊直政モ亦誓眷ヲ毛利ニ与エ
十七日鳴津御退治ノ事諸大名ヘ被仰出軍上出羽義
光以下賜眷十九日前田利政能登没能州利政初利長攻大聖寺守能
登黨逆徒也廿日尾花宗茂柳川楯籠リケレハ鍋嶋信濃守是茂味
方ニイリル軍忠ノ事ヲ筑後柳川ノ城ヲ可攻トテ十月十八日

二寄来二十九日立花吉右衛門兵ヲ率シ鍋嶋カ軍勢ヲ見分
此改鍋嶋カ兵ヲ殺多討取ハ廿日鍋嶋信濃守定茂等鍋嶋安藝左衛門
若狭ヲ備テ押寄立花左近將監宗茂公城ヲシテ家来共陣野和泉守
二陣嶋石見守三陣立花吉右衛門同三天夫也城ヲ二重出小瀬郡ハ沈傷
悪ク細道一筋ノ処ニテ左右ニ足カリアリシカルニ立花ノ先陣敗
シ立テケレハ右ノ細道ニ入ニテ手ヲ可入ヤウモナクツイテトモ崩
セリコノトキ立花三天夫殿ノ戦死ス和泉吉右衛門深キヲ
盾初メ加藤清政ハ立花トカキテ心友タリケレハ清政関東
執シ可申音ヲ云ケルヲ近日鍋嶋出勢トキコエハ一戦ヲトケ
其上ニ可頼入トイフククノ右合戦ノトキ加藤清政モ出ケレハ
立花清政カ陳ヘカケコミ城ヲ清政ニワタス清政カ兵和田備中
在番ス立花事シハラリ執事居シ其後清政執申メ棚倉ニテ
一万石ヲ賜フ柳川没落ノトキ立花カ家人ハ皆清政ウケトリ
テ是ヲ扶助スト也 或云上月
十日云々

十一月六日 伊達政宗十月景勝カ領分長井郡ノ内由原
ト三取ヘトリカケ放火ノ後今月今日福嶋ノ城ヲ攻ニカケメ
片倉備中守ヲ先キトシテ相スル 福嶋ニハ本庄越前守
重長在城重長カ組ニ松田孫三郎 後改 本庄出羽守上坂
采女先方衆ニ岡野九内カ道ニ栗田刑部岩井備中守
栗生美濃守 又給寺村平 栗圻因春 又号玳 青木新兵衛守
左衛門尉 川因春

有之トイハ各在々へ引コト有之時分ハ城中ニ兵士少シ
城ヨリ是怪ラ出シセリ合アリ城中見嶋左近政宗勢ヲ本
内ト云ヒテ十町ハカリ追立ツイニ折死ス城兵堅ク守付政
宗引トル先方衆戦
シワラ来

八日加藤清政ハ鍋嶋信濃守ニ會シ柳川ニ出ツヨリ国ハカ
ヘリ小西撰津守行長カ居城宇土へ發向シ今日八日攻之
大千人吉村左近擲手ハ清政自率兵ノ相向大村新八郎忠純
方ヨリ今里新左衛門加勢トノ鉄炮百五十挺ツ出タラメ手ノ
先手飯田角兵衛三宅喜藏後改角
左衛門也城兵外構へ出テフセ

キケルカ擲手ノ寄手ノ上ノ山ハハワルヲ見テ兵ヲ引成ニ合處擲手
ノ飯田三宅是ヲ追付ル南條玄珍返合セセリ合カ戦シテ引ル
寄手仕寄ヲイタシ竹タハラ付ヨスル城兵杉本次郎助夜中息
出テ擲手ノ竹把ヲヤク此時清政カ兵逆川忠兵衛出合テ
杉本ト相戦日下部與助田中兵助山田太郎右衛門同伊右衛
門等鎧ヲ合太刀打メ是ヲ拂フ班鳩平次堀下ニ押詰急ニノ
リヤラヒトスルノ処小西カ兵尾関箇原敗軍ヨリ直ニ宇上へノ
カシ来ルモノ多クハ清政方ヨリ城中ヘツイ入ル城兵カ屈氣衰
和ラヒテ城ヲアケワケス清政兵ヲ熊本ニカハス右夜込トキ
酒川忠兵衛キヲ負其血ヲ城門ノ扉ニ手形ヲイタシヤリテ
明日ノシルトス此度ノ戦切ノモノ清政皆感辱ヲ与工飯田
三宅

日下部通川田
中西山田也

後南条摺ラハシメ小西カ兵多ク清政ヨリ扶助ス

十六日秀忠卿参内ノタメ大坂ヲ出テ伏見ニ至リ至ラ

十八日秀忠卿参内京都ヲ入奥平美作守信昌守渡ス和

州郡山ノ城ヲワリシテ伏見ニ引テ伏見ノ城ヲ築カシムキ

ラ命セラレ而メ郡山ニ筒井カ子孫ヲ尋シメ順慶カ鋸筒井

主殿ヲ召出サシ一万石ヲ賜リ与カ卅騎付ラシテ郡山古

城ニサシラカル

増上寺住寺存翁和尚大坂西丸ニ至テ遂後速減ノ儀ヲ

賀ニ奉ル

十九日前田能登守利政能州ヲハナタル

山北小野寺遠江守領カラ召放タレ石州ニ放逐小野

寺ハ藤原秀卿カ後胤ナリ小野寺太郎道純仙北稲庭

ヲ領メヨリ後代々山北ニ在住シ元貴族タリソノ比

山北三戸沢本堂六卿寺有之テアルイハ南部ニ属シ

或ハ小野寺ニシタカイ日々闘争ヤム事ナシ天正五

年最上出羽守義光仙北ニ兵ヲ出シ小野寺遠江守

カ領分湯沢益田ノ両城ヲセメヲトス小野寺ハ由利ニ

御テ六卿兵庫頭聚カ領分ヲトモカクマ川西處ヲ押領ス故ニ

互ニ憤ラフクシテヒマヲ伺ノトコロニ関ヶ原一戦ニ及テ上掲

景勝カ兵最上領分ハ兵ヲイタシ相戦ワシヒテヲ伺テ

小野寺遠江守湯沢益田ニ奔向スリノ比湯沢ニハ
義光ノ家臣立岡豊前守在城ス益田ニハ長戸呂内
膳正在城ス各カタク守テ小野寺コレヲセムル事不能
六郷ハ此度ヲトモカクセ川ニ働テ小野寺カ押領分ヲ
トリカヘス向ノ逆徒敗北シケレハ同十月義光兵ヲ率ノ
由利秋田ノ兵ヲ催シ小野寺遠江守カ弟孫十郎カ
楯籠タル大森城ヲ攻メトシ孫十郎ヲ生捕リ内ニ上方逆
徒退散シケレハ此青具ニ最上義光ヨリ言上シ小野寺遠江
守義光領分ハ兼向ノ罪ニ由テ石州へ流刑セラレ六郷ハ小
野寺カ押領分ヲ攻トル一忠義ニテリテ則恩賜セラレ也

今月畿國ヲ功將ニ賜安藝備後五十一福嶋正則元尾州備州
二十五万石

播磨一國池田輝政元三州吉田
五万石紀伊一國四十淺野幸長元甲
州廿

五万石筑前一國卅四万石但山口玄蕃繩方卅六万石ノ北也博多二万
石御藏八也其後如水繩ヲ入五十三万石餘

黑田長政元豊前中津
十六万石筑後一國卅万石但山
口玄蕃繩也田中吉政元三州同
崎十万石

備前美作兩國豊臣秀秋元統
前出雲隱岐堀尾吉晴元遠州
濱松六

万石信濃守吉氏領之吉晴、
筑前府中領六万石合十一万石美作國岡對馬守豊元遠州
吉豊前豊後本築卅

長門丹後一國
領八万石伯耆兵因幡内中村一忠一角後改松平伯
耆守元駿河一國

若狹一國京極高次元丹州
大津丹後一國京極高政元信州飯田
八万石

伊豫半國松山加藤嘉明同州半國今治二十万
三千石藤原高虎

元八万
三千石因幡鳥取池田長吉備中
守飛彈一國金森法印長近丹

波福知出有馬豊氏

元遠州横濱賀

美濃高須徳永法印昌照勢州

神戸一押直盛肥後一國

五十四万石

加藤清政能登先小松大聖

寺前田利長越前結城三河守秀康尾張松平下野守忠吉

此外小身侍恩賞與モノ不可奉數秀頼卿ヨリ小出播

磨守吉晨来會ノ源君ヨリ此旨ヲ命セラレ

十二日黒田長政カ許ヨリ肩衝ヲ献上是ハ京都ノ所人草菴

ト云者ノ重宝ナリ然ルヲ石田三成黄金三千兩ニ買草菴肩

衝ト号ス今度一亂ノ時草菴見舞ニ行タリ三成此肩衝ヲ

草菴ニ与ヘテ若此度ノ一戦ニ利ヲ得ハ其取返スヘシ討死

トハ是ニ茶ヲ入テ我ニ手向ヨトテ与ユ草菴此肩衝ヲ以テ筑

前ニ下リ毎日近辺ノ者ヲ集ラセ教奇ヲス人ヲヤシニテ長政

ニ告ル故是ヲ名捕テ子細ヲ尋子肩衝ヲ奪イ献上草菴

ス長政ニ下サル

大坂西丸ニライテ井伊直政本多忠勝榊原康政本多佐渡守

正信太夫保相模守忠隣平岩主計頭親吉ヲメシテ公

達ノ内御家督御評後ヨリ正信申シケル御長年ト云御武

勇ト云三川守秀康卿ニシクハ不可有ノ旨言上ス忠隣云今天

下ノ御政務ヲマカセニイラセラシニ秀忠卿ニシクハカラスト云榊

原康政モ秀忠卿ヲ執シ申フト忠隣カフト追テイワシモ考

可申上下ノ御意ニテ其日ハ退出次ノ日又六人ヲ召ノ愚意ヲ

此冬松平左馬允

志願寺金山

一万五千石本領

石名武州松

守至正元年内藤

三左門信成守

少右之明年

ノヘシメテ正信又如昨日云忠隣モ亦昨日コトノ言上スルニ付

テ兩人ニ命セラレテ是非ヲ評論セシメ玉フ其後源君御恩慮

ヲクテサレ忠隣ノ申上ル処ニマカセ玉フ

足利學校三要長老ニ命シ玉イテ貞觀政要孔子家語武經

七書ヲ板行セシメ玉フ

慶長六年正月元日源君秀頼卿ニ御對顔其後諸大名皆西

丸ニ群参ノ年始ラ賀ス

二月源君御家人ニ領地ヲ賜フ江州佐和井伊直勝兵部勢州

兼名本多忠勝中務大捕濃州加納奥平信昌美作守同州大垣石川

康通長門三州同崎本多康重同州吉良本多康俊後

同州吉田松平家清信番遠州濱松松平家廣内膳遠州

懸川松平定勝隱岐守同州横須賀大須賀忠政出前駿州田

中酒井忠利備後守駿州府中内藤信成三左工同州興國寺

天野康景三郎兵衛同州三枚橋大久保忠佐次右上徳大多喜本

多忠朝出雲守各城守トナル也此外采地ノ令若干ナリ

今月伊達政宗伊達郡へ働テ放火ス官代ト云耶ニテ政宗戰

勝數多打トル政宗方柴田小平次守屋伊豆康股喜名刺

門茂庭兵藏戰切リ景勝兵岡野尤内才道二小瀬美濃永

井喜左衛門各戰切アリ
廿七日秀頼卿權大納言ニ任セラレ元權中納言

廿八日秀惠卿正二位大納言ニ任シ玉フ廿九日参内ニシクテ
拜礼アリ此日松平下野守忠吉ハ侍從ニ轉任也

今日廿八日伊達政宗信之郡ヲ放火セシメ素折ニ陳テ張テ

今日瀬ノ上ハ働キ福嶋ヲセノントス 素折ヨリ瀬ノ上ニテ三里余
福嶋城在番ハ大関跡七宮

部休理也本城重長カ
組ノ先方衆皆在城 ソノ間ニ瀬ノ上ノ川アリ 自瀬ノ上至
福嶋ヨ

リ左ノ羽黒山ノ山陰福嶋勢伏テ置テ政宗カ来ルヲ待政宗ハ不知

之瀬ノ上ノ川ハ夕マテラコヨセ上相勢ノ体ヲミアラセ川ヲコシカニ

取ラ伏ラカコシコトクク追討上杉方岡野左内青木新兵衛永

井善尤衛門小田切取尤衛門 オ野伊豆
又号道ニ 栗生美濃富地甚立左

衛門布施次郎右衛門北川因春安田勘介 蒲生家
以下川ヲ

コシテ追ウツ栗生云ケルハ敵大勢也川ヲ前ニテテ、可オ捕トイテ

不用之川ヲユス政宗勢引ケシ川中ニテ戦北川布施安田打死ス

政宗川中ニテ岡尤内カ狸々皮ノ羽織ヲニカキル處ヲ栗生

横ヨリカケラセヌヤル處ニ福嶋城ヨリ大勢出合ケル政宗

ソイニ兵ヲ引入ル此戦ニ政宗カ陳取素折へ築川ヨリ須田大炊

助働ヲトクク焼立小荷駄ヲキリクツシ政宗カ幕ニ取ラカ

ル也政宗方素折ノ留守ニ小原ト云侍ノ後家方ヨリ出セル

後ノ鉄炮是輕々人々差置須田大炊助是ヲ不殘打殺メ首ヲ取也往村

ヲ河武隈川ヲコシ引取政宗方ニモ兼テコラ氣遣ケル築川素折ノ間ニ
大河ヲスル川流ル敵コレヲコレテハ来ルマシキト由教シテテ也

素折ノ本陳ヤキ立ラシ小荷駄多ルニニ政宗勢敗北也 或云川ヨリ

手前ニテ永井岡野科粟
生敵ツラ五人立トマル也

廿八日ノ晚則政宗勢片倉備中ヲ先手トシ築川ニテ押寄廿

九日ニ築川ヲセムヘキ取子細々多人教引入此取城ヨリ蹤ヲ慕フテ片倉

備中引取子久ラ政宗下知濱田治部ニ鉄炮百挺 松岡清若門百挺
出岸修理亮百挺 差添

迎備遣ス備中守差図シテ濱田川向テ入レ山岸カ組ヲ備中守カ跡ヲ付

テ備シメ片倉兵ラスメ築川勢ヲ追テ其イキライ引トルトキ敵付ル山

岸ウケトリテウチ入りマ引取ル川分ニ松岡カ組ヲタテ置ケレ

ハ敵ツクナラス築川勢川ヲコレテ慕フトイハレ濱田カ備堅ラシ

テテルケナク引トル也政宗ト景勝勢カトリ合三月廿八日

ニテ也

四月廿四日庄内酒田落城初庄内三郡ノ主ヲ惣屋形吉氏ト云

吉氏無道甚シクニニ庄内酒田城主東禪寺筑前守虎

林淨林ナト云モノ言合セテ吉氏ノ旨シ上摺家本庄越前守

重長ニ内通ノ重長ヲ末子ヲ養テ庄内屋形トセシト約ス其内

ニ最上義光兵ヲ出シ庄内ヲ退治シ大山城ニ中山玄蕃頭ヲ入

置テ庄内ヲヲチメシム其後本庄越前守重長越後ヨリ兵ヲ

出メ庄内ヲ兼捕 千安合戦
此取也 テ上摺押領ス庄内河南大山ニ下

治右衛門秀久 初名對馬守 在城シ川北東禪寺 今号亀崎也又曰
酒田々々元所名也

城ニ志多修理亮川村兵藏 秀左衛門子 在城ス去年景勝逆意

ヲ企ニ付テ河北河南ニ兩將最上領へ押入敷城ヲ兼捕上
方逆後敗北ニ付テ今年由利二郡諸將志尾津孫三郎仁賀保
兵庫頭内越孫太郎滝沢刑部右屋右兵衛并三戸沢等出
勢ス最上出羽守義光ヨリ里見越後守大將分ニテ酒田押
寄今月廿三日由利ヨリ庄内へコユルコハロスガソトテ取
出
ニテ酒田勢川村兵威出テ相戦廿四日四十里ノハマニテ仁加保
兵庫酒延越前自身戦切リ叔外郎追棄入城主ゾイ今日廿四日
降参志多修理亮ハ會津越之之下治右衛門堅守度相戦太室等
城兵松丹後守戦死然トイテ會津ヨリ取テテ加勢ナラヌ不覺悟テ
大軍難支シハ最上義光降参ノ太室城渡ス太室城立東兵部主徳七
人打死一粟ヒシカニ城ヲ遁出テ最上降参^{二粟後直}病ノ本城太也義光
是ヨリ大法寺城ヲ構鶴岡ト稱則義光隱居城取テ執國因幡城代
不也^{義光領取上}景勝切取領分佐渡景勝家臣川村孝右衛門居住イシ
四方ヲ堅固ニシモル処田中清六トスモノ^{元京家西人}源君へ申
上少々人衆カリモヨシ佐渡へワタリ川村ヲスカシツイ降参
セシメ源君へ御礼申上シメ田中清六川村孝右衛門兩
人五千石宛被下佐渡へ代官被仰付也其後田中川村
改易シラテ太保十兵衛代官也

六月大津城ヲワリテ膳取城ヲ築シメ至フ戸田左門西被下^{元五}
七月上相景勝結城三河守秀康ヲ以テサマクナケキ申ニ付

罪ヲ御免由此七月朔日會津ヲ立

八月廿四日上榻中納言景勝奥州會津ヲ没収セシ相州米沢三十万

石ヲ被下

廿五日上杉景勝奥州會津六千石ヲ蒲生越前守秀行ニ賜リ庄
内三郡ヲ取上出羽守義光ニ被下也然奥州會津請取大
名五番二万六千五十人又日ニ會津ヘウツ立可請取ノ旨廿
四日取上出羽守義光ニ御朱印ヲ賜フ南部信濃守戸沢
九郎二郎政盛本堂源七郎六郎兵庫頭政業秋田藤次郎仁賀保
兵庫頭滝沢刑部内越孫太郎岩屋右兵衛取上修理大夫

出羽守越後侍從堀秀溝口伯耆守也

庄内ハ堀侍從ニ可被下ノ旨被命トイハ取上義光切取ノ地
ノ由ニ付義光ニ被下也

慶長七年四月十日嶋津修理大夫義久八道奄伯大隅薩摩

兩國ノ御朱印ヲ頂戴ス

五月八日佐行右京大夫義宣常州ノ領地八十萬石ヲ減シ出
羽ノ秋田ニテ貳十萬石ヲ賜フ初佐行ハ小山ヨリ嶋田伊白ヲ
被遣御入魂ノ儀美二人質ノイヲ被仰遣ノ如佐行人質ハ
大坂ヘ遣置也御入魂ハ辱トテ人質ヲ不出逆徒靜澄ニ付佐行
ヘモ安堵ノ御使ヲ被遣今羊佐行ヲ召大坂ヘ人質ヲ出スニ江戸
人質ヲ不出ハ尤也此方ヨリ人質ノイ仰ツカワサレタルノ事

マリ也但岩城忠二郎ヲ人質同意ニ指置逆後蜂起ニ付テ
ヒソカニ忠二郎病氣ニイタシ引取タルノ佐竹前方ノ律義ニ
不似合也古ヨリ兄弟父子敵味方トナルノ定ルル也
所佐竹不義ノ至ナリト被仰出テツイニ秋田久保多ノ所番也



